

令和7年度第2回朝霞市環境審議会 次第

日 時 令和7年10月29日（水）

午前10時00分

場 所 朝霞市役所 別館5階 大会議室（手前）

1 開 会

2 議 題

（1）朝霞の環境（令和6年度年次報告書）（案）について

（2）第3次朝霞市環境基本計画実施計画（令和6年度実績版）

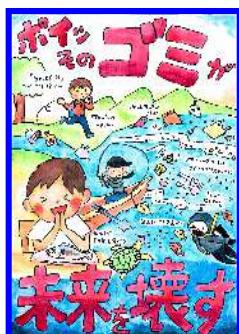
（令和4年度～令和7年度）（案）について

（3）その他

3 閉 会

朝霞の環境

(令和 6 年度年次報告書) (案)



令和 6 年度環境美化ポスター 入選作品

詳しくは 80・81 ページ参照

令和 7 年 月

朝霞市

年次報告書「朝霞の環境」とは

朝霞市では、「朝霞市住み良い環境づくり基本条例」の基本理念にのっとり、望ましい環境像『みんなでつくる 水とみどりが豊かな 環境にやさしいまち 朝霞』の実現を目標とする「第3次朝霞市環境基本計画」を令和4年3月に策定しました。そして、この望ましい環境像を実現するため、

【環境目標】

【個別目標】

望ましい
環境像

みんなでつくる
水とみどりが豊かな
環境にやさしいまち
朝霞



自然と人との共生

生き物がすみやすく、豊かな
自然が身近に感じられるまち

1-1

生き物がすめる環境を大切にする

1-2

みどり豊かなまちをまもり育てる



快適な生活環境の確保

安心で快適に、
ずっと住み続けられるまち

2-1

きれいな空気をまもる

2-2

きれいな水と土をまもる

2-3

快適で住み良いまちをつくる



脱炭素・循環型社会 の推進

限りある資源を大切にし、
環境に負担をかけないまち

3-1

クリーンなエネルギーをつくる

3-2

省エネルギー・省資源をすすめる

3-3

地球に負荷の少ないまちをつくる

3-4

資源を大切に、繰り返し使う

3-5

気候の変化に備える



パートナーシップによる 環境活動の推進

みんなで環境を
学び、考え、取り組むまち

4-1

環境についてみんなで学ぶ

4-2

環境活動にみんなで参加し行動する

下記の4つの要素を基本として各環境目標を設定し、その目標の達成に向けた環境施策を展開しています。

この年次報告書「朝霞の環境」は、「朝霞市住み良い環境づくり基本条例」第7条に基づき、
その取組状況（前年度の実績）を報告書としてまとめ、公表するものです。

【実施施策】

【ページ】

【関連する SDGs 目標】

1-1-1 健全な水循環の形成	1
1-1-2 生物の生息・生育環境の保全	2
1-1-3 生物多様性の確保	3
1-2-1 緑地・樹林・樹木の保全	6
1-2-2 農地の保全と活用	9
1-2-3 都市の緑化	10
1-2-4 緑豊かな景観の形成	11



2-1-1 大気環境の保全	13
2-1-2 惡臭の防止	19
2-2-1 河川の水質保全	20
2-2-2 地下水汚染・土壤汚染の防止	25
2-3-1 騒音・振動の防止	27
2-3-2 日照阻害、電波障害の防止	33
2-3-3 環境美化の推進	33



3-1-1 再生可能エネルギーの普及促進	48
3-1-2 公共施設への再生可能エネルギーの導入促進	51
3-2-1 環境に配慮した行動の推進	52
3-2-2 水の有効利用	57
3-3-1 環境に配慮した移動手段の推進	59
3-3-2 コンパクトで利便性の高い生活環境整備	61
3-4-1 廃棄物の排出抑制の推進	63
3-4-2 資源化の推進	65
3-4-3 廃棄物の適正処理の推進	66
3-5-1 気候変動に関する影響の把握と普及啓発	69
3-5-2 気候変動への適応策の推進	69

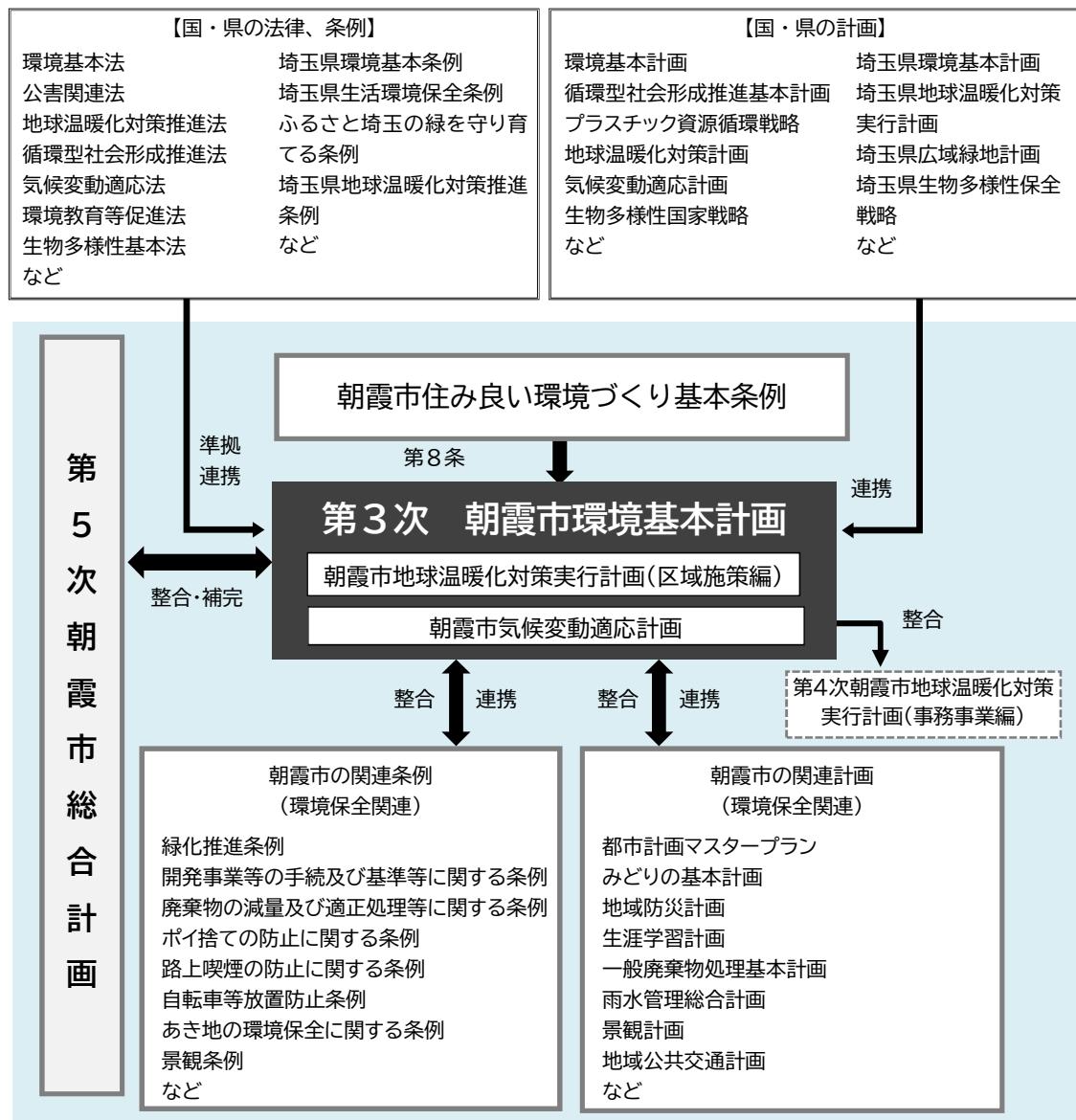


4-1-1 環境教育や環境学習の機会の提供	75
4-1-2 環境情報の発信と普及啓発	82
4-2-1 市民団体の環境保全活動支援	83
4-2-2 環境保全活動団体の育成、ネットワークの形成等	86



■第3次朝霞市環境基本計画における環境施策とSDGsとの関係

■朝霞市環境基本計画の位置付け



■環境基本計画（朝霞市住み良い環境づくり基本条例 第8条）

- 市長は、環境の保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境の保全等に関する基本的な計画（以下「環境基本計画」という。）を策定するものとする。
- 環境基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。
 - 環境の保全等に関する長期的な目標及び総合的な施策の大綱
 - その他環境の保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項
- 市長は、環境基本計画を策定するに当たっては、朝霞市環境審議会の意見を聴かなければならない。
- 市長は、環境基本計画を策定したときには、速やかにこれを公表するものとする。

第1章 環境施策の展開

1 自然と人との共生

1-1 生き物がすめる環境を大切にする



1	健全な水循環の形成	1
(1)	湧水地の保全	1
(2)	雨水の浸透対策の推進	1
2	生物の生息・生育環境の保全	2
(1)	雑木林の維持・管理	2
(2)	自然を活かした水辺づくり	2
3	生物多様性の確保	3
(1)	生物多様性、生態系情報の蓄積・提供	3
(2)	外来生物の計画的な防除	3

1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

1	緑地・樹林・樹木の保全	6
(1)	市内に残る貴重な緑の保全	6
(2)	市民との協働による公園・広場・道路の利活用	6
(3)	緑地の公有地化	7
(4)	公園・緑地の確保	7
2	農地の保全と活用	9
(1)	環境保全型農業の推進	9
(2)	市民農園や農業体験の充実	9
(3)	生産緑地地区及び特定生産緑地の指定	9
(4)	市街化調整区域の農地の保全	9
3	都市の緑化	10
(1)	公共施設の緑化	10
(2)	住宅地・民間施設の緑化	11
4	緑豊かな景観の形成	11
(1)	親水空間の保全と創出(水とのふれあい)	11
(2)	うるおいのある景観づくり	11
(3)	史跡・文化財等の保全と活用	12

2 快適な生活環境の確保

2-1 きれいな空気をまもる



1	大気環境の保全	13
(1)	大気環境の監視、改善	13
(2)	放射性物質の監視	18
2	悪臭の防止	19
(1)	悪臭の防止	19

2-2 きれいな水と土をまもる

1	河川の水質保全	20
(1)	河川の水質の監視	20
(2)	生活排水処理施設整備の推進	24
(3)	工場・事業場の排出水の監視・指導	24
2	地下水汚染・土壤汚染の防止	25
(1)	地下水汚染・土壤汚染の防止	25

2-3 快適で住み良いまちをつくる

1	騒音・振動の防止	27
(1)	自動車等の騒音・振動の監視	27
(2)	工場・事業場の騒音・振動の防止・指導	31
2	日照阻害、電波障害の防止	33
(1)	日照阻害、電波障害の防止	33
3	環境美化の推進	33
(1)	散乱ごみ・不法投棄対策	33
(2)	路上喫煙の防止	36
(3)	ペットマナーの向上	37
(4)	放置自転車対策	42
(5)	あき地・空き家の環境保全	43
(6)	鳥獣・害虫被害の防止	44

3 脱炭素・循環型社会の推進

3-1 クリーンなエネルギーをつくる



1	再生可能エネルギーの普及促進	48
(1)	住宅用太陽光発電等設置の普及推進	48
2	公共施設への再生可能エネルギーの導入促進	51
(1)	公共施設の太陽光発電等の導入	51

3-2 省エネルギー・省資源をすすめる

1	環境に配慮した行動の推進	52
(1)	エコライフ・省エネルギーの普及・促進	52
(2)	地球温暖化対策実行計画の推進	54
2	水の有効利用	57
(1)	節水の啓発	57
(2)	雨水の利用	57

3-3 地球に負荷の少ないまちをつくる

1	環境に配慮した移動手段の推進	59
(1)	歩道、自転車利用環境等の充実	59
(2)	次世代自動車の普及促進	61
2	コンパクトで利便性の高い生活環境整備	61
(1)	広域交通ネットワーク形成	61
(2)	公共交通機関の利用環境の充実	62

3-4 資源を大切に、繰り返し使う

1	廃棄物の排出抑制の推進	63
(1)	3Rの推進	63
(2)	生ごみの減量化	63
(3)	食品ロス削減	64
(4)	廃棄物処理や資源循環の重要性に関する学習機会の充実	64
(5)	事業者に対する適正排出・適正処理の指導	64
2	資源化の推進	65
(1)	地域リサイクル団体活動の推進	65
(2)	廃棄物の資源化の促進	65
3	廃棄物の適正処理の推進	66
(1)	適正処理の推進	66

3-5 気候の変化に備える

1	気候変動に関する影響の把握と普及啓発	69
(1)	気候変動に関する影響の把握	69
(2)	適応策に関する普及啓発	69
2	気候変動への適応策の推進	69
(1)	農業分野	69
(2)	水環境・水資源分野	70
(3)	自然生態系分野	70
(4)	自然災害分野	70
(5)	健康分野	73
(6)	市民生活・都市生活分野（ヒートアイランド対策等）	73

4 パートナーシップによる環境活動の推進**4-1 環境についてみんなで学ぶ**

1	環境教育や環境学習の機会の提供	75
(1)	環境教育や環境学習の機会の提供	75
2	環境情報の発信と普及啓発	82
(1)	環境情報の収集と発信	82

4-2 環境活動にみんなで参加し行動する

1	市民団体の環境保全活動支援	84
(1)	環境に関する有識者等の活用	84
(2)	市民団体の環境保全活動支援	84
2	環境保全活動団体の育成、ネットワークの形成等	87
(1)	環境保全活動団体の育成、ネットワークの形成等	87

第2章 資料編**1 大気関係**

(1)	二酸化窒素調査結果	88
(2)	大気粉じん調査結果	92
(3)	公共施設アスベスト調査結果（無機質纖維濃度）	92
(4)	ダイオキシン類調査結果（大気）	92
(5)	常時監視測定結果（埼玉県実施調査）	92

2 水質関係

(1)	河川水質調査結果	95
(2)	小排水路水質調査結果	106

3 地下水関係

地下水概況調査結果	108
-----------	-----

4 魚類関係

魚類調査結果	109
--------	-----

5 放射線測定結果**5-1 空間放射線測定**

(1)	市役所敷地内	113
(2)	小学校	113
(3)	中学校	113

(4) 保育園	114
(5) 児童遊園地・都市公園	114
(6) 市内除染箇所測定(ホットスポット)	115

5-2 放射性物質測定

(1) 水道水	116
(2) 焼却灰	116

第3章 用語解説

1 用語解説	117
--------	-----

本文中に*印のある用語の解説を、50音順に掲載しています。

QRコード一覧

※読み取ると、各ホームページに接続できます。

創エネ・省エネ設備設置費補助金	P 48	(一財) 家電製品協会 家電リサイクル券センター	P 66
			
こどもエコクラブ	P 75	あさか環境市民会議	P 78
			○市民会議ホームページ 
あさか環境かるた	P 76	○市ホームページ 	
読み札	絵札	解説   	

第1章

環境施策の展開

環境目標1 自然と人との共生



生き物がすみやすく、豊かな自然が身近に感じられるまち

1-1 生き物がすめる環境を大切にする

1 健全な水循環の形成

(1) 湧水地の保全

湧水は、地域の生活や文化、生態系と深い関わりを持っており、身近な水源であるとともに、やすらぎの場として親しまれてきました。こうした湧水の保全のためには、十分な地下水が確保されなくてはなりません。このため、市では、雨水を地下に浸透させる設備や透水性舗装の整備を進めるなど、地下水を増やす取り組みを行うとともに、指定文化財等の公有地内の湧水地については、除草・清掃を行いながら保全しています。

令和6年度は、湧水地の有機塩素系化合物による汚染状況の概況を把握するために、1地点の湧水における代表的な物質のトリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタンについて調査しました。

※詳細な調査結果については、資料編の108ページに掲載しています。

【調査結果（採水場所：わくわく田島緑地 採水日：令和6年12月10日）】

物 質 名	調査地点数	基準値超過地点数
トリクロロエチレン	1	0
テトラクロロエチレン	1	0
1,1,1-トリクロロエタン	1	0

(2) 雨水の浸透対策の推進

市では、湧水箇所の保全及び水量の確保に有効な農地の保全、自然林の保全、透水性舗装や雨水浸透*ますの設置などによる、雨水の地下水浸透性の確保を積極的に推進しています。

令和4年度も歩道整備事業の際に、雨水の地下水浸透性を確保するため、透水性舗装を施工しました。また、自然環境が持つ多様な機能を生かしたグリーンインフラの考え方を取り入れ、歩車道の雨水を地中に浸透させるレインガーデン（雨庭）の整備を進めています。そのほか、治水対策及び地下水、湧水の保全と復活のため、500m²以上の規模の開発行為を行う場合に「朝霞市開発事業等の手続及び基準等に関する条例」により貯留槽・浸透トレーンチの設置について指導を行っています。

【貯留槽・浸透トレーンチ設置状況】

年度	貯留槽		浸透トレーンチ	
	件数	規模	件数	規模
令和6年度（設置件数）	1	96.8 m ³	11	576.9 m ³
令和5年度（設置件数）	2	98.7 m ³	13	508.8 m ³
令和4年度（設置件数）	2	311.0 m ³	21	1,154.0 m ³

年度	開発事業件数に対する雨水流出抑制施設設置割合
令和6年度	100%
令和5年度	100%
令和4年度	100%

○透水性舗装等の推進

透水性舗装は、地中に保持された水分が蒸発することにより、通常の舗装に比べ、路面の高温化を抑制する効果があり、街路樹の育成にも良い影響を与え道路の緑化にも役立つことから、市では、歩道舗装に可能な限り、透水性舗装を行っています。

【透水性舗装状況】

年度	透水性舗装面積
令和 6 年度	263.0 m ²
令和 5 年度	181.7 m ²
令和 4 年度	371.0 m ²

2 生物の生息・生育環境の保全

(1) 雜木林の維持・管理

市では、「朝霞市みどりの基本計画」（平成28年3月改訂）により、樹林地の保全を推進しています。

斜面林については、生態系だけでなく、景観、防災面においても重要であることから、特別緑地保全地区*や保護地区*として指定しています。また、市民団体との協働による里山の再生活動などにより、その保全を図っています。

令和6年度未現在、特別緑地保全地区5地区2.0ha、保護地区24地区
77,593.96m²、保護樹木94本を指定しています。

(2) 自然を活かした水辺づくり

市では、水辺の生態系の保全や親しみやすい水辺空間の確保に努めています。

河川については、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境並びに多様な河川風景を保全あるいは創出するために、河川管理者に対し協議・要望を行っています。

埼玉県では、平成24年度から、一つの川を上流から下流まで、地元自治体が実施するまちづくりなどと連携して、線的、面的に広がりを持った川の再生を行う、「川のまるごと再生プロジェクト」を開始し、黒目川が本プロジェクト選定河川となりました。

河川の地域特性を生かし自然と調和し地域住民に親しまれる川として再生するため、地域住民、埼玉県、市が協働で事業計画、利活用、維持管理等について協議検討し、平成27年度に整備が完了しました。

3 生物多様性の確保

(1) 生物多様性、生態系情報の蓄積・提供

「生物多様性」とは、様々な生物が様々な環境の中で、直接または間接的に支えあい、一方で競争しながらバランスを保って生きていることをいいます。

市では、生物多様性の大切さをご理解いただくため、市ホームページで生き物マップを公表し、生物多様性の保全の重要性についてお知らせするとともに、次代を担う子供達が身近な生き物に関心を持ち、生物多様性に対する理解を深める機会として、生き物調査を実施しており、実際に自然や生き物に触れる中で、生物多様性を守る重要性を伝えていく機会を提供しています。また年に1度、(公財)埼玉県生態系保護協会の専務理事を座長とし生物多様性市民懇談会を開催しています。

(2) 外来生物の計画的な防除

外来生物とは・・・もともと日本にいなかった生き物で、人間によって外国からもちこまれたものることをいいます。外来生物は、日本でわかっているだけでも2,000種を超えます。自然環境の中で特に問題となっているのが、侵略的な外来生物です。

特定外来生物とは・・・外来生物の中で、地域の自然に大きな影響を与え、もともといた動物や植物を脅かすおそれのあるものを侵略的外来生物といい、その中で、生態系や人の生命・身体、農林水産業等に被害を与えるものとして国が法律に基づき指定した生物を特定外来生物といい、駆除の対象としています。現在、162種類あまりの動植物が指定されています。

※外来生物はなぜいけないのか・・・

- 1 もともとその地域にいる生き物の居場所を奪ったり、食べ物の取り合いをして生態系に大きな影響を与えます。(アライグマなど)
- 2 毒をもっていたり、人をかんだりして危険があるものがいます。
(カミツキガメなど)
- 3 農作物や魚を食べてしまいます。(アライグマ、ブラックバスなど)

市内でも特定外来生物であるアライグマの被害が増えています。アライグマは、可愛らしい姿で人気が出てペットとして飼われていましたが、逃げ出したり捨てられたりして野生化し、増えたもので、元来日本にはいなかった外来（北米や中南米原産）の動物です。

市では「埼玉県アライグマ防除実施計画」に基づき、アライグマ捕獲を実施しております。

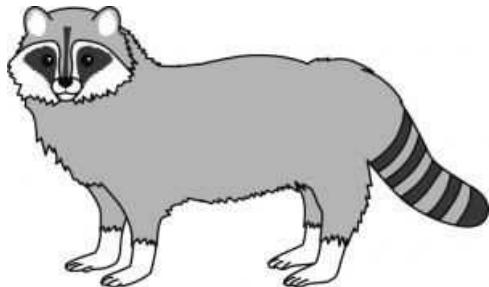
アライグマ捕獲数

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
捕獲数	112	88	76

«埼玉県内にいる代表的な特定外来生物»

アライグマ

姿はタヌキに似ているが、尾が長く、黒色と茶褐色のしま模様となっている。ひげが白い。



カミツキガメ

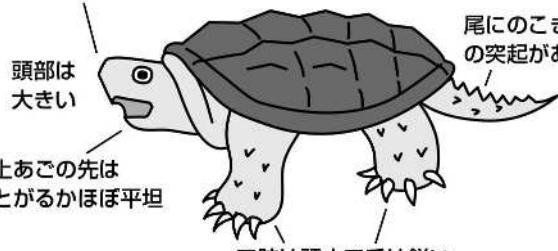
危険を感じると首をすばやくのばしてかみつこうとする

頭部は大きい

上あごの先はとがるかほぼ平坦

尾にのこぎり状の突起がある

四肢は頑丈で爪は鋭い

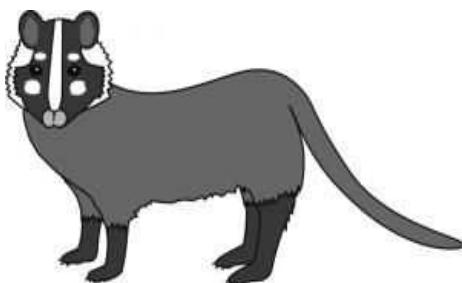


《アライグマと間違いややすい動物》

※特定外来生物ではないため、市でむやみに捕獲・駆除ができません。

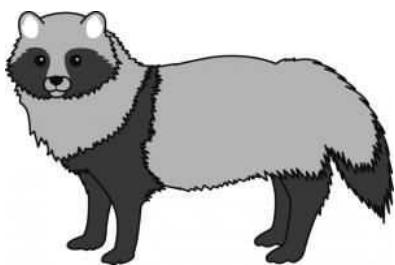
ハクビシン

鼻から頭にかけて白いたて線があり、尾は細長く、木登りが得意である。外来生物。



タヌキ

アライグマと間違いややすいが、しっぽは太く短く、尾にしま模様がない。ひげが黒い。日本の代表的な哺乳類。



被害にあわないために注意すること

特定外来生物に限らず、野生生物により生活環境への被害が出ることがあります。被害を未然に防ぐために、次のことに注意しましょう。

・エサを与えない

故意のエサやりは、人馴れにもつながり個体数が増えてファン害も拡がるためやめましょう。また、生ごみの出し方が悪いとエサ場になることもあるため、生ごみは収集日の朝に出す（前日などに出さない）などごみ出しのルールをきちんと守るとともに、生ごみは見えないように新聞紙などに包んで捨てるなどの配慮もお願いします。

木に成る果実も放置せず収穫する、畑などの農作物も間引いたものは放置せずには片づけましょう。

・家屋の点検をする

床下や戸袋、屋根裏など、侵入できる穴があると住み着いてしまい、騒音やファン尿などによる被害になることもあります。風通しなど本来の機能を保ちながらも、金網などで物理的に塞ぐなどの対策が有効です。

・近づかない

むやみに近づいたりしないようにしましょう。万一、噛まれたりすると感染症などの危険性があります。

・拡げない

動物の遺棄は犯罪です。

ほかにもこんな生物が・・・

近年、海外から流通などの経路により、セアカゴケグモなどの特定外来生物が日本国内で発見され報道されています。

万が一、発見された場合は、市または西部環境管理事務所

（電話：049-244-1250）にご連絡ください。



1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

1 緑地・樹林・樹木の保全

(1) 市内に残る貴重な緑の保全

市では、市民の良好な生活環境の形成に寄与するため「朝霞市緑化推進条例」に基づき、武蔵野の原風景でもある屋敷林、社寺林やまとまりのある樹林、地域のシンボルとなる大木について、地権者の方々のご理解とご協力をいただき、平成元年より保護地区・保護樹木として指定し、緑地の保護・保全に努めています。

また、同条例に基づき、市長の諮問機関として「朝霞市緑化推進会議」を設置し、緑地の保護及び緑化の推進を図っています。

【保護地区及び保護樹木】

年度	市内全域における緑被面積※	保護地区数	保護地区面積	保護樹木数
令和6年度	未調査	24 地区	77,593.96 m ²	94 本
令和5年度	34.8%	25 地区	78,555.96 m ²	95 本
令和4年度	未調査	27 地区	83,412.96 m ²	93 本

※緑被率は、5年に一度調査する緑被面積調査により割合を出しています。

(参考：平成30年度 36.1%)

(2) 市民との協働による公園・広場・道路の利活用

市では、平成24年7月に、国による宿舎予定地跡地の現状回復工事が完了したことから、暫定的に市民が利用できるよう、関東財務局と管理委託契約を締結し、平成24年11月より基地跡地暫定利用広場「朝霞の森」を市民との協働によりオープンしました。

この「朝霞の森」は、市民のみなさんと一緒に「使いながらつくる、つくりながら考える広場」として、市民中心の管理運営に取り組んでいます。

また、令和2年2月に、市役所前（はじまりのケヤキ）を起点として南口広場までの延長約800mに及ぶ広幅員の緑道としてシンボルロードを整備しました。

(3) 緑地の公有地化

市では、緑地を公有地化することで公共緑地を増やし、永続的な緑地の保全に努めています。また、市民の憩いとやすらぎの場となる都市公園を確保し、良好な生活環境の向上を図るため、街区公園の整備を進めています。

(令和7年3月31日現在)

都 市 公 園 【44箇所 308,746.40 m ² 】	街 区 公 園	83,250.44 m ²
	歴 史 公 園	15,371.76 m ²
	近 隣 公 園	41,898.30 m ²
	地 区 公 園	143,953.01 m ²
	都 市 緑 地	24,272.89 m ²
児 童 遊 園 地 【83箇所 28,009.27 m ² 】	公 有 地	15,055.46 m ²
	民 有 地	12,953.81 m ²
公 的 緑 地 【12箇所 35,600.98 m ² 】	朝 志 ケ 丘 緑 地	2,036.26 m ²
	宮 戸 緑 地	5,471.39 m ²
	宮 戸 三 丁 目 緑 地	78.00 m ²
	宮 戸 四 丁 目 緑 地	396.00 m ²
	岡 緑 地	4,299.65 m ²
	代 官 水 緑 地	3,808.04 m ² (民有地 105.21 m ² 含む)
	田 島 緑 地	3,000.00 m ²
	根 岸 台 八 丁 目 緑 地	9,079.94 m ² (民有地 4,658.26 m ² 含む)
	向 山 緑 地	70.02 m ²
	公 団 前 緑 地	49.18 m ²
	新 屋 敷 緑 地	3,048.28 m ²
	(仮称)稻荷山緑地	4,264.22 m ²

1人当たりの公園面積（公園面積／人口）	
令和6年度	2.12 m ²
令和5年度	2.12 m ²
令和4年度	2.14 m ²

(4) 公園・緑地の確保

市では、良好な生活環境の向上を図るため、市民の憩いとやすらぎの場となる都市公園等を整備しています。

公園施設を安全で快適に利用していただくため、令和6年度は、都市公園及び児童遊園地の施設の整備・改修工事を22件実施しました。

また、防災・減災や地域づくり、生物生息空間の場の提供など、複数の課題の解決を目指すため、自然環境が持っている様々な機能（生物多様性、良好な景観をつくる、気温上昇を抑制する等）をインフラ整備の中で積極的に活用するグリーンインフラを取り入れた公園・緑地・道路及び歩道の整備を行っています。

西久保公園



代官水特別緑地保全地区



宮戸特別緑地保全地区



郷戸特別緑地保全地区



○ オープンスペース*の確保

市では、市民生活の安全とゆとりのあるまちづくりを進めるためだけではなく、障がい者の生活圏の拡大と社会参加の促進及び利用者の利便性の向上を図るため、オープンスペースやユニバーサルデザイン*を取り入れたまちづくりに努めています。

○ 街路樹の整備

市では、事業認可を受けて事業を進めている都市計画道路（岡通線・駅東通線）の整備に際し、街路樹の植栽等、都市計画道路の緑化を推進していきます。

2 農地の保全と活用

(1) 環境保全型農業の推進

農業の健全な発展と環境の保全に資するため、農業用廃プラスチック等収集処理運営協議会に対し補助金を交付し、農薬の空き缶・空きびん・マルチビニール等の回収・処理を行う環境保全型農業を推進しています。令和6年度は、延べ116戸の農家より、空き缶162個・空きびん27個・プラスチック容器2,313個・塩化ビニール32.3kg・ポリエチレン類3,111.6kgの回収・処理を行いました。

安全な地場農産物の供給及び土壤の通気性・保水性の改善や化学肥料の過剰投入による環境への負荷の軽減等を図るため、環境保全型農業に有効な有機質肥料及び資機材の購入に対して補助を行いました。令和6年度は有機質肥料199件142,355kg、資機材8件31個の補助を行いました。

(2) 市民農園や農業体験の充実

市では、余暇の増大や価値観の多様化に伴い、農業者以外の市民が野菜や花等を栽培し、自然と触れ合いたいとの要望に応えるとともに、都市農業に対する理解を深め、地域農業の活性化と遊休農地の利用促進を図るために市民農園を設置し管理しています。なお、令和7年3月31日現在では、6農園・450区画11,078m²となっており、利用率は100%でした。

また、農業に親しむ環境を作り、農業に対する理解を促すため、市内農業者の協力のもと年5回の農業体験を実施しています。令和6年度の参加者数は319組・972名でした。

(3) 生産緑地地区及び特定生産緑地の指定

市では、生産緑地地区の追加指定を行っています。生産緑地地区とは、市街化区域内の農地等を計画的に保全し、良好な都市環境の形成を図るために、生産緑地法に基づき都市計画に定める農地等をいいます。令和7年3月31日現在、市の生産緑地地区は214地区、約64.20haとなっています。令和6年度は1地区を解除いたしました。

また、指定から30年経過する生産緑地について、さらに10年延期する特定生産緑地の指定も併せて行っています。

(4) 市街化調整区域の農地の保全

黒目川や新河岸川沿いの市街化調整区域のまとまった農地は、都市部の貴重な生産地であり、景観形成、雨水浸透機能、遊水機能等の役割を有していることから、継続して保全に努めます。

3 都市の緑化

(1) 公共施設の緑化

市では、「朝霞市みどりの基本計画」との連携を図り、公共施設の建設・改修の際には植栽地を確保するなど、市内の公共施設の景観向上を図るとともに、市民の緑とのふれあいの機会を増やすために緑化を推進しています。既存の緑を残していくためにボランティア団体の登録を行っており、令和6年度では、公園や緑地内の清掃等を行う公園・緑地管理ボランティア団体が24団体、市管理道路の区域内における道路清掃等を行う道路美化活動団体が24団体、ご登録していただいている。

令和6年度の屋上緑化及び壁面緑化・緑のカーテン設置施設は下表のとおりです。

屋上緑化*設置施設	面積	屋上緑化*設置施設	面積
市役所本庁舎	216.00m ²	朝霞第一中学校	544.52m ²
朝霞市斎場	30.00m ²	朝霞第四小学校	1,232.55m ²
溝沼複合施設	235.87m ²	朝霞第五小学校	485.80m ²
宮戸保育園	80.00m ²	朝霞第七小学校	100.00m ²
仲町保育園	120.00m ²	根岸台市民センター	77.60m ²
朝霞駅南口原動機付 自転車駐車場	111.00m ²	膝折市民センター	185.00m ²
中央公民館	65.00m ²	泉水浄水場第3配水池	1,100.00m ²

壁面緑化*・緑のカーテン* 設置施設	面積	壁面緑化*・緑のカーテン* 設置施設	面積
市役所本庁舎	117.00m ²	中央公民館	153.60m ²
内間木支所	12.00m ²	西朝霞公民館	59.40m ²
浜崎保育園	1.00m ²	南朝霞公民館	40.30m ²
東朝霞保育園	6.00m ²	北朝霞公民館	10.24m ²
溝沼保育園	4.64m ²	内間木公民館	46.60m ²
根岸台保育園	18.00m ²	朝霞第四小学校	506.28m ²
北朝霞保育園	16.20m ²	朝霞第五小学校	386.48m ²
栄町保育園	6.00m ²	朝霞第六小学校	32.76m ²
泉水保育園	1.00m ²	朝霞第八小学校	109.00m ²
さくら保育園	12.00m ²	朝霞第九小学校	64.68m ²
きたはら児童館	3.78m ²	総合体育館	54.00m ²
保健センター	16.00m ²		

(2) 住宅地・民間施設の緑化

安全かつ安心で快適な住環境の整備の推進を図り、住みよいまちづくりの実現を目指すため、本市では、建築行為や開発行為等を行う者に対し、「朝霞市開発事業等の手続及び基準等に関する条例」に基づく緑化の技術基準で、敷地及び建物の緑化に関する指導を行っています。

また、生け垣等（平成30年度から緑化フェンスも補助対象に追加）は良好な生活環境の形成に寄与するため、生け垣等の新設や既設塀を撤去して生け垣等を設置する場合、必要な費用の一部を補助しています。この生け垣等設置奨励補助制度は平成18年度より実施し、令和6年度までに累計559.6mの補助を行いました。

4 緑豊かな景観の形成

(1) 親水空間の保全と創出（水とのふれあい）

市では、水に親しみやすい空間を創出し、景観の向上や、河川が本来有している生物の生息環境を保全・創出するため、河川管理者との協議により、多自然川づくりと、水と緑のネットワーク、緑道・遊歩道の創出に努めています。

令和6年度は河川の定期的な除草を実施しました。

また、自然環境が持つ多様な機能を生かしたグリーンインフラの考え方を取り入れ、水辺の花と緑を楽しみ、木洩れ日の下で集い憩う庁舎前広場（花の池テラス）の整備を実施しました。

(2) うるおいのある景観づくり

近年、都市・自然景観に対する市民の意識は次第に高まってきており、美しい風景や快適な生活を誰もが実感できるような景観づくりを求めるようになってきています。

良好な景観の保全や創出は、都市全体の魅力を高めることから、地域の実情に即したより良い景観づくりに向けた取り組みが全国各地で行われています。

市では、総合的・計画的に良好な景観づくりを進めていくため、平成27年5月に景観法に基づく景観行政団体になり、朝霞市景観計画を定め、平成28年4月に施行しました。

令和6年度は、景観計画による建築物の建築等を行う際の届け出制度により34件の届出があり、景観づくり基準に基づく景観誘導を図りました。

事業認可を受けて事業を進めている都市計画道路（岡通線・駅東通線）の整備に際し、街路樹の植栽等、都市計画道路の緑化に際してグリーンインフラの考え方を取り入れた道路整備を推進していきます。

(3) 史跡・文化財等の保全と活用

市の環境を構成する要素として、歴史的景観の保全を欠かすことはできません。市内には、旧石器時代からの遺跡が数多く分布し、広沢の池や柊塚古墳等の史跡があります。また、江戸時代の農家建築である旧高橋家住宅や、川越街道の宿場町であった膝折宿の名残なども見られます。

市では、史跡・文化財の保護・保全を図り、さらにそれらの活用に努めています。

① 史跡の保護・保全

・県指定史跡「柊塚古墳」保存活用事業

県指定史跡「柊塚古墳」の保存と活用を図り、郷土の歴史と文化への関心を高め、身近に文化財とふれあえる施設として「柊塚古墳歴史広場」を整備し公開しています。可能な限り樹木を残すことで文化財と緑地との共存を図り、敷地内の清掃・緑地の除草・樹木の剪定などの管理を行っています。

・市指定天然記念物「湧水代官水」保存活用事業

市指定天然記念物「湧水代官水」の保全と活用を図り、湧水と周囲の自然環境にふれあえる場所として整備し公開しています。湧水の状況確認のため水質検査を実施している他、周囲の雑木林の樹木剪定・除草などの管理を行っています。

・市指定史跡「二本松」保存管理事業

市指定史跡「二本松」の保存を図り、指定地内の松や低木の剪定などの管理を行っています。

・市指定史跡「広沢の池」保存管理事業

市指定史跡「広沢の池」の保全を図り、湧水の減少への対応として渴水期に毎分約800ℓの井戸水を補給している他、池周縁部の樹木剪定・除草・清掃などの管理を行っています。

② 文化財の保護・保全

・重要文化財「旧高橋家住宅」保存活用事業

重要文化財「旧高橋家住宅」の保存と活用を図り、郷土の歴史と文化への関心を高め、身近に文化財とふれあえる場所として整備し公開しています。江戸時代中期の農家の生活形態を今に伝えるとともに、屋敷林・雑木林など周囲の自然環境とあわせて、江戸時代当時の武蔵野の農家景観の保全に努めています。年中行事の展示や体験学習などを実施し活用を図っている他、屋敷林・雑木林などの自然環境の管理に努めています。管理・活用には、ボランティアにご協力いただいています。

令和6年度は、畑を利用したさつまいも掘りやさといも掘りといった農業体験などの事業を実施し、11,930人が来園しました。

・一般文化財の保存・活用事業

文化財の保護と啓発活動の進展を図るため、文化財保護団体の運営費等に助成を行っています。令和6年度には3団体に補助金を交付しました。

・埋蔵文化財の保存・活用事業

埋蔵文化財の保護を図るため、確認調査及び発掘調査を実施しています。あわせて資料の整理を行い、調査報告書を刊行しています。令和6年度は、73件の確認調査、4件の発掘調査を実施しました。

また、埋蔵文化財の保存と活用を図るため、「埋蔵文化財センター」で資料整理作業及び資料の公開・展示を行っています。

環境目標2 快適な生活環境の確保



安心で快適に、ずっと住み続けられるまち

2-1 きれいな空気をまもる

1 大気環境の保全

(1) 大気環境の監視、改善

① 二酸化窒素*調査

大気汚染物質の多くは、物が燃焼する過程において発生します。発生源としては、固定発生源である工場等のばい煙と、移動発生源である自動車等の排出ガスなどがあります。汚染物質には、硫黄酸化物、窒素酸化物、一酸化炭素等があり、光化学スモッグの主な原因物質にもなっています。市内全域を経緯度法により500m四方に分割（メッシュ）し、それぞれのメッシュ中心付近の61地点を選び出し、夏季、冬季の年2回、簡易法（フィルターバッジ法）による大気中の二酸化窒素濃度を調査しています。

※詳細な調査結果については、資料編の88～91ページに掲載しています。

② 大気粉じん調査

大気中の粉じん量等の大気汚染物質の実態を把握するため、夏季・冬季の年2回大気粉じん調査を実施しています。調査に当たり、ニッケルは環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るために設定された指針値、アスベスト*は大気汚染防止法で定めた石綿製品製造事業所が遵守しなければならない敷地境界における基準値、他の物質は、労働安全衛生法で定めた作業環境評価基準値を準用しています。

※詳細な調査結果については、資料編の92ページに掲載しています。

③ 公共施設アスベスト*調査

現在、稼働中の煙突にアスベストを使用している施設からの排気中のアスベスト含有の有無について、施設の4方向敷地境界線上での測定を年1回実施しています。

※詳細な調査結果については、資料編の92ページに掲載しています。

④ ダイオキシン類*調査

ダイオキシン類は、塩素を含む物の燃焼に伴って発生するほか、化学物質の製造工程などにおいても副生成物として発生するなど発生原因は多岐にわたっています。

大気中のダイオキシン類濃度レベルを把握するため、7日間測定による調査を1地点で年2回実施しています。

なお、「埼玉県生活環境保全条例」により、野外焼却等が禁止されているため、ドラム缶や地面での野外焼却を行わないよう事業者及び市民の皆様の協力を求めているところです。

※詳細な調査結果については、資料編の92ページに掲載しています。

○大気調査結果まとめ

	調査内容	調査地点	調査回数	調査項目	調査結果
大 氣 調 査	①二酸化窒素調査	・市内61地点	・年2回 (7月・1月) 1回72時間測定	・二酸化窒素	・基準値に適合
	②大気粉じん調査	・保健センター	・年2回 (7月・1月) 1回24時間測定	・浮遊粉じん量 ・亜鉛 ・総クロム ・カドミウム ・鉛 ・ニッケル ・バナジウム	各項目とも、 基準値に適合
			・年2回 (7月・1月) 1回4時間測定	・アスベスト	基準値に適合
	③公共施設アスベスト調査	・中央公民館 ・東朝霞公民館 ・浜崎学校給食センター ・朝光苑 計4施設	・年1回 (施設ごと) 1回4時間測定 (敷地境界線上4方向)	・アスベスト	各施設とも、 基準値に適合
	④ダイオキシン類調査	・保健センター	・年2回 (7月・1月) 1回168時間測定	・ダイオキシン類	基準値に適合

※詳細な調査結果については、資料編の88~92ページに掲載しています。

⑤ 常時監視測定

大気汚染物質を監視するために、埼玉県では大気汚染常時監視測定期局を各地に設置しており、本市近辺には和光市、新座市の住宅地域等に地域全体の状況を把握する一般環境大気測定期局が、和光市の道路沿道には自動車排出ガス測定期局が設置されています。

※詳細な調査結果については、資料編の92～94ページに掲載しています。

野外焼却（野焼き）は、原則禁止です！

廃棄物（ごみ）を屋外で焼却すること、いわゆる「野焼き」は、法律や埼玉県の条例により、工場・事業所はもちろん、一般家庭でも原則禁止とされています。法令に適合しない焼却炉やドラム缶を使用しての焼却も同様です。これに違反した場合、懲役や罰金が科せられます。

『野外焼却は、なぜいけないの？』

野外焼却は、燃焼温度が低いため、焼却物の種類によっては、ダイオキシンが発生することが大きな問題です。（ダイオキシンは800度以上で分解されるといわれています。）また、煙や臭気、飛散した灰により近隣の方へ迷惑をかけることもあります。（窓を開けていたら煙が家の中に入ってきた、洗濯物に臭いや灰がついたなど）さらには、火の粉が飛散し火災の原因となる危険性もあります。



【野外焼却（野焼き）の指導件数】

年度	件数
令和6年度	12
令和5年度	6
令和4年度	9

※野外焼却禁止規定の例外

- ・国や地方公共団体が施設の管理、災害の予防・応急対策のため行うもの
- ・風俗習慣上や宗教上の行事のためのもの（例：神社のお焚き上げなど）
- ・農業、林業、漁業を営むためやむを得ないもの（例：農業の稻藁の焼却など）
- ・日常生活上の軽微なもの（例：落ち葉焚き、草木染の灰をつくるなど）

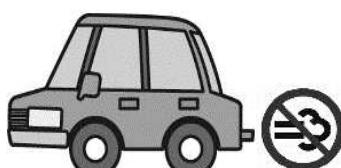
アイドリング・ストップのすすめ！

皆さんは、自動車等の利用時にアイドリング・ストップ（駐停車時のエンジン停止）をしていますか？

アイドリング・ストップには、騒音・悪臭・大気汚染・地球温暖化の防止、ガソリンの節約などの効果があります。自動車等を運転する時はアイドリング・ストップを心がけましょう！

【アイドリング・ストップの指導件数】

年度	件数
令和6年度	1
令和5年度	2
令和4年度	2



⑥ 光化学スモッグ

自動車や工場などから大気中に排出されるガスは、窒素酸化物や炭化水素を含んでいます。これらのガスは、太陽からの紫外線を受けて複雑な化学反応（光化学反応）を起こし、光化学オキシダントが発生します。この光化学オキシダントの濃度が高くなると、目やのどの痛み、息苦しさなどの症状が現れます。また、植物にも被害を与え、アサガオやサトイモなどの葉の表面に白色や褐色の斑点が現れます。

春から秋にかけて、気温が高く、風が弱い晴れた日に光化学オキシダントの濃度が高くなると、遠くがかすんで見えることがあります。これを光化学スモッグと呼んでいます。

埼玉県では「埼玉県大気汚染緊急時対策要綱」を制定し、光化学スモッグの主要な指標となっている光化学オキシダントの常時測定を行い、発令基準に達すると各地区（朝霞市は県南中部地区に属しています。）ごとに注意報等を発令しています。

市では、県からの注意報等の発令を受けた場合、「朝霞市大気汚染状況の伝達業務実施要領」に基づき、防災行政無線やSNS等により注意を呼びかけています。

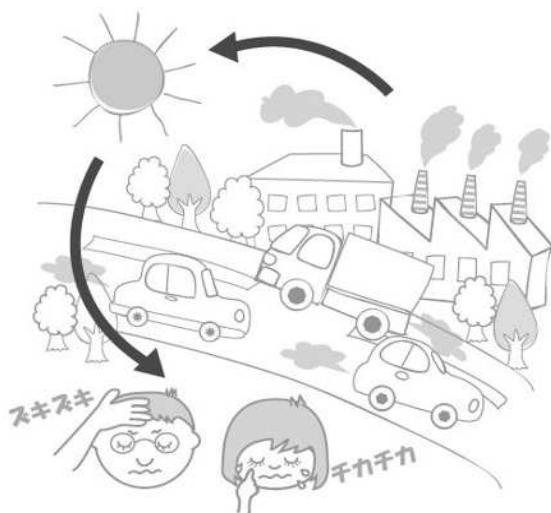
光化学スモッグ注意報・警報が発令されたら

«どんなときに発生するの?»

時期的には5～9月、天気は晴れで、風が弱く、気温が25度以上の時に発生しやすいとされています。

«光化学スモッグ注意報・警報が発令されたら?»

光化学スモッグ注意報・警報が発令された場合、市では、防災行政無線で市民の皆さんにお知らせし、注意を呼びかけています。市民の皆さんには、健康被害にあわないために、①屋外での激しい運動は避ける、②目などに刺激を感じたらすぐ屋内に入ることを心がけてください。また、乳幼児、お年寄り、病弱な人は、健康な成人よりも被害をうけやすいので、特に注意してください。また、自動車の使用を控えるよう、ご協力ください。



【県南中部地区の光化学スモッグ発令状況】

種類 年度	予 報	注意報	警 報	重大緊急報	健康被害届出人数
令和6年度	16	11	0	0	0 (0)
令和5年度	6	6	0	0	0 (0)
令和4年度	9	5	0	0	0 (0)

※表中の()内の数字は、朝霞市内における健康被害届出人数を再掲したもの

⑦ 微小粒子状物質（PM2.5）*

埼玉県では、毎日午前8時、午後0時30分、午後5時30分の計3回、PM2.5の常時監視測定を行い、濃度が、環境省が設置した「微小粒子状物質（PM2.5）に関する専門家会合」で示された暫定指針値（日平均70マイクログラム立法メートル）を超えるおそれがあると予測された場合は、県ホームページ等で注意喚起を行っています。午前の予測は、県内を2地域に分けて行われ、午後の予測は、県内を8地域に分けて行われます。（朝霞市は、午前の予測では県南部、午後の予測では県南中部に属しています。）

市では、県からの注意喚起についての依頼を受けた場合、「微小粒子状物質（PM2.5）に係る朝霞市大気汚染状況の伝達業務実施要領」に基づき、防災無線や市ホームページ等で、市民の皆様にお知らせして、不要不急の外出を控える、換気や窓の開閉を必要最小限にするなどのお願いをしています。

令和6年度の県南部及び県南中部での注意喚起はありませんでした。

⑧ 低公害車*の導入

自動車は経済・社会の発展に貢献し、現代生活の交通手段として重要な役割を担っています。しかし、一方では、大気汚染や騒音など環境にも大きな影響を及ぼしているのも事実です。近年では、そうした環境への負荷を低減させる手段として、低公害車の導入が進んできています。

⑨ 公害苦情の現況

公害は事業活動などに伴って生じる、大気の汚染、水質の汚濁、土壤の汚染、騒音、振動、地盤の沈下、悪臭によって、人の健康又は生活環境に係る被害が生じることと定義され、これら7種類は「典型7公害」と呼ばれています。

公害苦情は地域住民に密着した問題のため、現地調査を行い敏速かつ適正に対応することが必要であり、公害関係法令に基づく規制対象の場合は、規制基準値を遵守するように指導を行っております。

しかし、近年では、公害関係法令の規制対象とならない騒音、振動などの苦情のほか、日常生活が起因となる苦情も増加しており、近隣間のコミュニケーション不足などでトラブルとなることもありますので、必要に応じて市が間に入り、お互いの歩み寄りを促すといった対策に苦慮するケースが増えています。

【公害苦情件数】

年度	苦情件数	その他	典型 7公害	(内訳) 典型 7 公 害						
				大気汚染	水質汚濁	土壤汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭
令和6年度	68	0	4	1	1	0	1	1	0	0
令和5年度	38	0	7	2	0	0	2	2	0	1
令和4年度	59	0	9	1	3	0	5	0	0	0

*総務省公害苦情調査資料に基づき、新たな項目として《その他》を追加しました。

⑩ 公害防止組織

公害防止統括者制度は、企業内に公害防止組織を整備することによって、公害の未然防止を図るために設けられた制度で、「特定工場における公害防止組織の整備に関する法律」に基づいて、一定規模以上の施設を有する工場に対し公害防止統括者、公害防止管理者等の選任を義務付けています。

また、小規模な工場・事業場についても、「埼玉県生活環境保全条例」により公害防止統括者制度に準じた公害防止監督者制度によって公害防止監督者、公害防止主任者等の選任を義務付けています。

公害防止統括者等の選任状況

区分 種別	公害防止 統括者	公害防止統括 者の代理者	公害防止 管理者	公害防止管理 者の代理者
大気関係			7	3
粉じん関係			7	7
水質関係	20	19	11	8
騒音関係			6	3
振動関係			8	4
計	20	19	39	25

(令和6年度)

公害防止監督者等の選任状況

区分 種別	公害防止 監督者	公害防止監督 者の代理者	公害防止 主任者	公害防止主任 者の代理者
大気関係			11	10
水質関係	60	58	2	2
騒音振動関係			56	44
計	60	58	69	56

(令和6年度)

(2) 放射性物質の監視

平成23年3月11日の東日本大震災により、東京電力福島第一原子力発電所において事故が発生し、大量の放射性物質が大気中に放出されました。

市では、市役所正面駐車場、保育園、小・中学校、公園等において、簡易測定器による空間放射線量の定点測定を実施しています。

また、「朝霞市における放射線量基準に関する当面の考え方について」を策定し、「毎時0.19マイクロシーベルト」という市の公共施設における除染の判断基準を定め、市の公共施設において、定点測定のほか、比較的線量が高いとされる雨樋の下などの、いわゆるホット・スポットと呼ばれる場所の空間放射線量を年1回測定しています。

さらに、市民向けに空間放射線量の簡易測定器の貸し出しを行っています。令和6年度は延べ14件の貸出しを行いました。そのほか、水道水、クリーンセンターの焼却灰についても、放射性物質の測定を継続的に実施しており、測定結果を市ホームページで公表しています。

引き続き、空間放射線量の調査を行うとともに結果を公表し、市民の皆様の安全安心に取り組んでいきます。

【市内公共施設等における空間放射線量測定記録】 (令和6年度実績)

(単位: 每時マイクロシーベルト)

測定場所	最大 値		最小 値		平均値 (地上)
	測定値	測定日	測定値	測定日	
		測定場所		測定場所	
市役所 正面玄関 週1回	0.071	R6.5.1	0.047	R7.3.12	0.061
		地上1m		地上1m	
保育園等(4園) 園庭 年2回	0.062	R6.5.30	0.037	R6.5.30	0.047
		地表		地上50cm	
学校(小・中学校15校) 校庭 年1回	0.091	R6.11.27	0.033	R6.11.7	0.052
		地表		地表	
公園・児童遊園地(10カ所) 敷地内 年2回	0.083	R6.6.19	0.042	R6.12.27	0.060
		地表		地上50cm	

※各測定場所の測定結果及び市役所正面玄関の経年の測定結果については、資料編の113～114ページに掲載しています。

簡易放射線測定器（空間線量計）の貸出しを行っています！

市では、市内に居住、通勤、または通学している方に対し簡易放射線測定器の貸出しを無料で行っています。

問合せ／環境推進課 環境対策係

048-463-1512



2 悪臭の防止

(1) 悪臭の防止

悪臭は、人の嗅覚をとおして不快感等をもたらす感覚公害のひとつで、人の感覚に直接訴える公害であるため、古くから衛生的で快適な生活環境を損なうものとして認識されてきました。「悪臭防止法」が昭和47年5月31日から施行され、埼玉県においても、工場その他の事業場の事業活動に伴って発生する悪臭原因物の排出について基準を設けています。

悪臭防止対策として、パトロールによる監視及び事業場への立ち入り等を行っています。

【悪臭相談の受付件数】

年度	件数
令和6年度	0
令和5年度	1
令和4年度	0

2-2きれいな水と土をまもる

1 河川の水質保全

(1) 河川の水質の監視

① 河川調査

水質汚濁とは、工場・事業場や家庭などから排出される汚水によって、河川等の水質が悪化することをいいます。

かつては事業系の排水が主な汚濁原因となっていましたが、近年は工場に対する排水規制や下水道等の整備が進んできたことから、河川の水質汚濁は、改善されてきたといえます。

河川等は本来、自ら汚れをきれいにする働き（自浄作用）をもっています。しかし、この働きを超える量の汚濁物質が流入してしまうと水質汚濁が進んでしまいます。水質汚濁を防止するためには、工場・事業場はもとより各家庭のほんのわずかな気づかいが大きな効果を生みます。

市では、「新河岸川・黒目川・越戸川」（以下「市内3河川」という。）において公共用水域の水質汚濁に係る環境基準*に基づく水質調査を実施しています。また、埼玉県においても、黒目川東橋付近で調査を実施しています。

*詳細な調査結果については、資料編の95～105ページに掲載しています。

② 小排水路調査

小排水路の水質に環境基準は適用されませんが、河川本流に与える影響を捉えるために市内3河川に流入している小排水路7箇所において、水質調査を実施しています。

*詳細な調査結果については、資料編の106～107ページに掲載しています。

河川の汚濁負荷を低減するために家庭でできること

その1 汚れた食器は洗う前によくふきましょう。

食器に残った油やソースを、洗い流す前に紙などでふき取りましょう。

その2 料理を作りすぎず、油や残り汁を流さないようにしましょう。

なるべく全部食べきれるように、料理を作りましょう。

その3 細かい調理くずを流さないようにしましょう。

三角コーナーや排水口のストレーナーには水切りろ紙袋や使い古しのストッキングなどをかぶせましょう。

その4 シャンプーや洗剤を使い過ぎないようにしましょう。

洗剤を適量以上使っても、洗浄力はそれほど変わりません。

その5 米のとぎ汁は、捨てないで植木や草花にかけるなど工夫しましょう。

③ 生物調査

川の中には昆虫の幼虫やヒル、イトミミズなどの生物が棲んでおり、川底などに多く見られることから「底生生物」と呼ばれています。また、河床や石に付着している藻などは「付着藻類」と呼ばれています。

これらの生物は、種類によって水の汚れに耐えられる限度が異なるため、川の汚れの状況に応じて種類や数が変化することから、生物調査を行うことによって、その川の汚れの程度を知ることができます。生物調査は、化学分析のように水に含まれる物質の種類や量を測ることはできませんが、水中の生物は一定時間をかけて発生・成長しているので、比較的長期間の水中の状況を推測することができます。

市では、新河岸川の中流地点、黒目川、越戸川の下流地点で調査を行っています。

水質階級名	水質状況	代表的な指標生物
水質階級（Ⅰ）	きれいな水（川底が見える）	サワガニ、ナミウズムシ
水質階級（Ⅱ）	ややきれいな水（水がやや濁っている）	オオシマトビケラ、コオニヤンマ
水質階級（Ⅲ）	きたない水（川底が泥っぽい）	ミズムシ、シマイシビル
水質階級（Ⅳ）	とてもきたない水（水が濁っている）	エラミミズ、サカマキガイ

出典：「全国水生生物調査」環境省・国土交通省

④ 地下水調査

市内の地下を流れる水の水質を把握するため、地下水13地点、湧水1地点において地下水調査を実施しています。

※詳細な調査結果については、資料編の108ページに掲載しています。

⑤ ユスリカ調査

市内3河川において、不快害虫と言われているユスリカ類の生息状況を把握し、基礎資料とするため、河川底泥中のユスリカ幼虫の個体数を調査しています。

⑥ 魚類調査

市内3河川における魚類の生息状況を把握するため、魚類調査を実施しています。

※詳細な調査結果については、資料編の109～112ページに掲載しています。

⑦ 底質調査

市内3河川における河底の有機物質の蓄積状況を把握するため、2年に1度、底質調査を実施しています。

⑧ 水質汚濁防止法特定事業所立入調査

水質汚濁防止法の特定施設から事業所排水について監視及び適正化を図るため埼玉県西部環境管理事務所が立ち入り調査、採水調査を行い、その結果報告を受けています。

（調査結果については次ページ参照）

○水質調査結果まとめ

	調査内容	調査地点	調査回数
水 質 調 査	①河川調査	新河岸川 : 新宮戸橋付近 (C類型) 旧内間木橋付近 黒目川 : 大橋付近 (C類型) 東林橋付近 越戸川 : 越戸橋付近 (類型指定なし) 東和橋付近	年4回 (6月、8月、12月、2月)
			年2回 (6月、12月)
			年1回 (6月)
			年2回 (8月、12月)
	②小排水路調査	新河岸川、黒目川の各3地点及び越戸川1地点	年2回 (8月、2月)
	③生物調査	新河岸川:新盛橋付近 黒目川:笹橋付近 越戸川:東和橋付近	年1回 (8月)
	④地下水調査	地下水13地点、湧水1地点	年1回 (12月)
	⑤ユスリカニシカ調査	新河岸川:田子山樋管流入付近 黒目川:新座大橋下流朝霞第一雨水幹線付近 越戸川:東京メトロ和光車両基地の暗渠開口部付近	年1回 (12月)
	⑥魚類調査	新河岸川:旧内間木橋付近 黒目川:東林橋付近 越戸川:東和橋付近	年1回 (7月)
	⑦底質調査	新河岸川:旧内間木橋付近 黒目川:笹橋付近 越戸川:東和橋付近	年1回 (8月) ※隔年で実施
	⑧水質汚濁防止法特定事業所立入調査	-	不特定日

調査項目	調査結果
生活環境項目、一般項目、流量	水素イオン濃度（pH）について、1箇所不適合があった。 ・東林橋付近（8.7） ※環境基準6.5以上8.5以下
健康項目 ※黒目川は埼玉県で調査	すべて基準に適合していた。
要監視項目 ※黒目川は埼玉県で調査	すべて基準に適合していた。
追加項目（化学的酸素要求量・ふん便性大腸菌群数）※黒目川	水質B（1回）、水質C（1回）、不適（2回） ※判定基準の区分：適（水質AA・A）、可（水質B・C）、不適 ※環境基準はないため、「水浴場水質判定基準」を参考とした。
生活環境項目、流量	流入先河川の環境基準を適用した場合に、次の5項目が不適合であった。 (1) 水素イオン濃度(pH) (2) 生物化学的酸素要求量(BOD) (3) 溶存酸素量(DO) (4) 全亜鉛 (5) 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS) ※小排水路に環境基準はなく、流入先の河川の基準値を準用した。 ※継続して調査を実施する。 ※詳細は資料編106～107ページに掲載
底生生物・付着藻類	水質状況は次のとおりの結果となった。 ①新河岸川（新盛橋付近）：ややきれいな水～きたない水 ②黒目川（笹橋付近）：ややきれいな水 ③越戸川（東和橋付近）：ややきれいな水 ※水質状況：きれいな水、ややきれいな水、きたない水、とてもきたない水（全国水生生物調査の水質階級：4階級）
1,1,1-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等	すべて基準に適合していた。
ユスリカ幼虫数	新河岸川（10個体）、黒目川（10個体）、越戸川（0個体）
魚類等出現種	市内3河川において、魚類25種、甲殻類4種、両生類1種、は虫類2種が確認された。 (うち外来種：魚類1種、甲殻類1種、両生類1種、は虫類1種)
カドミウム、鉛、六価クロム等 11項目	隔年実施のため令和6年度は未実施。
現場確認等	令和6年度は未実施。

※詳細については、資料編の95～112ページに掲載しています。

(2) 生活排水処理施設整備の推進

① 下水道の整備

本市における下水道の整備については、従来の市街化区域内の整備がほぼ完了しましたが、平成23年1月に旧暫定逆線引き地区*が市街化区域に編入されたことから、同地区的整備を進めています。（平成25年7月1日から宮戸2丁目、岡1丁目、根岸台2丁目、根岸台7丁目の各一部供用開始）

また、市ホームページで市民に対し水洗化への早期切り替えについての啓発を継続して行っており、今後も啓発活動等により公共下水道への接続を促進していきます。

【下水道普及率及び水洗化率の推移】

区分 年 度	下水道普及率 (%)		水洗化率 (%)
	朝 霞 市	埼 玉 県	
令和6年度	98.0	84.0	99.2
令和5年度	97.9	83.6	99.1
令和4年度	97.8	83.2	99.1

※ 下水道普及率=処理区域内人口／行政人口×100

※ 水洗化率=水洗化人口／処理区域内人口×100

② 合併処理浄化槽*の設置

下水道未整備区域に浄化槽を設置する際には、「浄化槽法」に基づき合併処理浄化槽とすることが義務づけられ、し尿のみを処理する単独処理浄化槽をすでに設置している方については、合併処理浄化槽への転換に努めなければならないとされています。

この合併処理浄化槽は、適正な管理を行うことにより、し尿と風呂や台所などから排出される水質汚濁の原因である生活雑排水を同時に処理することができることから、河川の水質環境を保全する有効な排水処理施設とされています。

市では、「広報あさか」及び市ホームページへの掲載などで、浄化槽の適正な維持管理の必要性と併せ、合併処理浄化槽の設置及び単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換について啓発を行っています。

なお、令和6年度の合併処理浄化槽の届出処理件数は10件でした。

【届出件数の内訳】

	設置届・使用開始届	廃止届	その他
令和6年度	3	2	5
令和5年度	7	0	5
令和4年度	20	5	10

※ その他は管理者変更報告書等

(3) 工場・事業場の排出水の監視・指導

① 水質汚濁防止法特定事業場立ち入り調査（有害物質取扱事業場を含む）

水質汚濁防止法の特定施設からの事業場排水について監視及び適正化を図るため、埼玉県西部環境管理事務所が立ち入り調査、採水調査を行い、その結果の報告を受けています。

2 地下水汚染・土壤汚染の防止

(1) 地下水汚染・土壤汚染の防止

① 地下水汚染の防止

地下水は、目に見えない地下に存在することから、人々に意識されることはあまり多くありませんが、飲用を除く生活用水のほか、災害時における緊急の水源としても活用できるなど、重要な役割を果たしています。

令和6年度は、井戸水の有機塩素系化合物による汚染状況の概況を把握するために、代表的な物質であるトリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタンの3物質等について市内13地点で調査しました。

なお、この調査は飲料水としての調査ではないため、飲用への適否については保健所の指導を受けるよう井戸水の利用者に通知しています。

※詳細な調査結果については、資料編の108ページに掲載しています。

【井戸水調査結果（採水日：令和6年12月10日）】

物 質 名	調査地点数	基準値超過地点数
トリクロロエチレン	13	0
テトラクロロエチレン	13	0
1,1,1-トリクロロエタン	13	0

② 水質汚濁防止法特定事業場排水分析調査（有害物質取扱事業場を含む）

河川や排水路等の公共用水域の水は、上水道や農業用水等に利用されており、生活環境を保全するためにも、良好な水質にしておかなければなりません。

このため、有害な污水や廃液が発生する事業場には、「水質汚濁防止法」及び「埼玉県生活環境保全条例」等で排水規制が行われています。

市では、埼玉県西部環境管理事務所と協力して、事業場に合同で立入調査をし、排出水の監視に努めています。また、埼玉県西部環境管理事務所が採水調査をした結果の報告を受けて情報共有に努めています。

【水質汚濁防止法特定事業場排水分析調査結果（令和6年度）】

事業場数	適 合 数	不適合数
—	—	—

③ 土壤汚染の防止

土壤汚染の原因となる物質を使用する事業所や工場跡地等での土壤汚染に対して、県とともに土壤汚染の未然防止の観点から把握・指導に努めます。

また、市では、市有施設・樹木の消毒等に関する取り組みとして、「朝霞市における市有施設・樹木の消毒等に関する取組方針」を定め、いわゆる環境ホルモン*やダイオキシン類などによる健康や生態系への影響を避けるため、病害虫が発生した場合はその樹木を剪定することなどで対応し、薬剤散布は必要最小限にとどめています。

④ 地盤沈下対策

地盤沈下は、私たちの生活の基盤である大地が継続的に沈下していく現象で、主に地下水を過剰に汲み上げることによって発生します。地盤沈下は他の公害問題と異なり、人の健康等に直接影響を及ぼすものではありませんが、建築物・工作物や地下埋設物の物的被害を生じさせます。このため、新たな地盤沈下を防止するために、「工業用水法」及び「埼玉県生活環境保全条例」などで既存の深井戸の使用を制限したり、新たな井戸の設置に厳しい規制をかけたりしています。

【地盤標高の経年変動】

基標番号	所 在 地		調 査 開 始 年 月	各 年 别 变 動 量 (mm)				
				令和 2.1.1	令和 3.1.1	令和 4.1.1	令和 5.1.1	令和 6.1.1
	町(字)名	目 標		~	~	~	~	~
			令和 3.1.1	令和 4.1.1	令和 5.1.1	令和 6.1.1	令和 7.1.1	
仮 2019-02	岡地先	陸上自衛隊朝霞 駐屯地協歩道上	R2.1	+0.2	+1.3	+0.7	+0.3	+4.1

※「水準測量成果表（埼玉県）」より

【朝霞市の地下水揚水量の経年変化】 (単位: m³/日)

年度	工業用	建築物用	水道用	合計
令和5年度	1,802.6	163.0	10,223.9	12,189.5
令和4年度	1,674.6	290.3	11,097.2	13,062.1
令和3年度	1,700.0	301.8	12,649.3	14,651.1

※「埼玉県地盤沈下調査報告書」より

※令和6年度のデータはまだ公表されていません。

2-3 快適で住み良いまちをつくる

1 騒音・振動の防止

(1) 自動車等の騒音・振動の監視

① 自動車騒音・振動の監視

騒音規制法第18条に基づき、市内の主要幹線道路7路線14区間を対象として自動車騒音状況の常時監視を実施しています。

評価手法は、調査路線の周辺（50メートル）の騒音の状況を把握するために実施する面的評価と、面的評価を推計するために必要なデータを採取する点的評価があります。

令和6年度は、2路線3区間にについて調査を実施しました。

○自動車騒音常時監視調査結果【年1回（1月）24時間測定】

調査方法	<p>【点的評価】 調査区間ごとに選定した地点での24時間騒音測定値の評価</p> <p>【面的評価】 点的評価の騒音値を区間全体に準用し、昼夜ともに基準を達成した道路端50m内の住戸数割合</p>
調査地点	<p>【調査路線及び調査地点】</p> <p>○ 一般国道254号</p> <p>A・区間（面的）：県道朝霞蕨線（幸町3丁目15番付近）～朝霞市・新座市境（膝折町2丁目11番付近）間 ・調査地点（点的）：膝折町2丁目12番付近</p> <p>B・区間（面的）：和光市・朝霞市境（大字台228番付近）～県道朝霞蕨線（大字上内間木427番付近）間 ・調査地点（点的）：大字下内間木1449番付近</p> <p>○ 県道朝霞蕨線</p> <p>C・区間（面的）：一般国道254号（大字上内間木427番付近）～朝霞市・志木市境（大字上内間木650番付近）間 ・調査地点（点的）：大字上内間木11番付近</p>
調査結果	<p>【点的評価】</p> <p>○ 一般国道254号</p> <p>A 膝折町2丁目12番付近（昼間：70dB、夜間：70dB）</p> <p>B 大字下内間木1449番付近（昼間：66dB、夜間：63dB）</p> <p>○ 県道朝霞蕨線</p> <p>C 大字上内間木11番付近（昼間：70dB、夜間：63dB）</p> <p>（参考） 評価方法：等価騒音レベル（測定値の平均） 昼間：6時～22時 夜間：22時～6時 環境基準：昼間 70dB以下、夜間 65dB以下 要請限度：昼間 75dB以下、夜間 70dB以下</p>

【面的評価】

- 一般国道254号
 - A 県道朝霞蕨線(幸町3丁目15番付近)～朝霞市・新座市境(膝折町2丁目11番付近)間
基準達成戸数割合 94.1% (175戸／186戸)
 - B 和光市・朝霞市境(大字台228番付近)～県道朝霞蕨線(大字上内間木427番付近)間
基準達成戸数割合 97.7% (42戸／43戸)
- 県道朝霞蕨線
- C 一般国道254号(大字上内間木427番付近)～朝霞市・志木市境(大字上内間木650番付近)間
基準達成戸数割合 90% (72戸／80戸)

② 道路騒音振動調査

市内主要道の道路騒音・振動の現況把握を行うことにより、沿道付近の生活住環境の悪化などの把握を行うために実施しています。

令和6年度は、4地点について調査を実施しました。

○道路騒音振動調査結果【年1回（1月）24時間測定】

調査方法	【騒音測定】 選定した地点での24時間騒音測定値の評価 【振動測定】 選定した地点での24時間振動測定値の評価
調査地點	A 県営朝霞幸町団地前付近（幸町3丁目7番付近） B 三原2丁目交差点付近（三原2丁目22番付近） C 朝霞宮戸郵便局付近（宮戸2丁目1番付近） D みずほ銀行朝霞支店付近（本町2丁目4番付近）
調査結果	【騒音調査】 A 県営朝霞幸町団地前付近：昼66dB、夜62dB 環境基準：不適合（昼及び夜） B 三原2丁目交差点付近：昼64dB、夜59dB 環境基準：不適合（昼及び夜） C 朝霞宮戸郵便局付近：昼69dB、夜65dB 環境基準：不適合（昼及び夜） D みずほ銀行朝霞支店付近：昼60dB、夜55dB 環境基準：不適合（昼及び夜） (参考) 評価方法：等価騒音レベル（測定値の平均） 昼間：6時～22時 夜間：22時～6時 環境基準（A・D）：昼間 65dB以下、夜間 60dB以下 （B・C）：昼間 60dB以下、夜間 55dB以下 要請限度（A・D）：昼間 75dB以下、夜間 70dB以下 （B・C）：昼間 70dB以下、夜間 65dB以下 【振動調査】 A 県営朝霞幸町団地前付近：昼47dB、夜42dB B 三原2丁目交差点付近：昼44dB、夜37dB C 朝霞宮戸郵便局付近：昼51dB、夜43dB D みずほ銀行朝霞支店付近：昼43dB、夜36dB (参考) 評価方法：時間率振動レベル 昼間：8時～19時 夜間：19時～8時 環境基準：なし 許容限度：（A・B・C）：昼間 65dB以下、夜間 60dB以下 （D）：昼間 70dB以下、夜間 65dB以下

③ 鉄道の騒音・振動の監視

市では、平成4年度から、JR武蔵野線沿線13市で構成する「武蔵野線公害対策連絡協議会」に加入し、宮戸地内の平坦地（第一種住居地域）の近接側軌道中心から12.5mの地点で騒音・振動測定を実施しています。測定結果及び隣接住民等に対する騒音・振動対策については、協議会を通じ日本貨物鉄道㈱及び東日本旅客鉄道㈱に改善要望書の提出を行いました。武蔵野線については、「在来鉄道の新設又は大規模改良に際しての騒音対策の指針について」の対象ではないが、周辺住民への騒音・振動を軽減するために、新型車両の導入、車両の改良、ロングレール化、日常の枕木等のメンテナンスなどの対応を引き続き継続していく考えである、との回答でした。

【武蔵野線騒音測定結果】

単位：デシベル（dB）

区分 年度	12.5m地点						
	測定日	客 車		貨 車		等価騒音レベル	
		上り	下り	上り	下り	昼間	夜間 (推定値)
令和6年度	5月25日	74.6	75.9	72.3	66.9	50.9	48.2
令和5年度	5月20日	80.4	81.8	78.9	78.2	57.0	55.1
令和4年度	6月18日	84.7	82.4	84.7	83.8	60.2	58.6

※測定方法：「新幹線鉄道騒音に係る環境基準について」（昭和50年7月29日環境庁告示第46号）及び「在来鉄道の新設又は大規模改良に際しての騒音対策の指針について」（平成7年12月20日環大一第174号）に準拠しています。

※指針値：「在来鉄道の新設又は大規模改良に際しての騒音対策の指針について」の等価騒音レベルで昼間は60dB以下、夜間は55dB以下とすることとしています。

【武蔵野線振動測定結果】

単位：デシベル（dB）

区分 年度	12.5m地点				
	測定日	客 車		貨 車	
		上り	下り	上り	下り
令和6年度	5月25日	46.4	38.1	46.4	32.8
令和5年度	5月20日	54.1	51.8	51.3	54.9
令和4年度	6月18日	55.2	51.6	58.1	56.1

※測定方法：「環境保全上緊急を要する新幹線鉄道振動対策について（勧告）」（昭和51年3月12日環大特32号）に準拠しています。

※指針値：「環境保全上緊急を要する新幹線鉄道振動対策について（勧告）」の新幹線鉄道振動の補正加速度レベルが、70dBを超える地域について振動防止対策等を講ずることとしています。

④ 家庭用機器や音響機器などの近隣騒音

家庭用機器や音響機器などの近隣騒音などの生活騒音については、法的規制がありませんが、近年、生活騒音の問題が深刻化しています。市では、ホームページで、家庭用機器や音響機器を含む生活騒音について注意喚起を行っています。また、市民や事業者向けに騒音に配慮した家庭用燃料電池（エネファーム）の設置についての周知も行っています。

(2) 工場・事業場の騒音・振動の防止・指導

「騒音規制法」及び「振動規制法」に基づく特定建設作業の実施の届出の際に、その事業主等に対して、作業中は規制基準を遵守し、周辺の生活環境の保全に努めるよう指導しています。また、「騒音規制法」、「振動規制法」及び「埼玉県生活環境保全条例」に基づく特定施設、指定騒音施設及び指定振動施設を設置等する場合に、騒音の防止に関して措置を講じるよう指導しています。なお、苦情に関しては現地確認のうえ、状況に応じ測定を実施し、事業主等に対して改善指導を行っています。

【騒音規制法・振動規制法による特定施設の設置状況】

(令和6年度)

騒音規制法による特定施設の設置状況			振動規制法による特定施設の設置状況		
区分	特定工場数	特定施設数	区分	特定工場数	特定施設数
金属加工機械	89	368	金属加工機械	84	543
			液圧プレス		
			機械プレス		
			せん断機		
			鍛造機		
			ワイヤーフォーミングマシン		
			—		
			圧縮機	49	425
			土石用 鉱物用	7	19
			破碎機		
土石用 鉱物用	4	16	摩碎機		
			ふるい		
			分級機		
織機	0	0	織機	0	1
			コンクリートブロックマシン	1	2
木材加工機械	7	24	コンクリート管・柱製造機械		
			木材加工	2	4
			ドラムバーカー		
			チッパー		
			印刷機械	31	130
ゴム練用・合成樹脂ロール機				0	0
プラント	9	13	合成樹脂用射出成形機	22	211
			鋳型造型機	1	5
穀物用製粉機	0	0			
木材加工機械	7	24			
ドラムバーカー					
チッパー					
碎木機					
帯のこ盤					
丸のこ盤					
かんな盤					
抄紙機	1	1			
印刷機械	47	171			
合成樹脂用射出成形機	25	137			
鋳型造型機	1	5			
計	270	1,768	計	197	1,340

騒音計の貸出しを行っています！

市では、市内に居住、通勤または通学している方に対し、騒音計の貸出しを無料で行っています。

問合せ／環境推進課 環境対策係

048-463-1512



【埼玉県生活環境保全条例による

指定騒音施設・指定騒音作業・指定振動施設の設置状況】

(令和6年度)

施 設 の 種 類		指定工場等の総数	指定施設の総数
指定騒音施設	木材加工機械	15	63
	合成樹脂用粉碎機	2	3
	ペレタイザー	1	1
	コルゲートマシン	0	0
	シェイクアウトマシン	0	0
	ダイカスト機	1	5
	冷却塔	15	74
	計	34	146
指定騒音作業	金属板のつち打加工	5	
	ハンドグラインダー使用	16	
	電気のこぎり・電気かんな使用	3	
	計	24	
指定振動施設	シェイクアウトマシン	0	0
	オシレイティングコンベア	0	0
	計	0	0

【騒音規制法・振動規制法による特定建設作業の届出状況】

(令和6年度)

区 分 種 類	騒 音	区 分 種 類	振 動
くい打機	1	くい打機	1
びょう打機	0	鋼球	0
さく岩機	35	舗装版破碎機	0
空気圧縮機	11	ブレーカー	22
プラント	0		
バックホウ	0		
トラクターショベル	0		
ブルドーザー	0		
計	47	計	23

【騒音規制法・振動規制法による特定施設の届出状況】

(令和6年度)

区 分 種 類	騒 音	振 動
設 置 届 出	3	0
使 用 届 出	0	0
数 变 更 届 出	1	0
防止の方法変更届出	0	0
氏名等の変更届出	4	3
使 用 全 廃 届 出	0	0
承 継 届 出	0	0
計	8	3

2 日照阻害、電波障害の防止

(1) 日照阻害、電波障害の防止

① 日照阻害の防止

市では、日照阻害対策として、「朝霞市開発事業等の手続及び基準等に関する条例」により、事業者等に近隣住民への説明会開催を義務付ける等、紛争を未然に防ぐための枠組みを定めています。

なお、令和6年度の条例に基づく中高層建築物の届出は13件でした。

② 電波障害の防止

電波障害の対策については従来から法律上の規定はなく、明文化された救済規定もありません。

市では、「朝霞市開発事業等の手続及び基準等に関する条例」において、テレビジョン電波受信障害対策として、「朝霞市建築物等によるテレビ電波障害に関する指導方針」を定め、新たに電波障害を生ずるおそれがある建築物等を建築しようとする者に対して、予測や防止対策について協議するよう指導して電波障害の防止に努めています。

デジタル放送は、建築物等を原因とする電波障害は発生しにくいといわれていますが、全く発生しないというわけではありません。

今後もこれまでと同様、指導方針に則り電波障害の防止に努めていきます。

【テレビ電波障害防止に関する誓約書届出件数】 (令和6年度)

地区名	本町	幸町	栄町	仲町	溝沼	三原	北原
件 数	0	0	1	1	0	1	1
地区名	西原	西弁財	東弁財	浜崎	膝折町	根岸台	岡
件 数	0	1	2	0	0	0	0
地区名	泉水	宮戸	朝志ヶ丘	大字他	合 計 10 件		
件 数	0	0	2	1			

3 環境美化の推進

(1) 散乱ごみ・不法投棄対策

① 散乱ごみ対策

散乱ごみの問題は、個人のモラルの問題ともいえますが、市民・事業者・行政全体が自分たちの問題としてとらえ、お互いに協力し、責任を果たすことが解決への第一歩となります。

市では、平成12年10月1日に「朝霞市ポイ捨ての防止に関する条例」を施行し、環境美化推進員によるパトロールを実施するほか、環境美化推進地区内の飲食料自動販売業者に対して回収容器設置及び適正管理を義務づけるなど、問題解決への仕組みづくりに努めています。

【主な環境美化活動】			(令和6年度)
イベント名	日 時	実施場所	内 容
環境美化パトロール	随 時	市内全域	環境美化推進員がごみの散乱状況の報告や清掃活動を行った。その後、報告に基づき市職員が回収作業等を行った。
路上喫煙・ポイ捨て防止キャンペーン	11月20日(水) 第1回 1月23日(木) 第2回	北朝霞駅及び朝霞台駅周辺	ポイ捨て防止・路上喫煙禁止啓発物の配布を行った。

環境美化活動を推進しています

ポイ捨てを許さない環境づくりのため、環境美化推進員が活動しています。

対象／市内に在住している方

活動内容／

- ・ごみの散乱状況について市に報告
- ・ポイ捨て防止キャンペーン・清掃活動への積極的な参加

【環境美化推進員数】

年 度	人 数
令和6年度	8人
令和5年度	10人
令和4年度	9人



② 不法投棄対策

○ 有害廃棄物不法投棄及び市内不法投棄物の防止

市では、有害廃棄物不法投棄の未然防止と、不法に投棄された廃棄物の早期発見・回収の一環として、職員による巡回パトロール及び委託による夜間の監視パトロールの実施、近隣自治体等の関係機関と広域的な不法投棄対策に努めています。

また、不法投棄が多い場所への不法投棄禁止看板の設置や、「広報あさか」等で不法投棄防止の啓発活動を進めています。

令和6年度の不法投棄物の通報は352件でした。なお、回収した不法投棄物は、クリーンセンターで処分、またはクリーンセンターで処分できないものについては、業者委託等により処分しています。

【主な不法投棄物の処分件数】

年度	自転車	バイク	タイヤ	エアコン	テレビ	冷蔵庫	洗濯機
令和6年度	99	5	22	1	17	3	3
令和5年度	97	2	27	0	17	28	8
令和4年度	143	0	35	1	19	15	10

○ 不法投棄監視パトロール

不法投棄は発見が遅れることによって、そこに新たな投棄物が積み重ねられ、粗大ごみの集積場のようになってしまうことがあります。

そのため、不法投棄が多い場所を中心に、投棄されやすい夜間から早朝にかけて委託による不法投棄監視パトロールを実施しています。

令和6年度は24回の不法投棄夜間監視パトロールを行いました。パトロールで発見された公道上の投棄物等は、後日、職員が現地確認のうえ回収しています。

○ きれいなまちづくり運動

市では、快適な環境づくりを推進するため、町内会・自治会の協力を得て、春と秋の年2回、きれいなまちづくり運動を実施しています。この運動は、それぞれの地域で道路や河川敷に捨てられているごみを拾う環境美化活動であるとともに、自分たちのまちの環境美化に対する意識の向上に関する啓発を図っています。

【きれいなまちづくり運動実施状況】

年度	実施日	ごみ収集量（単位：トン）				参加団体数
		可燃ごみ	不燃ごみ	汚泥	合計	
令和6年度	春（5月26日）	13.22	3.01	4.91	21.14	85団体
	秋（10月29日）	11.00	2.72	4.11	17.83	86団体
	合計	24.22	5.73	9.02	38.97	
令和5年度	春（5月28日）	12.59	4.24	4.94	21.77	84団体
	秋（10月29日）	10.13	2.32	3.37	15.82	83団体
	合計	22.72	6.56	8.31	37.59	
令和4年度	春（5月29日）	12.68	4.15	7.60	24.43	86団体
	秋（10月30日）	11.60	4.04	4.13	19.77	79団体
	合計	24.28	8.19	11.73	44.20	



(2) 路上喫煙の防止

市では「朝霞市路上喫煙の防止に関する条例」により、市内での道路、公園、その他の公共の場所では喫煙をしないよう努力義務が規定されています。さらに、駅周辺においては「路上喫煙禁止」とし、定期的なパトロールを実施し、喫煙者に対する指導等を行い、悪質な違反者に対しては過料を徴収する場合があります。

みんなの迷惑です！路上喫煙

路上喫煙により、他者へのやけどの危険、副流煙による健康被害、ポイ捨てなど、周りの方の迷惑となるような行為は絶対にやめましょう。

【監視員によるパトロール実績】（令和6年度）

地区	対応件数	指導	応対	拒否
朝霞駅付近	109	70	39	
朝霞台・北朝霞駅付近	726	480	246	
合計	835	550	285	
年間パトロール日数	48日			



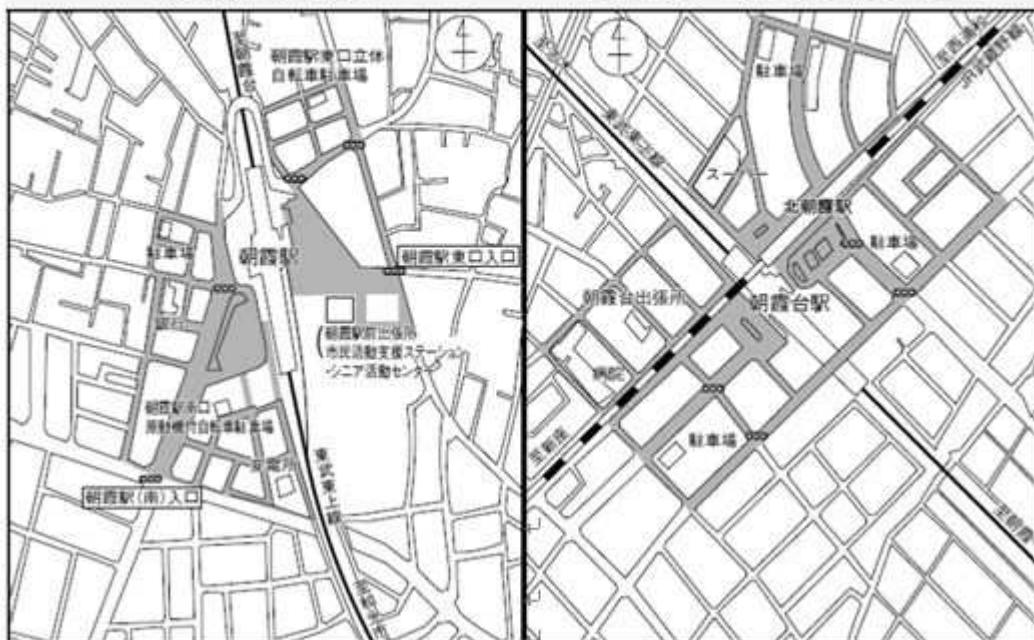
このマークのあるところは、
路上喫煙禁止です！！

路上喫煙禁止地区

●色の道路等は終日路上喫煙禁止区域です。

朝霞駅周辺地区

北朝霞・朝霞台駅周辺地区



安全で快適なまちづくりのために、皆さんのご協力をお願いします！

(3) ペットマナーの向上

○ 犬を飼ったら・・届出義務とマナー

狂犬病予防法により、飼い犬は飼い主のいる自治体で登録し、年1回狂犬病の予防注射を受けて、自治体で発行した犬鑑札と注射済票を着用することが義務づけられています。

狂犬病は、人間を含めたすべての哺乳類に感染し、発病すれば治療法はなく、ほぼ100%死亡するという恐ろしい病気です。日本は、昭和32年以降狂犬病の発生はありませんが、これは法律ですべての飼い犬に狂犬病予防注射が義務づけられた成果です。



※犬鑑札見本



※注射済票見本

【畜犬登録・注射済票交付数】

年度	新規登録数	合計登録数 (A)	注射済票交付数 (B)	注射接種率 (B/A × 100)
令和6年度	351	4,908	3,206	65.3%
令和5年度	362	4,845	3,031	62.6%
令和4年度	531	4,685	3,021	64.5%

犬の飼い主のマナー

犬の飼い主のマナー低下について、保健所や市にたくさんの相談が寄せられています。住みよいまちづくりのため、また、ご近所との不要なトラブルを避けるためにも、飼い主の方は次のことなどに気をつけましょう。

- ・散歩時の犬のおしっこは他人の迷惑にならないようにし、ふんは必ず持ち帰る。
- ・犬を制御できる方が散歩をさせ、リードは短めに持つ。
- ・毛の飛散や鳴き声など、近隣の方に迷惑にならないようにする。なお、市ではお困りの方に啓発看板を用意しています。



なお、犬の飼い主のマナーについての相談は、朝霞保健所にご連絡ください。

問合せ／埼玉県朝霞保健所（生活衛生・薬事担当）

048-461-0468

犬のウンチにお困りの方へ

イエローチョーク作戦

犬のウンチに困っている人が道路上に放置されたウンチの周りを黄色のチョークで囲み、発見した日時を書きこむことにより、迷惑していることを飼い主に知らせ、飼い主のマナー・モラルの向上を啓発します。既に実施している他自治体ではウンチの放置が減少したという効果が出ています。朝霞市でも黄色いチョークを配布しております。ご希望の方は窓口までお越しください。

ウンチや尿の放置は不衛生です。飼い犬のウンチ尿の始末は、飼い主のマナーです。飼い主の方は、イエローチョークでマークされることのないよう、正しくウンチを持ち帰りましょう。

イエローチョーク作戦の方法

- 1 ウンチを丸で囲む。
- 2 発見した日時を書く。
- 3 ウンチを片付けず日時を変えて現場を確認する。



ウンチが残っている場合▶「確認日時」を書き足す。
ウンチが残っていない場合▶「なし」と書く。

※ウンチがない時も予防のために
「パトロール中」と書くと効果的です！



◆注意事項◆

- ・許可なく私有地や他人の管理地に入り、書かないでください。
- ・道路上に書く場合は、交通事故には十分に気をつけてください。

朝霞市浜崎ドッグラン

飼い主同士の交流や飼い主のマナー及びモラルの向上により、人と動物の共生社会を推進するため、ドッグランを設置しました。

【オープン】令和5年4月28日

【利用時間】午前8時00分から午後7時00分まで

※利用時間内であっても、日没後は利用不可

【休場日】・年末年始（12月29日から1月3日）

・イベント開催時

・その他、市長が認めたとき

【利用方法】・利用料：無料

・利用手続：利用登録制（登録申請は隨時受付。登録証を発行）

・登録条件：市内在住者（登録者は18歳以上であること）

登録犬は、畜犬登録及び1年以内に狂犬病予防注射を接種し、
注射済票の交付を受けていること

【施設内容】・区割（面積）：小型犬エリア（230m²）

中・大型犬エリア（430m²）

共用部分（30m²）

駐車場スペース（255m²） 敷地面積計 945m²

・設備：小型犬エリア：天然芝敷き・パーゴラ（日除け）・ベンチ

中・大型犬エリア：天然芝敷き・パーゴラ（日除け）・ベンチ・散水栓

共有部分：水道・物置

犬の脱走防止のため、フェンスの高さ1.5m、二重扉としている。

駐車場：8台分

その他：利用ルール看板1基・掲示板1基を設置。



常駐の管理者は設置しておらず、定期的に職員が巡回しています。朝晩の施錠・開錠、清掃及び、
ドッグラン内の芝生の養生等は業務を委託して実施しております。

令和6年度は、729頭が利用登録しました。（令和5年度、1,324頭）



○ 猫は室内で飼いましょう！

市には「敷地にふん・尿をされて困っている」「鳴き声がうるさい」・・といった猫に関する相談が寄せられています。

近隣の迷惑とならないよう、猫は室内で飼いましょう。環境を整えることで、猫は室内飼育でも十分幸せに暮らすことができます。

猫が好きな人もいれば、もちろん苦手な人もいます。誰もが気持ち良く過ごせる地域になるようお気遣いをお願いします。

猫に関する相談は、埼玉県動物指導センターにご連絡ください。

問合せ／埼玉県動物指導センター南支所

048-855-0484

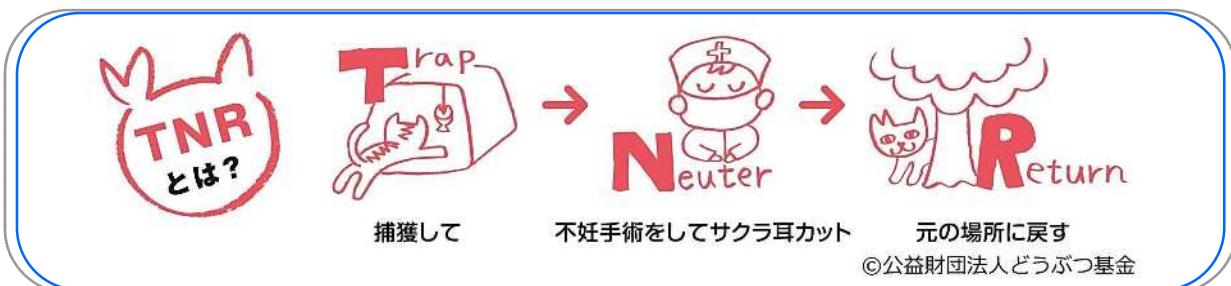


知っていますか？「TNR活動」「さくらねこ」

朝霞市では、ボランティア活動団体など市民の皆様のご協力をいただきながら、飼い主のいない猫の不妊・去勢手術（TNR活動）を推進することにより、野良猫の増加を抑制し、地域の環境改善を目指しております。

「さくらねこ」とは、耳先をV字カットした耳の形がさくらの花びらに似ていることに由来し、不妊・去勢手術済みの猫のことをいいます。

エサやりを禁止しても、野良猫の繁殖を止めることはできません。この活動により、一代限りの命を地域で見守っていただきますよう、皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



不妊・去勢手術をすると、猫による被害を防止及び抑制し、
地域の環境が改善されます

例えば、このような被害を防止及び抑制できます。

- ※ 自然繁殖を制限し、野良猫の増加を抑制
- ※ スプレー行動（マーキングのため、臭いの強い尿を撒く行動）
の抑制
- ※ 発情期の鳴き声の軽減

耳先のV字カット(通称サクラ耳)が
不妊・去勢手術済みの目印！



○ 動物愛護パネル展

市では、人間と動物が共生できるような豊かな社会づくりを目指し、不幸なペットを増やさないために、広報による啓発や看板によるペット飼育者へのモラルの向上を図っています。

また毎年、動物愛護週間等にあわせて「動物愛護パネル展」を実施しており、令和6年度は9月20日から27日に、市内動物愛護団体にもご協力いただき、動物の愛護と適正な飼養や、災害時のペット対策、TNR活動についてパネル展示と啓発冊子等の配布を行いました。

○協力市内動物愛護団体

「そらとゆめ」「もめんいと」

「動物との共生社会を目指す会V e s t.」

動物愛護週間（環境省）	9/20～26
愛護動物の遺棄等虐待防止旬間（埼玉県）	9/21～30
動物愛護パネル展（朝霞市）	9/20～27

【朝霞市動物愛護パネル展】

開催日：令和6年9月20日（金）～27日（金）

場 所：中央公民館・コミュニティセンター 1階展示ギャラリー



△動物愛護パネル展の様子



△ペット防災の展示

【動物愛護週間イベント】

○「ねこのことをはなそう会」

開催日：令和6年9月20日（金） 午後5時～8時

場 所：中央公民館・コミュニティセンター

主 催：もめんいと

○「わんこの介護者サロン」

開催日：令和6年9月21日（土） 午後1時30分～3時30分

場 所：中央公民館・コミュニティセンター

主 催：動物との共生社会を目指す会V e s t.

○「ノラ猫を取り巻く問題をみんなで考えるセミナー」

開催日：令和6年9月22日（日） 午後1時30分～4時30分

場 所：中央公民館・コミュニティセンター

主 催：N P O法人ねりまねこ

※朝霞市動物愛護パネル展開催に併せ、展示内容を X（旧ツイッター）し、各団体の取組や飼育マナーなどを広く周知しました。

(4) 放置自転車対策

① 放置自転車等の対策

本市では、「朝霞市自転車等放置防止条例」に基づき、駅周辺を自転車等放置禁止区域に指定し、放置自転車等防止対策の指導員による指導を行うとともに、歩道等に放置された自転車等を撤去することで道路空間の確保・交通安全の推進を図り、まちの環境美化にも積極的に努めています。

【朝霞市自転車等放置防止条例に基づく撤去状況】

種別	年度	朝霞駅南口		朝霞駅東口		北朝霞駅		朝霞台駅		合計	
		自転車	バイク	自転車	バイク	自転車	バイク	自転車	バイク	自転車	バイク
回数	R 6	10								10	
	R 5	5		5		5		5		20	
	R 4	5		5		5		5		20	
台数	R 6	43	0	18	0	29	0	19	0	109	0
	R 5	31	0	12	1	26	0	7	0	76	1
	R 4	30	0	14	0	18	0	14	0	76	0

② 自転車駐車場整備

本市では、駅周辺に自転車及び原動機付自転車の駐車場を整備し、放置自転車等の解消を推進しています。

【朝霞市自転車駐車場一覧】 (令和7年3月末現在)

有料自転車駐車場			収容台数
北朝霞駅・朝霞台駅	北朝霞駅東口地下自転車駐車場		定期利用 2,799
			一時利用 554
	北朝霞駅東口第一原動機付自転車駐車場		定期利用 205
	朝霞台駅南口地下自転車駐車場		定期利用 2,130
	朝霞台駅南口第一自転車駐車場		定期利用 135
			定期利用 210
朝霞駅	朝霞駅南口第一原動機付自転車駐車場		定期利用 79
	朝霞駅東口立体自転車駐車場		定期利用 756
			一時利用 112
	朝霞駅東口地下自転車駐車場		定期利用 692
			一時利用 156
	朝霞駅東口原動機付自転車駐車場		定期利用 78
	朝霞駅南口原動機付自転車駐車場		定期利用 142
			一時利用 44
	朝霞駅南口地下自転車駐車場		定期利用 3,613
			一時利用 696

(5) あき地・空き家の環境保全

あき地に雑草等が繁茂し放置されると、火災や犯罪の発生原因となってしまうことはもちろんのこと、清潔な生活環境も保持することができません。

市では、昭和44年12月25日に「朝霞市あき地の環境保全に関する条例」を制定し、管理不良な状態にあるあき地の所有者、管理者に対して、あき地が不良状態にならないよう指導しています。

雑草の処理については、所有者自身が行うことが原則のため、市ではあき地に繁茂する雑草を除去する際の肩掛式刈払機を無料で貸出しています。なお、人手不足や遠距離にお住まいの場合など、処理できない場合もあるので、委託料を納入された所有者に対しては、市で業者委託を行い、雑草の除去を行っています。

あき地と同様に、空き家等についても適切な管理が行われていない場合、防災や衛生、景観等の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼすことがありますので、「朝霞市空き家等の適正管理に関する条例」に基づき、空き家等の所有者、管理者に対して、適正な管理をするよう助言しています。

【あき地に係る対象箇所数・対応済件数】

年度	対象箇所数	対応済延べ件数 (うち市委託件数)
令和6年度	27	35(0)
令和5年度	23	20(0)
令和4年度	20	20(0)

【空き家に係る対象箇所数・対応済件数】

年度	相談件数	対応済延べ件数
令和6年度	33	33
令和5年度	34	34
令和4年度	30	30

刈払機の貸出し

市では、あき地に繁茂する雑草を除去するため、肩掛け式刈払機を無料で貸出しています。なお、台数に限りがありますので、事前に電話等でご連絡ください。



【刈払機貸出し件数】

年度	件数
令和6年度	50
令和5年度	23
令和4年度	36

問合せ／環境推進課 環境推進係
048-463-1504

(6) 鳥獣・害虫被害の防止

鳥獣等は、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護法）」や「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」等により、むやみに捕獲や駆除することができないものや、駆除が可能となっているものなどが定められています。このため、市民から寄せられた相談については、現地の状況や相談内容によって多様な対応が求められています。

また、公共施設や市の管理する樹木に発生する害虫に対しては、環境への影響を考慮し、枝の剪定や必要最小限の弱毒性殺虫剤の散布等の方法により駆除をすることとしています。

【鳥獣・害虫相談件数】

年度	カラス	ハト	ムクドリ	ハビ	ハクビシン	アライグマ	犬	猫	その他	合計
令和6年度	11	18	4	3	7	41	7	37	67	195
令和5年度	13	22	5	1	12	43	20	31	66	213
令和4年度	7	22	5	3	14	46	13	47	77	234

※ その他は、蚊、ユスリカ、毛虫、クモ、カメ、ツバメ等

○ スズメバチの巣の駆除

市では、平成30年度から、人に危害を及ぼす恐れのあるスズメバチの巣の駆除を始めました。

年度	駆除件数（件）
令和6年度	23
令和5年度	37
令和4年度	28

巣を作るスズメバチ⇒
(マーブル模様が特徴)



【ハチの巣の相談・駆除件数】

年度	スズメバチ	アシナガバチ	ツチバチ ミツバチ	その他 (不明)	総計
令和6年度	87	33	7	14	141
令和5年度	91	57	8	25	181
令和4年度	73	108	12	37	230

民地のスズメバチ以外のハチの巣の駆除については専門の業者「埼玉県ペストコントロール協会」(次ページ参照)を紹介することとしています。

ハチにご注意ください！

春先から夏にかけて、ハチの行動が活発になり、秋口には攻撃性が高まります。

巣を見た場合は、近づきすぎたり、振動を与えるなどして、巣にいる蜂を刺激しないようにならぬましょう。また、スズメバチと遭遇したら、白いタオルなどで頭を覆い、落ち着いてその場から離れましょう。（※スズメバチは、人間やクマなど天敵の弱点である頭部など、黒色の部分を狙う習性があります。）

万が一刺されてしまった場合には、すぐに患部を水で洗い流した後、保冷材等で冷やしてください。強いアレルギー反応を起こすことがあるので、早めに医師の診察を受けましょう。

《ハチの巣の出来やすい場所》



《ハチの巣の防止策！》

巣の出来やすい場所に、あらかじめ殺虫剤などを吹きかけておくと効果があると言われています。（殺虫剤等をかけて問題ない場所か確かめてから行ってください。）

《ハチの相談窓口》

（公社）日本ペストコントロール協会の構成団体「埼玉県ペストコントロール協会」

（電話：048-854-2890）で害虫駆除についての無料相談を実施しています。また、企業やマンション・アパート、駐車場の敷地内などについては、管理会社等に対応をご相談ください。

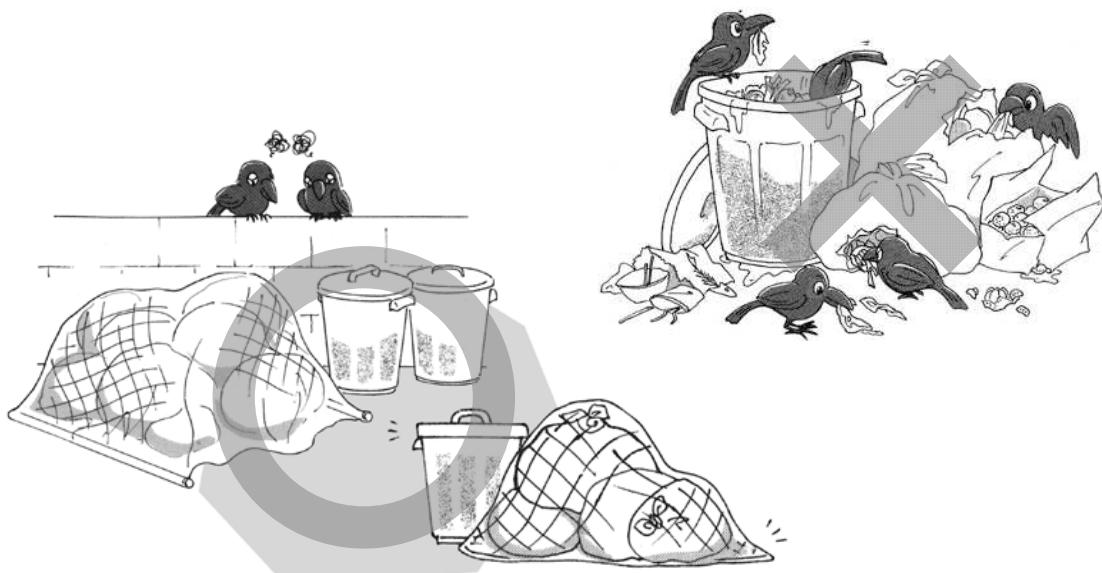
カラスの被害を防ぐために

毎年、春から夏にかけて、「カラスに襲われる」などの相談が多く寄せられます。この時期は、カラスは繁殖期を迎え、巣やひなに近づいた人間を威嚇することがありますので、気をつけましょう。

《カラスを寄せつけない、巣を作りにくくする対策》

①ごみの出し方に注意する。

- ・収集日当日の決められた時間内にごみを出す。
- ・生ごみをごみ袋の奥に入れ、きちんと閉じ、外から見えないように工夫をする。
- ・クリーンネット（資源リサイクル課で貸出）で、ごみがはみ出さないようにする。



②食料を与えない

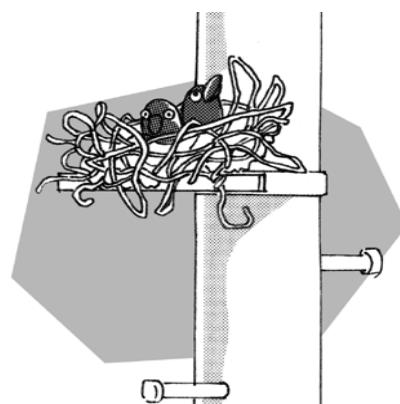
- ・庭やベランダに置くペットの餌を取られないように注意する。(すきを狙って、カラスが横取りします!)

③巣材を与えない

- ・針金ハンガーは出しっぱなしにしない。(鉄塔や電柱に巣が出来ると、停電などの原因になります。)

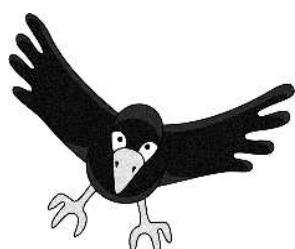
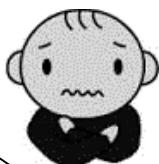
④巣を作る場所をなくす

- ・庭木の二股、三股になっている枝木をせん定する。



《巣を発見した時の対策》

- ・カラスが警戒する行動を見せたら、巣やひなから離れましょう。
- ・やむを得ず通る場合は帽子や傘で頭を守りましょう。
- ・卵を産む前に取り扱う。樹木に作られている場合は枝ごと落とす。



- ・なお、カラスに限らず、卵やひなのいる巣は、鳥獣保護法により、むやみに壊すことは禁止されています！！！

○ 駅周辺のムクドリ対策について

近年、7月～8月頃をピークに繁殖期を終えたムクドリが、朝霞台駅・北朝霞駅や朝霞駅周辺に数千羽と集まるため、糞害や鳴き声などの被害で悩まされており、樹木の剪定や忌避音（ムクドリが天敵に追われている時の鳴き声）などによる追い払い対応してきました。

令和2年度からは新たなムクドリ対策として、鷹匠による追い払いを実施し、駅周辺の環境改善に努めています。令和6年度は2回実施し、ムクドリの鳴き声や糞などの被害を軽減することができました。



△北朝霞駅周辺に集まるムクドリ

年度	実施回数（実施日）
令和6年度	2回（7月10日、11月12日）
令和5年度	2回（7月18日、11月22日）
令和4年度	2回（7月11日・11月9日）

環境目標3 脱炭素・循環型社会の推進



限りある資源を大切にし、環境に負担をかけないまち

3-1 クリーンなエネルギーをつくる

1 再生可能エネルギーの普及促進

【創エネ・省エネ設備設置費補助】

市では、環境に配慮した創エネ・省エネ設備の普及を促進することにより、温室効果ガスの排出の抑制と雨水の有効活用および河川への流出抑制を図るため、省エネ・省エネ設備（太陽光発電システム・家庭用燃料電池・定置用リチウムイオン蓄電池・雨水貯留槽、HEMS、V2H）の設置費用の一部を補助しています。

※雨水貯留槽に関しては、58ページに掲載しています。



(1) 住宅用太陽光発電設備設置の推進

創エネ・省エネ設備設置費補助金ホームページ

市では、平成13年度から「住宅用太陽光発電システム」の設置に対し設置費の一部を補助し、環境への負荷の少ないクリーンエネルギー導入の促進を図っています。

補助制度開始当初から令和6年度までに計1,067件の補助を行いました。

【住宅用太陽光発電システム設置費補助実績】

年度	補助額	補助金 交付件数	補助金 交付総額	最大出力合計値
令和6年度	出力1kW当たり3.5万円 ※限度額：戸建 10万円 組合 50万円	27件	2,536,000円	93.65kW
令和5年度	出力1kW当たり3.5万円 ※限度額：戸建 10万円 組合 50万円	25件	2,454,000円	90.44kW
令和4年度	出力1kW当たり3.5万円 ※限度額：戸建 10万円 組合 50万円	25件	2,354,000円	113.95kW

【発電量推計値によるCO2削減量】

年度	最大出力合計値 (kW)	年間発電量推計値 (kWh)	1年間のCO2削減量 (t-CO2)
令和6年度	93.65	112,380	48.44
令和5年度	90.44	108,528	49.60
令和4年度	113.95	136,740	62.49
平成13～ 令和6年度 までの累計	4,090.42	4,908,504	2,667.06

※樹齢50年の杉の木1本で、年間約14kg-CO2の二酸化炭素を吸収しています。

○ 家庭用燃料電池（エネファーム）設置の推進

市では、平成30年度から「家庭用燃料電池（エネファーム）」の設置に対し設置費の一部を補助し、温室効果ガスの排出の抑制等を図っています。

【家庭用燃料電池（エネファーム）設置費補助実績】

年度	補助額	補助金 交付件数	補助金 交付総額	最大出力合計値
令和6年度	一律5万円	1件	50,000円	0.7kW
令和5年度	一律5万円	0件	0円	0kW
令和4年度	一律5万円	0件	0円	0kW

○ 定置用リチウムイオン蓄電池設置の推進

市では、平成30年度から「定置用リチウムイオン蓄電池」の設置に対し設置費の一部を補助し、温室効果ガスの排出の抑制等を図っています。

補助制度開始当初から令和6年度までに計189件の補助を行いました。

【定置用リチウムイオン蓄電池設置費補助実績】

年度	補助額	補助金 交付件数	補助金 交付総額	最大容量合計値
令和6年度	一律10万円	30件	3,000,000円	233.9 kWh
令和5年度	一律10万円	34件	3,400,000円	240.5 kWh
令和4年度	一律10万円	26件	2,526,000円	218.1 kWh

※令和4年度は、1件予算残額の範囲内で交付したため、補助金交付総額に端数が生じている。

○ HEMS設置の推進

市では、令和5年度から「HEMS」（ホームエネルギー・マネジメントシステム）の設置に対し設置費の一部を補助し、温室効果ガスの排出の抑制等を図っています。

【HEMS 設置費補助実績】

年度	補助額	補助金 交付件数	補助金 交付総額
令和6年度	一律1万円	7件	70,000円
令和5年度	一律1万円	4件	40,000円

○ V2H設置の推進

市では、令和5年度から「V2H」（ビークル・トゥ・ホーム）の設置に対し設置費の一部を補助し、温室効果ガスの排出の抑制等を図っています。

【V2H設置費補助実績】

年度	補助額	補助金 交付件数	補助金 交付総額
令和6年度	一律10万円	3件	300,000円
令和5年度	一律10万円	2件	200,000円

2 公共施設への再生可能エネルギーの導入促進

(1) 公共施設の太陽光発電等の導入

市では、地球温暖化対策の一環として、環境への負荷の少ない「太陽光発電設備」の公共施設への導入を推進しています。令和6年度までに設置した主な施設は表のとおりです。また、市内の公園施設（トイレ、照明設備、時計等）においても一部設置しています。

太陽光発電設備設置施設	最大出力値	太陽光発電設備設置施設	最大出力値
市役所本庁舎	10.53 kW	宮戸保育園	4.82 kW
産業文化センター	19.60 kW	溝沼学校給食センター	4.80 kW
リサイクルプラザ	10.00 kW	中央公園野球場	5.01 kW
根岸台市民センター	5.01 kW	朝霞第四小学校	10.00 kW
膝折市民センター	5.00 kW	朝霞第五小学校	10.00 kW
総合福祉センター	57.40 kW	朝霞第六小学校	20.91 kW
溝沼複合施設	10.02 kW	朝霞第九小学校	17.22 kW
内間木公民館	16.96 kW	朝霞第十大学校	95.55 kW
		朝霞第一中学校	20.00 kW

○ 小水力発電

水道庁舎において、安定した流量・圧力で流入する埼玉県からの水道用水を活用して、発電用水車を回転させる方法で小水力発電を実施しています。

年度	小水力発電量
令和6年度	483,829kwh
令和5年度	467,442kwh
令和4年度	469,086kwh

3-2 省エネルギー・省資源をすすめる

1 環境に配慮した行動の推進

(1) エコライフ・省エネルギーの普及・促進

① 省エネ・省資源行動の普及促進

市では、脱炭素社会の実現に向け、国が取り組んでいる「デコ活」や、埼玉県の「エコライフ DAY&WEEK」の実施等を、広報あさかや SNS による周知啓発で、市民、事業者の省エネ・省資源につながる環境配慮行動を促進します。

「デコ活」等の周知啓発を推進していきます。

「デコ活」とは、二酸化炭素 (CO₂) を減らす (DE) 脱炭素 (decarbonization) と、環境に良いエコ (Eco) を含む“デコ”と活動・生活を意味する“活”を組み合わせた新しい言葉です。2050年カーボンニュートラル及び2030年度削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするための新しい国民運動です



COOLBIZ WARMBIZ	5つ星	smart move	eco チョイス!エコカー	断熱リフォーム 省エネ建材 ZEH 水回りでCOOL CHOICE
クールビズ、ウォームビズを推進します。	「統一省エネルギー ラベルの星の多い家電への買換え」や「LED 照明への買換交換」を促進します。	公共交通機関の利用、自転車の利用を促進します。エコドライブを推進します。	「地球」にやさしいエコカーの普及を促進します。	住宅の省エネ・脱炭素化推進のため、高断熱・省エネ住宅への買換えや省エネリフォームの普及を促進します。

(資料：環境省ホームページ)

また、市役所の取組み職員一人ひとりが環境に配慮した暮らし方に取り組むエコライフDAY&WEEKを夏、冬に実施し、CO₂削減量効果を確認するエコライフチェックを行いました。この結果、令和6年度は、夏冬合せて29.9t（エコライフDAY 6.7t、エコライフWEEK 23.2t）のCO₂を削減することができました。

年度	エコライフDAY&WEEKチェックシート 回収率
令和6年度	91.5%
令和5年度	91.3%
令和4年度	94.1%

② 地域リサイクル活動の推進

ごみの減量化・再資源化を推進するため、家庭の排出段階から抑制し、リサイクルへ直接回すことにより、ごみ処理施設への負担及び処理経費を節減するため、回収量に応じて補助金を交付し、市民の方々による自主的な地域環境保全活動を援助しています。

【令和6年度地域リサイクル活動実績】

登録団体数	回 収 品 目 及 び 回 収 量			
	紙 類	布 類	金 属 類	び ん 類
159団体	814,383kg	79,004kg	49,673kg	110kg
回収量合計	943,170kg			



※冊子「資源とゴミの分け方・出し方」

③ 建築物エネルギー消費性能基準に適合する住宅

長期にわたり良好な状態で使用するための措置が構造及び設備に講じられた住宅の普及の促進を目的として、「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」が平成21年6月4日に施行されました。そのため、朝霞市でも耐久性や耐震性が高く、省エネルギー性能に優れた長く住み続けられる優良な住宅の建設を促進するため、長期優良住宅認定手続きの普及・啓発に努めます。

また、社会経済活動その他の活動に伴って発生する二酸化炭素の相当部分が都市において発生していることから、平成24年12月4日に「都市の低炭素化の促進に関する法律」が施行され、住宅ローン減税等の税制上の優遇や容積率緩和等がある低炭素建築物の認定制度が創設されました。低炭素化のための措置を講じられた建築物の建設を促進するため、低炭素建築物の認定手続きの普及・啓発に努めます。

また、建築物のエネルギー消費性能の向上を図るため、平成28年4月1日に「建築物エネルギー消費性能の向上に関する法律」が施行されました。建築物エネルギー消費性能基準に適合する住宅の認定手続きの普及・啓発に努めます。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
長期優良住宅の認定数	70件	53件	72件
低炭素建築物の認定数	12件	1件	0件
建築物省エネ住宅の認定数	2件	0件	0件

(2) 地球温暖化対策実行計画の推進

① 朝霞市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の推進

近年の地球温暖化対策としては、その進行を抑制することを目的として、温室効果ガス排出量を削減するための緩和策に取り組むことが重要であるとともに、世界各国で発生している気候変動が一因と考えられる異常気象を踏まえ、気候変動による被害の防止・軽減を図ることを目的とした適応策が求められています。

日本では、令和2年10月、地球温暖化対策における新しい長期目標となる「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。また、令和3年4月に、2030年度において、温室効果ガス46%削減（平成25年度比）を目指すこと、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けることを表明しました。さらに、令和7年2月に、2035年度、2040年度に温室効果ガス削減60%、73%（平成25年度比）の目標を新たに掲げました。

本市においても市域全体の温室効果ガス排出量を削減するため、第3次朝霞市環境基本計画に内包する「朝霞市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定しました。

【地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の計画期間及び削減目標】

計画期間	削減目標
令和4年度～令和12年度 (9年間)	温室効果ガスの総排出量を、平成25年度を基準として 46%削減

【地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の実績値】

項目	排出量 千t-CO ₂	削減量 (基準年度比) 千t-CO ₂	削減率 (基準年度比)
令和4年度	475.2	143.7	23.2%
平成25年度 【基準年度】	618.9	—	—

② 第4次朝霞市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の推進

「地球温暖化対策の推進に関する法律」（平成11年4月施行）に基づき、市における温室効果ガスの排出の抑制と安定化に向けた実効性のある具体的な取り組みを着実に実施していくため、「朝霞市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定しました。この計画では、市庁舎をはじめとする公共施設において、市の職員が直接実施する事務及び事業のすべてを対象に期間を定めて温室効果ガスの排出量削減目標を定めています。第1次計画では、基準年度（平成12年度排出量）比で1.0%の増加、第2次計画では、基準年度（平成19年度排出量）比で1.09%の増加となりました。第3次計画では、平成25年度を基準として、平成27年度から令和3年度までの7年間で、温室効果ガス総排出量を計7%（年平均1%）削減することを目標としていましたが、基準年度比で1.06%の増加となりました。

第4次計画では、平成25年度を基準として、令和4年度から令和12年度までの9年間で、温室効果ガス総排出量を計38%以上削減することを目標としています。なお、第4次計画からは、廃棄物の焼却処理等に伴って発生する非エネルギー起源のCO₂も対象となっています。

【第4次朝霞市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の計画期間及び削減目標】

計画期間	削減目標
令和4年度～令和12年度 (9年間)	温室効果ガスの総排出量を、平成25年度を基準として 38%以上削減

【第4次朝霞市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の削減目標値】

項目	平成25年度 排出量の実績値 【基準年度】t-CO ₂	令和12年度 排出量の目標値 【目標年度】t-CO ₂	令和12年度 削減目標値 t-CO ₂
温室効果ガス 【CO ₂ 、CH ₄ 、N ₂ O、HFC】	16,879	8,271	8,608 (51%)
温室効果ガス 【非エネルギー起源 CO ₂ 】	9,615	8,173	1,442 (15%)
合計	26,494	16,444	10,050 (38%)

【第4次朝霞市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の実績値】

年度	エネルギー起源		非エネルギー起源		計	
	排出量 t-CO ₂	削減率 (%)	排出量 t-CO ₂	削減率 (%)	排出量 t-CO ₂	削減率 (%)
令和6年度	14,807	12.2	10,233	△6.44	25,041	5.5
令和5年度	14,712	12.8	8,581	10.8	23,293	12.1
令和4年度	14,253	15.6	11,057	△15.0	25,310	4.5
平成25年度 【基準年度】	16,879	—	9,615	—	26,494	—

③ 温室効果ガスの排出抑制への取り組み

市では、計画に基づき、温室効果ガスの排出量削減目標を達成するため、各種取り組みを主体的かつ積極的に推進し、庁内推進組織の設置や職員に対する研修の実施、地球温暖化に関する情報提供、温室効果ガスの排出量削減目標に対する進捗状況の点検と「広報あさか」及び市ホームページで公表を行っています。

排出を直接抑制するためのおもな取り組み	排出の抑制に配慮したおもな取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・電気使用量の削減 冷暖房の適切な使用、不必要的照明の消灯、 その他の節電 ・燃料使用量の削減 公用車の使用の抑制及び適正な運転や管理、 公用車の買い換え時の低公害車等の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した物品の購入・紙類の使用量の抑制 ・リサイクルの推進・廃棄物の削減 ・水道水の節約 ・環境に配慮した建設工事の推進 環境配慮型施工方法の採用、建設副産物の抑制対策、 再生可能エネルギー及び省エネシステムの推進

④ 「埼玉県地球温暖化対策推進条例」への対応

「埼玉県地球温暖化対策推進条例」は、県民、事業者、環境保全団体、行政など各主体が連携しつつ取り組むべき具体的な対策を定め、地域総ぐるみで地球温暖化対策を推進するために平成21年に施行され、事業者単位で合算してエネルギー使用量が原油換算で1,500キロリットル以上の事業者に対して、報告の作成を義務付け、事業所ごとに削減目標を定めています。

朝霞市では、市、教育委員会、クリーンセンターの3つに分けて報告を行っています。

⑤ 「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律」（省エネ法）等への対応

「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律」は、エネルギー使用の合理化をより一層推進するために、年間のエネルギー使用量が原油換算で1,500キロリットル以上の特定事業者に対して、エネルギー使用量（エネルギー原単位）の報告及び年間1%以上の削減を求めています。

市、教育委員会が特定事業者となり1,500キロリットルを越えるクリーンセンターがエネルギー管理指定工場等に指定され、国に対し、エネルギー使用量の報告等を行っています。

⑥ 地球温暖化対策等の促進

本市では、市民や事業者が地球温暖化防止に向けた取り組みや活動を行っていただくための啓発や支援等を行っています。

- ・創エネ・省エネ設備設置費補助事業（再掲P48～50、P58）
- ・地域リサイクル活動推進補助事業（再掲P53）

2 水の有効利用

(1) 節水の啓発

市では、水は限りある大切なものとして、広報あさかやポスターなどを活用し、水の有効利用に関する普及を進めて、節水意識の向上を図っています。

【市内の水道給水量】

年度	給水量	1人1日平均給水量
令和6年度	1,548万m ³	291ℓ
令和5年度	1,529万m ³	287ℓ
令和4年度	1,520万m ³	289ℓ

(2) 雨水の利用

市では、新たに設置する公共施設において、雨水を利用したトイレの洗浄や樹木等への散水と上水道の節約を目的とした雨水利用設備を導入するよう努めています。令和4年度までに導入した施設は次ページ表のとおりです。

雨水や再生水を利用した施設 20施設

施設名	施設名
根岸台市民センター	北朝霞駅東口地下自転車駐車場
膝折市民センター	朝霞駅南口地下自転車駐車場
産業文化センター	朝霞駅東口地下自転車駐車場
リサイクルプラザ	朝霞駅南口公衆トイレ
溝沼複合施設（溝沼保育園含む）	朝霞第一小学校
さくら保育園	朝霞第四小学校
宮戸保育園	朝霞第五小学校
仲町保育園	朝霞第十小学校
新高橋ふれあい広場トイレ	朝霞第一中学校
博物館	溝沼学校給食センター

※再生水とは雨水以外の排出水を循環させるなどで再利用させているもの

また、雨水の再利用を推進するため、平成27年度から住居に設置する雨水利用設備に対して、その費用の一部を補助しています。補助制度開始当初から令和6年度までに計31件の補助をしました。

【雨水貯留槽設置費補助実績】

年度	補助額	補助金 交付件数	補助金 交付総額	設置容量 合計値
令和6年度	戸建：購入費用等の1/2（限度額：2万円） 組合：1基あたりの購入費用等の1/2に設置 基数を乗じた額（限度額）10万円	2件	37,000 円	400ℓ
令和5年度	戸建：購入費用等の1/2（限度額：2万円） 組合：1基あたりの購入費用等の1/2に設置 基数を乗じた額（限度額）10万円	1件	6,000 円	115ℓ
令和4年度	戸建：購入費用等の1/2（限度額：2万円） 組合：1基あたりの購入費用等の1/2に設置 基数を乗じた額（限度額）10万円	1件	20,000 円	200ℓ

3-3 地球に負荷の少ないまちをつくる

1 環境に配慮した移動手段の推進

(1) 歩道、自転車利用環境等の充実

市では、歩行者の安全を確保するため、主要道路（市道）の歩車道分離等の整備を進め
るほか、遊歩道の路面清掃や定期除草を実施しています。

【歩道整備状況】

年度	歩道整備延長
令和 6 年度	201.0m
令和 5 年度	69.0m
令和 4 年度	237.1m

① 放置自転車対策の推進

自転車は、通勤・通学・買い物等の手軽な手段として、無公害性、経済性等により年々そ
の利用が高まっています。その一方で、これらの自転車が駅周辺の道路や公園等の公共の場
所に放置され、歩行者への通行妨害、街の美観が損なわれる等の原因となっています。

このため、市では、「朝霞市自転車等放置防止条例」に基づき、駅周辺を「自転車等放置
禁止区域」に指定するなどして、自転車の放置防止に努めています。

<自転車等放置禁止区域>

朝霞駅南口・東口周辺



朝霞台駅・北朝霞駅周辺



志木駅周辺



② 自転車利用環境の整備、交通安全意識の高揚

市では、歩車道の分離、自転車通行帯、カーブミラー、道路照明灯などの交通安全施設の設置、無電柱化、放置自転車対策などを行い、安全な道路環境を整備するとともに、交通安全教室や街頭キャンペーンなどにより、交通安全意識の啓発や自転車利用者のマナー向上に努めています。また、駅周辺に自転車駐車場を整備し、放置自転車等の解消を図っています。

道路整備にあたっては、道路整備基本計画に基づき、歩道整備や道路のバリアフリー化を重点的に行い、その他の生活道路等については、歩行者等に配慮した交通安全施設の充実（グリーンベルトの設置など）に努めます。

また、安心して歩ける歩行空間の確保に向け、歩道上の障害物（看板や放置自転車等）対策、ガードレールなど安全施設の整備や自転車通行帯の設置に努めます。

その他、交通安全啓発として市内小学校、保育園及び幼稚園を対象に交通安全教室を実施しています。また、放置自転車等の課題、自転車利用の促進、公共交通の機能の補完、地域の活性化等に資する新たな都市の交通システムとして、シェアサイクル事業の実証実験を民間事業者と共同して実施しています。

(2) 次世代自動車の普及促進

市では、「朝霞市低公害車導入指針」を平成19年から施行し、大気環境の保全や環境負荷*の低減、及び地球温暖化の防止を図るため、有害物質や温室効果ガス*の排出が少ない車両や、燃費性能に優れた車両を公用車として積極的に導入しています。

令和6年度は、計12台の低公害車（内、電気自動車なし）を導入しました。

電気自動車（EV）用急速充電器をご利用ください！

市では、大気環境の改善や地球温暖化対策の一環として、走行時に二酸化炭素を排出しない電気自動車の普及を推進するため、市役所の駐車場内に電気自動車用の急速充電器を設置しています。

なお、平成25年度から設置していた一般駐車場内の急速充電器（1基）は令和3年11月1日に老朽化のため撤去し、新たに令和4年2月1日から市役所公用車駐車場内に急速充電器1基（2台同時充電可能）を設置しました。

電気自動車用急速充電器（充電カード式）令和4年2月1日～

利用可能日：毎日（年末年始を除く）

利用時間：24時間

利用料：充電カードあり…充電カード発行元が設定する料金

充電カードなし…1回550円（税込み）



【市設置電気自動車（EV）用急速充電器利用状況】

年度	利用可能日数	充電量（kWh）	充電回数	うち一般充電回数
令和6年度	356	15,159.2	1,684	1,667
令和5年度	360	15,993.6	1,737	1,727
令和4年度	359	9,882.3	1,086	1,072

問合せ／環境推進課 環境対策係 048-463-1512

2 コンパクトで利便性の高い生活環境整備

(1) 広域交通ネットワーク形成

公共交通空白地区を改善し、市内の面的な公共交通ネットワークの形成など、市民や交通事業者等と一体となって「守り、支え、育てる」持続可能な公共交通の構築に努めます。

(2) 公共交通機関の利用環境の充実

① 鉄道利便性向上

市では、武蔵野線旅客輸送改善対策協議会及び東武東上線改善対策協議会を通じて、鉄道事業者に対し、駅における安全性の確保や駅施設のバリアフリー化など、安全で快適に利用できる公共交通の利用環境の向上を図るために要望をしており、令和6年度は、鉄道事業者への要望を2回行いました。

② 路線バス、市内循環バスの利便性向上

市では、公共交通の不便な地域の解消を図ることなどを目的に、市内循環バスを運行しています。令和6年度は延べ374,299人の利用がありました。

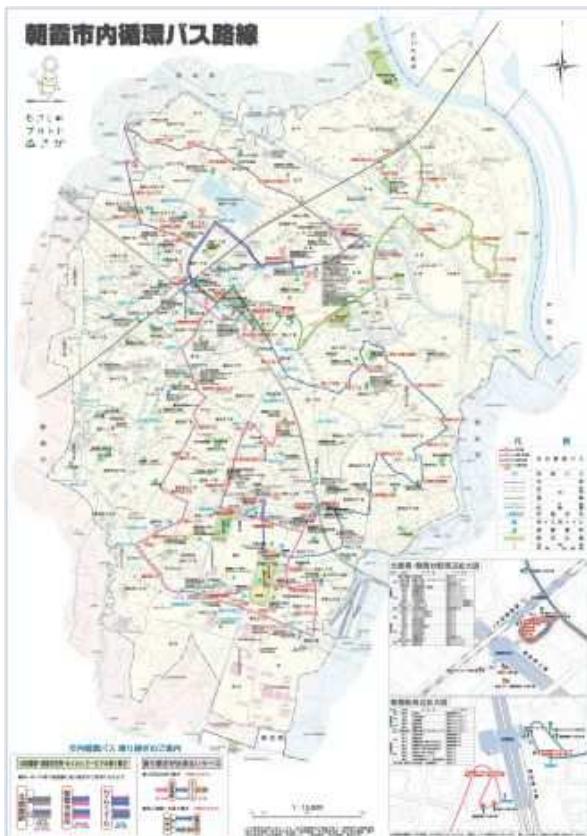
地域特性に応じた効果的・効率的な地域公共交通を実現するため、「朝霞市地域公共交通計画」に基づき、公共交通空白地区の改善に向けた新たな公共交通の導入の検討や路線バス初乗り運賃との均衡を図るために運賃改定等、各種施策を推進しました。

	市内循環バス利用者数(年)
令和6年度	374,299人
令和5年度	386,520人
令和4年度	379,307人

(表紙)



←↓朝霞市内循環バス マップ&時刻表は、
朝霞市役所で配布しています。
(路線図みほん)



3-4 資源を大切に、繰り返し使う

わたしたちが、社会生活を営むうえで日々大量に発生する廃棄物（ごみ）があります。この「ごみ」といかにつきあっていくかが、現在、大きな課題の一つとなっています。

令和6年度のごみ排出量は、家庭ごみの排出量が減少し、総排出量は前年度から380t減少して、36,205tになりました。しかしながら、家庭ごみ、事業ごみともに排出量目標値よりも多くごみを排出しており、この状態が続くと、ごみ処理施設に経常的な負担をかけるばかりでなく、わたしたちの生活環境に多大な影響を及ぼすことになります。

たとえば、ごみ処理施設の老朽化、最終処分場の不足、ごみ処理経費の増加、ごみ焼却時におけるダイオキシン類の発生等、財政負担や人体および生態系への影響が出てきています。

地球の資源が有限である以上、まず廃棄物の発生を減らし、それでも排出せざるを得ない廃棄物でもリサイクルできるものは「再資源」として活かしていくことがとても大切です。

市では、ごみ問題の解決に向け、市民、事業者、行政がそれぞれの役割の中で、「リデュース」（廃棄物を出さない）、「リユース」（再使用する）、「リサイクル」（再資源化する）という、ごみ減量の大切なキーワード「3R」を柱に、さまざまな事業を実施しています。

1 廃棄物の排出抑制の推進

（1） 3Rの推進

市では、ごみ問題に対する市民の意識啓発の高揚を図るため、「資源とゴミの分け方・出し方」など各種啓発パンフレットを作成、配布しているほか、啓発用DVD「Eco City あさか～3Rはごみを減らすキーワード～」を作製して、貸出しを行っています。

令和6年度は、広報あさかやホームページに啓発記事を掲載したほか、11月に分別キャンペーン月間を設け、適正な分別を啓発しました。

海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化などの解決に向けた第一歩として、令和2年7月1日よりレジ袋の有料化が始まりました。レジ袋の素材であるプラスチックの削減を図るため、マイバックの持ち歩きを啓発します。

リサイクルプラザでは、ごみの減量、再資源化や環境に関する情報発信の拠点として、家庭で不用になったものをごみにしないで再利用するよう、リサイクルショップの運営、家具類の再生販売、不用品情報交換などの事業の他、賞味期限切れ前の食品（常温で保存が可能なもの）を回収し、市内の子ども食堂で活用していただく食品ロス削減事業や、家庭で不用となった市内中学校の制服や体操着を、各学校を通じて必要としている方に再利用していただく制服リサイクル事業を実施しています。

（2） 生ごみの減量化

ごみの約7割は燃やせるごみです。中でも大半を占めるのは、生ごみや紙ごみです。市では、生ごみの減量施策として、家庭での水切りを推進しています。令和6年度は、10月の3R推進月間事業において、水切りネットを公共施設で配布し、啓発に努めました。

また、公設保育園や学校給食センターなどでは、給食の生ごみの回収を堆肥化のできる業者へ委託し、ごみの減量化・資源化を推進しています。令和6年度は、学校給食センター・朝霞第四小・五小・八小では77,191t、総合福祉センターでは1,801tの給食生ごみを回収し、堆肥化しました。

(3) 食品ロス削減

食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことです。日本の食品ロスの量は年間464万トン（令和5年度推計値※農林水産省）になります。これは日本人1人当たりに換算すると1年で約37kg、1人当たり毎日、おにぎり約1個のご飯を捨てていることになります。食品を作るためには多量のエネルギーを消費し、廃棄の際には運搬や焼却で余分な二酸化炭素を排出します。そのため、朝霞市では大切な資源の有効活用や環境負荷に配慮するため、食品ロス削減の啓発を行い、給食の食べ残しを減らす取り組みや生ごみのたい肥化などを進め、食品ロス削減を推進します。また、家庭で不要になった賞味期限切れ前の食品（常温で保存が可能なもの）をリサイクルプラザで回収し、市内の子ども食堂で活用していただく食品ロス削減事業（フードドライブ）を推進します。

(4) 廃棄物処理や資源循環の重要性に関する学習機会の充実

リサイクルプラザでは、市民ボランティア団体「朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会」が市との協働で講座等の事業を計画します。この協議会は、市民が主体的に事業を企画・立案し、活動しています。

令和6年度は、「古紙から手すきはがきを作ろう！」「こども石けんづくり講座」「食品リサイクルのはなし～おもしろSDGs！～」を実施しました。

(5) 事業者に対する適正排出・適正処理の指導

① 事業活動における廃棄物の減量化、資源化

市では、事業ごみの減量化、資源化を図るため、事業系ごみ削減キャンペーンの実施や、ホームページ、事業用パンフレットの配布により、事業者への意識啓発を図っているほか、大規模事業者の実地検査を行い、ごみの減量・再資源化を推進しています。

また、クリーンセンターでは、搬入ごみを検査し、分別が守られていない事業者に対して指導を行っています。

【ごみ処理状況の推移】

年度	人口(人)	年間総排出量(t)	内訳(t)		処理量内訳(t)		1人当たり家庭ごみ (集団資源回収を除く)排出量(g／日)
			家庭ごみ	事業ごみ	焼却	その他	
R6	145,984	36,205	28,851	7,354	26,249	9,956	524
R5	145,531	36,585	29,344	7,241	26,508	10,077	532
R4	144,287	37,825	30,453	7,372	27,103	10,722	558

総排出量=収集量+直接搬入量、人口は各年度末現在

2 資源化の推進

(1) 地域リサイクル活動の推進（再掲P53）

(2) 廃棄物の資源化の促進

市では、廃棄物のリサイクルを推進するために分別収集及び集団資源回収に取組んでいます。ごみの分別については、啓発冊子や分別看板の配布、広報あさかやホームページを活用した啓発のほか、分別キャンペーン月間、ごみ集積所監視パトロールを実施し、適正な分別排出指導を行っています。

また、市民団体等による集団資源回収活動に対し、朝霞市地域リサイクル活動推進補助金を交付することで、再資源化に対する意識の高揚を図っています。令和6年度のリサイクル率は31.6%でした。

※リサイクル率

$$\begin{aligned} &= (\text{集団資源回収量} + \text{搬入された資源の量}) \div \text{ごみ排出量} \times 100 \\ &= (943,170\text{kg} + 10,497,070\text{kg}) \div 36,205,170\text{kg} \times 100 \approx 31.6\% \end{aligned}$$

【分別容器・クリーンネット配付事業】

ごみの分別徹底と収集の効率化を図るため、ごみ集積所用のごみ排出用分別容器やクリーンネットを配付しています。また、分別容器の移動をスムースにするためのキャスターを提供しています。



※ごみ排出用分別容器



※クリーンネット

【資源化状況の推移】

年度	集団資源回収量(t)	資源化量(t)												再生利用率(%)	
		新聞	雑がみ	布類	ダンボール	かん		ペットボトル	紙パウ	磁性物	びん	プラスチック	アルミがら		
R6	943	301	1,068	465	1,265	228	115	642	6	533	879	2,443	20	152	31.6
R5	992	357	1,053	446	1,255	234	111	346	6	539	934	2,701	24	226	31.7
R4	1,046	430	1,090	510	1,290	232	128	379	6	509	923	2,361	26	336	30.9

※ 集団資源回収量=リサイクル活動団体による紙類・布類・金属類・びん類の集団資源回収量

再生利用率=(集団資源回収量+直接資源化量+中間処理後再生利用量)/総排出量×100

① リサイクル家具等の活用

市では、市内の家庭で不用になって処分しようとしている家具類を引き取り、リサイクルプラザのシルバー工房で補修後、毎月抽選による展示販売を行っています。令和6年度の販売点数は362点でした。

② リサイクル自転車活用

市では、地球にやさしいリサイクル活動の一環として、撤去された放置自転車を整備し、再利用自転車として販売しています。

また、リサイクルが不可と判断された自転車については、海外での再利用や鉄材料の再資源化を行うリサイクル業者に売却しました。

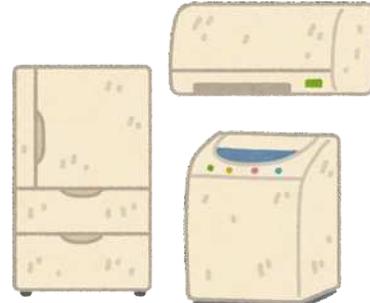
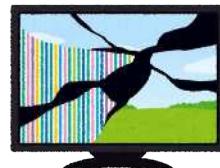
家電リサイクル法対象品目の処分方法

家電リサイクル法で決められた対象機器の「エアコン」、「テレビ」、「冷蔵庫・冷凍庫」、「洗濯機・衣類乾燥機」の4品目はメーカー等が回収し再資源化するため、廃棄方法が法律で定められており、粗大ごみとして出すことはできません。また、処分にはメーカーごとに決められたリサイクル料金がかかります。処分方法は以下の3つのいずれかになります。

- ①家電販売店や買い替え店に引取りを依頼する（リサイクル料金と回収を依頼する場合は収集運搬料金がかかります）。
- ②市の許可業者に依頼する（リサイクル料金と収集運搬料金がかかります）。
- ③ご自身で指定引取場所へ持ち込む（リサイクル料金がかかります。お持ち込みされる前に御自身でリサイクル券を準備してください。リサイクル券については、一般社団法人 家電製品協会 家電リサイクル券センターのホームページをご参照ください）。



一般財団法人家電製品協会
家電リサイクル券センター
ホームページ



3 廃棄物の適正処理の推進

（1） 適正処理の推進

- ・「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）」により特定建設資材（コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト・コンクリートの4品目）を使用する建設工事について、事前の届出（工事着手の7日前まで）など分別解体や再資源化などを促進するための措置を定めるとともに、資源の有効な利用や廃棄物の適正処理を図り、生活環境の保全や国民経済の健全な発展に寄与することを目的に制定されました。一定規模以上の建築物を解体等する場合に、分別解体の適正処理についての指導に努めます。

- ・ごみの減量・再資源化を図るため、市民・事業者等に対しごみの減量・分別についての啓発活動を行っております。
- 特に事業ごみについては、適正排出や再資源化について、事業者に指導を行っています。市民には、増加している外国人居住者への適正排出の指導、啓発の強化を行うなど、正しい分別についての啓発活動等を行っています。

【ダイオキシン類測定分析】

クリーンセンター内における排ガス・焼却灰・飛灰中のダイオキシン類の測定分析を実施し、その結果について、「広報あさか」にて公表しました。

【令和6年度ダイオキシン類測定分析結果】（令和6年10月17日、令和6年10月18日測定）

	排ガス (ng-TEQ/m ³ N)	飛灰 (ng-TEQ/g)	焼却灰 (ng-TEQ/g)
1号炉	0.0063	1.0	0.0013
2号炉	0.0051	1.0	0.00027
排出基準値	5	3	3

ng：10億分の1g

TEQ：ダイオキシン類の濃度（毒性の強さ）を表す記号

m³N：温度0°C、1気圧に換算した気体の立法メートル単位の体積

- ※ 排ガスの排出基準値（焼却能力が2～4t／時の基準値）は、「ダイオキシン類対策特別措置法」による。
- ※ 飛灰・焼却灰の排出基準値は、「廃棄物焼却炉に係るばいじん等に含まれるダイオキシン類の量の基準値及び測定の方法に関する省令（平成12年1月14日厚生省令第1号）」による。
(平成14年12月1日から適用)

【朝霞市廃棄物減量等推進審議会の開催】

ごみの減量化・再資源化を推進するにあたって、平成6年4月から市長の諮問機関として、市民、事業者、行政がお互いの立場からごみの減量に有効な方法を見出すために開催しています。

この審議会は、市長が委嘱する10名の委員で構成されており、これまで、市長からの諮問に対し数々の審議を行っております。

令和6年度朝霞市廃棄物減量等推進審議会委員

区分	所属団体役職等	氏名
第1号委員 知識経験を有する者	埼玉県西部環境管理事務所 廃棄物・残土対策担当部長	なり お こう 治 成 尾 耕 治
	朝霞市市議会議員	いし はら しげる 石 原 茂
	法政大学経済学部教授	○ 松 波 淳 也 ◎ 松 波 淳 也
	全国都市清掃会議総務部長	かわ い かず ひろ 河 井 一 広
第2号委員 関係団体を代表する者	朝霞市商工会女性部	えん どう な み こ 遠 藤 な み こ
	朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会	ひら つか ち か こ 平 塚 知 嘉 子
	朝霞市自治会連合会副会長	○ やま うち ぜん し ろう 山 内 善 四 郎
	朝霞地区四市廃棄物処理協会	おお むら そう てつ 大 村 相 哲
第3号委員 公募による市民	市民公募者	はら はん じ 原 賢 治
	市民公募者	まき しま めぐみ 巻 島 恵

(敬称略) ○会長 ○副会長

令和6年度朝霞市廃棄物減量等推進審議会活動報告

回数	開催日・開催場所	会議内容
第1回	令和6年5月29日(水) 朝霞市リサイクルプラザ 3階 活動室	(1) 第5次朝霞市一般廃棄物処理基本計画の検証結果 報告について(令和5年度実施分)(案) (2) リサイクルプラザの事業再構築について (3) その他
第2回	令和6年11月13日(水) 朝霞市リサイクルプラザ 3階 活動室	(1) リサイクルプラザの事業再構築について (2) ごみ処理広域化事業の進捗について (3) その他
第3回	令和7年2月19日(水) 朝霞市リサイクルプラザ 3階 活動室	(1) 令和7(2025)年度朝霞市一般廃棄物処理実施計画(案) について (2) リサイクルプラザの事業再構築検討報告書(案)について (3) その他

3-5 気候の変化に備える

世界の気候変動の影響評価を行う政府間組織「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の報告によると、厳しい地球温暖化対策を最大限実施した場合でも、世界の平均気温は上昇し、今後、気候変動の影響リスクが高くなることが予測されています。

近年、日本では、大型台風の出現頻度やゲリラ豪雨の増加が生じており、その多くは気候変動の影響が指摘されています。これらの影響に備えるための「適応策」を進めることが不可欠となっています。

本市においても、気候変動による影響は、今後も様々な分野で顕在化すると考えられ、真夏日や熱帯夜の増加による熱中症リスクへの対策、大雨に伴う水害への対策、市街地でのヒートアイランド対策など、分野横断的に対策を進めています。

1 気候変動に関する影響の把握と普及啓発

(1) 気候変動に関する影響の把握

水質や動植物のモニタリング調査などにより、気候変動の影響と考えられる変化を把握します。

(2) 適応策に関する普及啓発

地球温暖化は地球全体での平均気温の上昇のみならず、海水の膨張や氷河の融解による海面の上昇、大雨や台風の頻発など、様々な気候変動を生じさせつつあると考えられており、猛暑や数十年に一度といわれる大型台風・集中豪雨が発生し深刻な被害をもたらしています。そのため、地球温暖化の要因である温室効果ガスの排出を削減する対策に加え、すでに生じている気候変動の影響を回避・軽減するための対策に取り組む必要があります。なお、気候変動の影響は、地域の特性によって大きく異なるため、地域の実情に応じた施策を計画に基づいて展開することが重要となっていることから、市では、第3次朝霞市環境基本計画に内包する「朝霞市気候変動適応計画」を策定しました。この計画を踏まえ、気候変動の影響や適応の必要性、適応策について、広報やホームページ等により普及啓発を行います。

【朝霞市気候変動適応計画】

計画期間	令和4年度～令和13年度 (10年間)
------	------------------------

2 気候変動への適応策の推進

(1) 農業分野

日照不足や高温等の気象条件、自然災害に対する管理・技術対策、病害虫発生予報など、県で作成した資料をホームページに掲載し、農業者へ周知します。

また、気候変動による農作物への影響について、県や農協などから情報の収集に努めます。

(2) 水環境・水資源分野

気候変動の影響などで市内の湧水に変化が生じる可能性があるため、市民団体と協働で斜面林から湧き上がる湧水の水量などの把握に努めます。

気候変動により河川水質に変化が生じる可能性があるため、河川水質等の水質調査を行います。

市指定文化財の湧水地において、水質調査や敷地の除草・剪定を行い、維持管理を図ります。広沢の池では日常的な巡回のほか、増水時には排水を、渇水時には給水を行います。

(3) 自然生態系分野

気候変動に伴い様々な外来生物が埼玉県内に定着しています。その中で私たちや日本古来の在来生物に影響を与える生物がいます。例えば、オーストラリア原産のセアカゴケグモのメスは毒を持っていて、咬まれると脱力感、筋肉痛、頭痛などの全身症状が現れることがあるので注意が必要です。また、アジアに広く分布しているクビアカツヤカミキリは桜や桃の木を、中国や朝鮮半島原産のツヤハダゴマダラカミキリはリンゴやナシの木の樹木内部を食害します。被害が進行すると樹が壊死し、倒木等が生じる危険性があります。市では、外来生物の定着による在来生物への影響を把握するため、市民・市民団体からの情報の収集に努めるとともに、防除等の啓発についてホームページ等を通じて行っています。

(4) 自然災害分野

地域の環境特性等に配慮した適正な土地利用の推進や防災対策、災害軽減対策に努めています。

○地震対策

崖に新設される建築物や擁壁に関して、建築基準法及び埼玉県建築基準法施行条例に基づく指導、助言を行い、崩落を助長するような行為が行われないように努めています。

建築物の耐震化の促進、避難経路・避難場所の確保、防火帯としてのオープンスペースの確保など地震時対策の徹底に努めます。市では建築物の耐震化対策として、昭和56年5月31日以前の旧耐震設計基準の既存建築物所有者に対して、耐震診断及び耐震改修補助を行っています。令和6年度は、耐震診断2件、耐震改修2件の補助を行いました。

また、地震発生時におけるブロック塀等の倒壊による被害の未然防止対策として、ブロック塀等の所有者及び管理者に対して、撤去費用に補助を行っています。令和6年度は、9件の補助を行いました。

公共施設においては、平成28年3月に策定した「朝霞市公共施設等総合管理計画」（令和4年2月追補）及び令和3年2月に策定した「朝霞市公共施設等マネジメント実施計画」に従って、計画的に耐震化を進めています。令和6年度は、武道館の耐震等改修工事、また内間木支所の耐震改修工事設計を実施しました。

○地形改变行為（切土・盛土）に対する指導

市では、農地改良等の行為が適正に行われるよう、法令等に定めるもののほか「農地改良等に関する指導要綱」により必要な事項を定め、農地の所有者に対し適正指導を行っています。また、切土・盛土のある開発行為が存する場合は、都市計画法の技術基準に基づき、擁壁の設置等その他安全上必要な措置が講じられるよう指導しています。

○浸水対策

平成21年に施行した「朝霞市開発事業等の手続及び基準等に関する条例」に基づいて、一定規模以上の開発事業等を行う際は、雨水流出抑制施設（浸透・貯留施設等）の設置、切土・盛土の隣接地及び開発区域に接する公共施設に被害を及ぼさないよう安全対策、10%以上の緑化施設の整備など適切な運用を図るよう事業者に対して助言又は指導、協議を行っています。

	公共施設等雨水貯留浸透施設設置箇所数
令和6年度	12箇所
令和5年度	12箇所
令和4年度	12箇所

○水害対策

下水道の排水能力を上回る局地的な豪雨が多発するとともに、下水道施設の老朽化が進んでいることから、計画的に更新事業を進めます。

	雨水管整備率
令和6年度	93.5%
令和5年度	93.5%
令和4年度	94.6%

市には、荒川、新河岸川、黒目川、越戸川の4河川が流れしており、歴史的に人と水との関わりは深く、古くから水の恩恵を受けてきました。しかし、一方では水害も多く、江戸から昭和にかけて何度も水害に見舞われてきています。

このような歴史を踏まえて、本市では水害による被害を最小限に止めるための総合治水対策の一環として、雨水が河川や下水道に短時間に流入しないように、「朝霞市開発事業等の手続及び基準等に関する条例」による指導を行い、雨水流出の抑制に努めています。

	開発事業件数に対する雨水流出抑制施設設置割合（再掲）
令和6年度	100%
令和5年度	100%
令和4年度	100%

台風や局地的な大雨で、市内でも家へ浸水するなどの被害が生じる場合があります。被害を受けた場合、通常、洗浄と乾燥により対応しますが、汚水が混入した場合は、感染症予防のため消毒を行います。

また、段丘斜面については、斜面林の保全・維持管理に努めています。

市街地の緑は、雨水を地下水に浸透させ、浸水被害の軽減等の機能を有することから、緑地の保全と都市緑化の推進に努めます。

○震災発生に備える

地域防災計画に基づき、震災や風水害、大規模事故災害が発生した場合、地域住民や事業所等へ被害情報等の災害情報を提供します。

また、ハザードマップや市民参加による危険箇所の確認結果に基づき、防災に関する情報の提供、防災意識の啓発普及を行います。

市では、火災防止対策として、地域ぐるみで防災活動にあたる自主防災組織の結成を奨励しています。また、延焼火災の遮断として有効な機能を持つ避難場所の確保のため、農地・公園・緑地の保全に努めています。

台風や大雨による浸水被害を受けたときの消毒

台風や大雨による浸水によって、泥などの汚れが臭いのもとなる可能性があります。そこで、被害を受けたときは、できる限り泥を洗い流し、よく乾燥させることが大切です。

通常は、洗浄と乾燥で十分ですが、汚水が混入した場合などは、感染症予防のため消毒を行いましょう。なお、泥などの汚れが残ったままでは、消毒薬の効果が期待できなくなりますので、消毒の前に洗浄と乾燥をしつかり行うのが大切です。

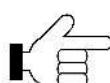


«家の中の消毒»

消毒薬（次亜塩素酸ナトリウム0.02パーセント溶液）にタオルやふきんを浸し、軽くしぼったもので拭いて消毒します。次亜塩素酸ナトリウムは、漂白作用があるので、色落ちしては困る場所は避け、金属やゴムについては仕上げに水拭きします。次亜塩素酸ナトリウム溶液は、家庭用の漂白剤でも同様の効果があります。製品によって濃度が異なりますので、水で薄める時は製品の使用方法を確認してください。

«家まわりの消毒»

家のまわり（屋外）を消毒するときには、クレゾールをまく方法がありますが、この薬品は臭いが強いので使用には気をつけましょう。クレゾールは、薬局等でお買い求めの上、使用上の注意をよく確認してください。



手洗いを忘れずに！！

洗浄と乾燥、消毒をしたら、ご自身の感染症予防のために、必ず石けんなどで手を洗いましょう。

- ◎ ご自身で消毒することが困難な場合、状況によっては市職員を派遣し消毒いたします。

問合せ：環境推進課 048-463-1504



【市が実施した消毒件数】

年度	内訳	合計件数
令和6年度	集中豪雨486件 (R6.7.7ほか)	486件
令和5年度	集中豪雨40件 (R5.6.3)	40件
令和4年度	—	0件

(5) 健康分野

暑さ指数（WBGT）等の気象情報を提供するとともに、クールオアシスの設置等を進め、広報あさかや市ホームページで熱中症に関する注意喚起を行っています。

また、埼玉県に熱中症警戒アラートが発令された際には、所管施設へ情報提供を行っているほか、市ホームページ、X（旧：ツイッター）、フェイスブックや防災行政無線により広く周知するよう努めます。

年度	熱中症警戒アラート等の発令に伴う情報発信 (注意喚起)
令和6年度	100%
令和5年度	100%
令和4年度	100%

気温が高くなり光化学スモッグ注意報が発令された時は、所管施設への情報提供を行っているほか、X（旧：ツイッター）や防災行政無線により迅速な周知を図ります。また、光化学スモッグが発生しやすい時期になる前に、広報あさかで市民に対し、光化学スモッグについての注意喚起の啓発に努めます。

(6) 市民生活・都市生活分野（ヒートアイランド対策等）

市では、公共施設でのヒートアイランド対策として、夏は遮断、冬は保温の効果がある屋上緑化*や壁面緑化*、緑のカーテン*の設置を進めています。緑は、蒸発散作用による気温低減効果があるほか、NOx等の大気汚染物質を吸収し、酸素を供給するなどの大気浄化機能があります。

市では、「朝霞市みどりの基本計画」と連携を図り、公共施設の建設・改修の際には植栽地を確保するなど、市内の公共施設の景観向上を図るとともに、市民の緑とのふれあいの機会を増やすために緑化を推進しています。

令和6年度の屋上緑化及び壁面緑化・緑のカーテン設置施設は下表のとおりです。

(再掲)

屋上緑化設置施設	面積	屋上緑化設置施設	面積
市役所本庁舎	216.00m ²	朝霞第一中学校	544.52m ²
朝霞市斎場	30.00m ²	朝霞第四小学校	1,232.55m ²
溝沼複合施設	235.87m ²	朝霞第五小学校	485.80m ²
宮戸保育園	80.00m ²	朝霞第七小学校	100.00m ²
仲町保育園	120.00m ²	根岸台市民センター	77.60m ²
朝霞駅南口原動機付 自転車駐車場	111.00m ²	膝折市民センター	185.00m ²
中央公民館	65.00m ²	泉州浄水場第3配水池	1,100.00m ²

壁面緑化・緑のカーテン設置施設	面積	壁面緑化・緑のカーテン設置施設	面積
市役所本庁舎	117.00m ²	中央公民館	153.60m ²
内間木支所	12.00m ²	西朝霞公民館	59.40m ²
浜崎保育園	1.00m ²	南朝霞公民館	40.30m ²
東朝霞保育園	6.00m ²	北朝霞公民館	10.24m ²
溝沼保育園	4.64m ²	内間木公民館	46.60m ²
根岸台保育園	18.00m ²	朝霞第四小学校	506.28m ²
北朝霞保育園	16.20m ²	朝霞第五小学校	386.48m ²
栄町保育園	6.00m ²	朝霞第六小学校	32.76m ²
泉水保育園	1.00m ²	朝霞第八小学校	109.00m ²
さくら保育園	12.00m ²	朝霞第九小学校	64.68m ²
きたはら児童館	3.78m ²	総合体育館	54.00m ²
保健センター	16.00m ²		

- ・健全な水循環の形成や緑地の保全と維持管理、親水空間の保全と創出、都市の緑化等の施策を総合的・計画的に進めていきます。
- 道路や歩道の整備に際しては、街路樹や緑地帯の確保等道路の緑化、透水性舗装やブロックの活用など環境に配慮した道路環境の整備に努めます。
- ・気候変動等の影響により渇水が続いた場合は、市民や事業者に対して節水の呼びかけを行います。また、必要に応じて給水制限を行います。
- ・地球温暖化の影響により、気候の変化が大きくなっています。地球温暖化対策として過度な冷暖房に頼らず快適に過ごせる軽装や取り組みを促すライフスタイル「クールビズ (COOL BIZ)」や「ウォームビズ (WARM BIZ)」に取り組んでいただくよう周知を行います。

環境目標4 パートナーシップによる環境活動の推進



みんなで環境を学び、考え、取り組むまち

4-1 環境についてみんなで学ぶ

1 環境教育や環境学習の機会の提供

市民一人ひとりが日常生活と環境との関わりについて理解し、生活環境の保全や自然保護に配慮した環境教育を推進していくために、学校、教育委員会及び市がそれぞれの役割で、効果的な環境教育基盤の整備に努めています。

(1) 環境教育や環境学習の機会の提供

① 環境教育

市では、地域にある様々な環境を活かした環境教育を推進しています。

○ 市内学校での教育

各小中学校では、環境教育全体計画・環境教育年間指導計画を作成し、教育活動全体を通して、よりよい環境づくりのために主体的に行動する子どもの育成を図っています。

教科の学習では、生活科での植物栽培、理科での自然現象における科学的な探求活動、社会科でのくらしとごみの学習、家庭科での持続可能な暮らしの学習、総合的な学習の時間での学校のまわりの自然を調べる学習等を行い、さらに授業以外にも牛乳パックのリサイクル等、児童生徒や地域の特色に応じた環境教育活動を行っています。

○ 「こどもエコクラブ」

こどもエコクラブとは、幼児（3歳）から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブです。子どもたちの環境保全活動や環境学習を支援することにより、子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の輪を広げることを目的としています。

参加料や会費は無料で、こどもエコクラブに団体登録すると、活動に役立つツールがもらえたり、自分たちの活動をPRすることができます。活動を続けることで「アースレンジャー認定証」を手に入れることができます。

【登録方法】

一緒に活動する仲間（3歳～18歳）と、活動を支える大人（18歳以上）を集めてクラブをつくり、登録します。※子ども1人+大人1人から登録可能です。下のQRコードを読み取り、新規・継続登録フォーム（こどもエコクラブホームページ）で登録するか、JEC登録用紙を環境推進課までFAX（048-467-0770）でお申込みください。



こどもエコクラブホームページ

○ 「あさか環境かるた」で環境学習しましょう！

地球温暖化をはじめとする様々な環境問題を解決するためには、一人ひとりが考え、行動を起こす必要があります。そこで子どもから大人まで分かりやすく、楽しみながら環境について学んでもらえるよう、「あさか環境かるた」を作成し、市ホームページに掲載しています。

ホームページには文字ごとに、市や県、国などの関連するホームページなどのリンクが掲載されているので、環境に関する学習を深めることができます。

また、実際に「あさか環境かるた」を印刷して、かるたとして遊びながら学習することもできます。

かるたの白紙様式もあるので、自分のオリジナル環境かるたを作成することもできます。

あなたにあった学習方法で楽しく環境について学び、生活に活かしてみてください。



あさか環境かるたホームページ



読み札



絵札



解説

② 環境教育の支援

市では、市民が自ら企画実施する学習講座において、経費の一部を補助し、学習機会の形成を促すとともに、市と市民との協働による生涯学習活動の推進を図っています。令和6年度は、環境学習に関するものとして、1団体に対し、補助金を交付し活動を支援しました。

③ 環境学習への支援

例年、夏休みに開催される「黒目川・川まつり」(黒目川・川まつり実行委員会主催)は、身近な環境である黒目川に親しみながら、川の水を守ることの大切さなどを学ぶ場として、市も協力しています。

④ 市民団体の環境保全活動支援

○ 朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会との協働

市のごみの減量化・再資源化をより一層推進するための情報拠点として、リサイクルプラザが平成12年7月に開所しました。開所当時から現在に至るまで、その事業運営については、行政と市民の「協働」という観点から、市民団体である「朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会」が担っています。

【令和6年度の主な取り組み】

総会	1回	スタッフ全員から企画提案された事業を検討し、年間の活動内容を決定します。スタッフの意見はこの場に集約されるようになります。
スタッフ会議	12回	会議での協議事項や継続事業などについて全員で話し合い、決定しました。
スクールグッズ シェアリング	12回	ランドセルやピアニカ、辞書、彫刻刀セットなど、進級・進学に伴い不要となった学用品を収集し、必要な方へお渡しました。

○ あさか環境市民会議との協働

市の環境に関する施策を総合的、計画的に推進していくために策定した「朝霞市環境基本計画」に基づく「(仮称) 朝霞環境フォーラム」の設立準備委員会が平成15年12月に発足しました。その後、この会の名称を「あさか環境市民会議」とすることとし、設立後は独立した団体として市民等が中心となって運営することが決定されました。

平成16年6月20日には設立総会が開催され、「あさか環境市民会議」が発足し、活動を実施しています。

令和6年度は、斜面林の保全活動や、団体自らが実施する事業等への支援や情報提供などを行い、自主的活動の支援をしました。

【令和6年度の主な取り組み】

運営会議	12回	市民会議の運営について具体的に検討しています。また、視察研修や各専門部会の開催内容等についても、この場で話し合われています。会員の意見はこの場に集約されるようになっています。
定期総会	1回	第21回定期総会を開催し、前年度の事業報告及び決算報告、また、今後の事業計画、予算案について審議を行い、会員に承認されました。
自然に関する取り組み	43回	岡斜面林、宮戸斜面林、根岸台自然公園・根岸台里山再生林において、雑木林の枝打ち、間伐、下草刈りなどの保全活動を実施するとともに、生息する昆虫や動植物の観察会を実施しました。
生活環境に関する取り組み	4回	6月に身近な水環境の全国一斉調査、11月に黒目川クリーンエイド＆プラごみゼロと、12月に黒目川エコ探検、1月にガンカモ全国一斉調査を実施しました。
広報に関する取り組み	都度	市民会議が運営するホームページに活動予定及び、里山活動のブログを更新しました。



あさか環境市民会議ホームページ

⑤ 環境情報の収集と発信

環境問題に対する理解を深めていただくため、広報や市のホームページに環境関連の記事を掲載するとともに、年次報告書「朝霞の環境」及び「朝霞市環境基本計画実施計画」を作成し、その周知と啓発に努めました。

年度	環境政策に係る報告書の発行
令和6年度	2種類（朝霞の環境及び朝霞市環境基本計画実施計画5年度実績版）
令和5年度	2種類（朝霞の環境及び朝霞市環境基本計画実施計画4年度実績版）
令和4年度	2種類（朝霞の環境及び朝霞市環境基本計画実施計画3年度実績版）

⑥ 環境美化活動功労者を表彰

多年にわたり地域の環境美化・清掃美化に尽力された個人・団体の功績をたたえ、令和6年度は1人・1団体に対し、環境美化活動功労者として市から感謝状を贈呈しました。

【令和6年度 環境美化活動功労者】（敬称略）

氏名	活動年数
有限会社 かぶらぎねんりょううてん 無不燃料店	15
植 竹 登 うえたけ のぼる	8



【環境美化活動功労者数】

年度	団体数・人数
令和6年度	1人・1団体
令和5年度	6人
令和4年度	—

環境美化活動功労者の皆さん

⑦ 環境美化ポスターの募集＆入選者表彰

子どもたちに環境美化に対して関心を持つてもらうため、市内の小学3年生・6年生を対象に、「ポイ捨て」対策、「路上喫煙」対策、そして「犬のウンチ」対策というテーマでポスターを募集しました。

令和6年度は、272点の応募があり、11点の入選作品が選ばれ、令和6年11月7日（月）に表彰式を行いました。入選作品は、令和6年12月中は産業文化センター2階ホール（図書館分館前）、また、埼玉りそな銀行朝霞支店敷地内、令和7年1月中は市役所1階ロビー市民ホールに展示しました。また、入選作品を啓発看板にして市内（北朝霞・朝霞台駅周辺、黒目川各橋、ドッグラン）に設置し、市民の環境美化意識の向上を図りました。

【環境美化ポスター 応募数】

令和6年度	272点 (3年生 158点、6年生 114点)
令和5年度	251点 (3年生 149点、6年生 102点)
令和4年度	229点 (3年生 130点、6年生 99点)



入選された児童の皆さん

【環境美化ポスター 入選作品】



①後藤 みのりさん(朝五小3年)



②西村 つねぎさん(朝五小3年)



③白木 登和子さん(朝六小3年)



④木崎 はるかさん(朝七小3年)



⑤武田 陽汰さん(朝九小3年)



⑥船橋 美結さん(朝十小3年)



⑦後藤 ひなたさん(朝五小6年)



⑧橋爪 梨沙さん(朝六小6年)



⑨武政 実莉さん(朝六小6年)



⑩大槻 香奈さん(朝九小6年)



⑪長谷川 公亮さん(朝九小6年)

2 環境情報の発信と普及啓発

(1) 環境情報の収集と発信

① きれいなまちづくり運動（再掲P35）

② イベント等の収集と発信

環境推進課では環境に関する学びやイベント等の情報収集を行い、広報・ホームページ・X（旧：Twitter）を通じて市民の方へ周知を行っています。

令和6年度は、きれいなまちづくり運動のお知らせや報告、環境月間に關すること、あさか環境かるた、ボランティア団体のイベント等について、広報あさか32回、X（旧：Twitter）86回、周知を行いました。



朝霞市役所 環境推進課
@kankyouusuisin

ごみのないきれいなまちに！
10月27日(日)に「秋のきれいなまちづくり運動」として市内一斉清掃を実施しました
↘市民の皆様をはじめ、自治会・町内会など多くの方々のご協力で、朝霞市内がきれいになりました♪ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました！
#朝霞 #きれいなまちづくり #清掃

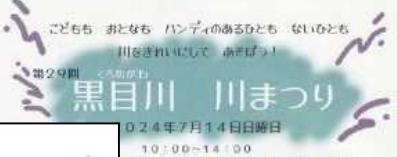


朝霞市役所 環境推進課
@kankyouusuisin

【第29回黒目川川まつり】
7月14日(日)午前10時～午後2時、黒目川川まつりが開催されます！！
詳細は画像をご覧ください。
広報7月号にもお知らせを掲載しています

ご来場お待ちしています！
※小雨決行、増水時中止。中止の場合は、このアカウントでもお知らせします。

#朝霞市 #川まつり



朝霞市役所 環境推進課
@kankyouusuisin

明日から「環境月間」が始まります。環境配慮行動（環境に優しい行動）につながる取組等を紹介します。私たちの未来のために身近なことから取組んでいきましょう。

- 環境月間city.asaka.lg.jp/soshiki/14/6ka...
- 環境配慮行動city.asaka.lg.jp/soshiki/14/hai...
- 環境省env.go.jp/guide/envmonth/#朝霞市 #環境月間

環境の日及び環境月間



朝霞市役所 環境推進課
@kankyouusuisin

【地球温暖化防止月間パネル展開催中！～12月27日正午頃まで】
市役所1階ホールと産業文化センター2階ロビーで地球温暖化防止月間パネル展示を実施しています。皆様ぜひご覧ください。
#朝霞市 #環境 #地球温暖化 #地球温暖化防止月間 #パネル展



朝霞市役所 環境推進課
@kankyouusuisin

【あさか環境かるた】
もうすぐ梅雨の時期となります。家の中で過ごすなら「あさか環境かるた」で遊んでみませんか？
このかるたで遊ぶと、環境と朝霞のことを楽しみながら学べます。雨の日のお供に、ぜひ遊んでみてください

#朝霞 #環境 #あさか環境かるた
city.asaka.lg.jp/soshiki/14/kan...

③ 文化財施設での活動

重要文化財「旧高橋家住宅」では、建造物とその周囲に広がる畠や屋敷林・雑木林といった歴史的景観を保全しながら、農業体験や自然観察などの体験学習を実施しています。また、季節ごとの年中行事に関する展示などを行い、地域に古くから伝わる文化を広く紹介しています。

朝霞市博物館では、常設展示で朝霞の歴史・文化に関する情報提供を行っているほか、博学連携事業にて市内小学校へ朝霞の昔の暮らしや道具などについて情報提供を行っています。

また、広報やホームページなどに指定文化財や関連情報を掲載して、情報発信を図っています。

④ リサイクルプラザでの環境学習・活動事業等の普及（再掲P64）

⑤ 朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会との連携充実・支援

（再掲P64・P77）

	リサイクルプラザでの講座参加者数
令和6年度	54人
令和5年度	89人
令和4年度	45人

4-2 環境活動にみんなで参加し行動する

1 市民団体の環境保全活動支援

(1) 環境に関する有識者等の活用

令和6年度は、令和6年11月10日（日）に開催した「朝霞市防災フェア」に合わせてペット防災関連のパネル展示を行いました。

(2) 市民団体の環境保全活動支援

① あさか環境市民会議との協働（再掲P78）

② 朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会との協働（再掲P64・P77）

③ 市民活動への支援

豊かで活力ある地域社会の実現を目指して、社会に貢献しようとする市民の自主的な活動（市民活動）を行う団体に対して、その経費の一部を市民活動団体支援補助金で補助することによって、市民活動の活性化を支援しています。

【朝霞市コミュニティ協議会の取り組み】

朝霞市コミュニティ協議会では、清掃活動を通して黒目川沿いの景観保全をはじめ、住み良いまちづくりと地域への愛着を深めることを目的に、年1回、黒目川堤防清掃活動を実施しています。令和6年度は、令和7年3月24日（日）に実施し、668人が参加、360kgのごみを回収いたしました。

④ 環境基本計画の推進

○ 環境基本計画の概要

市では、「朝霞市住み良い環境づくり基本条例」の基本理念にのっとり、市の良好な環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に進めることを目的として、令和4年3月「第3次朝霞市環境基本計画」を策定しました。

この計画は、令和4年度から令和13年度までの10年間を計画期間とし、市、市民・市民団体、事業者の相互の連携と協働により、「住み良い環境づくり」の実現を目指すものです。

○ 環境基本計画実施計画

この実施計画は、「第3次朝霞市環境基本計画」に定めた基本理念、環境目標、施策の方向、施策の展開に基づいて、市が今後実施すべき環境行政施策を具体化し、年度別の目標を示した計画です。

⑤ 朝霞市環境審議会

「朝霞市住み良い環境づくり基本条例」に基づき、市長の諮問機関として「朝霞市環境審議会」を設置しています。審議会は、市長が委嘱する16名以内の委員で構成されており、環境基本計画に関する事項及びその他環境保全等に関する基本的事項についての調査審議を、原則として公開制で行っています。

【朝霞市環境審議会活動報告】 (令和6年度)

回 数	開催日・開催場所	会 議 内 容
第1回	令和6年7月30日 朝霞市役所 501会議室	<ul style="list-style-type: none">・ 正・副会長の選出について・ 朝霞の環境（令和5年度環境推進課所管分）について・ その他
第2回	令和6年10月31日 朝霞市役所 2階全員協議会室	<ul style="list-style-type: none">・ 朝霞の環境（令和5年度年次報告書）（案）について・ 第3次朝霞市環境基本計画実施計画（令和5年度実績版）（令和4年度～令和7年度）（案）について・ その他

-

朝霞市環境審議会委員名簿（令和6年度）

(敬称略)

氏名	経歴・所属団体等
ごん 純一 じゅんいち	朝霞市議会議員
みやばやし 智美 さとみ	朝霞市議会議員
まつ むら たかし 松 村 隆	一般社団法人 持続可能社会推進コンサルタント協会 参与 前芝浦工業大学システム理工学部教授
おじま 真知子 まちこ	朝霞市環境美化推進員 元社会教育指導員
こばやし 敬太 けいた	本田技研工業(株) 二輪・パワープロダクツ事業本部
おのでら たけし 小野寺 健	(株) 武蔵野種苗園 埼玉支店 支店長
おおはた むねひろ 大畠 宗浩	朝霞市商工会 理事
おの けいぞう 小野 敬三	朝霞市自治会連合会 副会長 (霞ヶ丘親睦会会长)
ほんだ きょうこ 本田 杏子	市民
あべ えみこ 阿部 英美子	市民
まつなが けんじ 松永 健司	あさか環境市民会議 会長
ひらつか ちかこ 平塚 知嘉子	朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会 会長
てづか しん 手塚 普	埼玉県西部環境管理事務所 副所長
いわがみ かずひろ 岩上 和弘	朝霞警察署 生活安全課 課長代理
ゆお あきら 湯 尾 明	朝霞保健所 所長

令和7年3月31日現在

⑥ 朝霞市住み良い環境づくり連絡委員会

「第3次朝霞市環境基本計画」を総合的・計画的に推進するために、各部から選任された庁内の横断的組織であり、環境施策の総合調整を行うとともに、計画の推進状況を把握し、点検評価を行います。

2 環境保全活動団体の育成、ネットワークの形成等

(1) 環境保全活動団体の育成、ネットワークの形成等

自然環境や環境問題に関する市民団体等を把握し、情報の提供・交換・活用・協力等により、団体の活動支援並びに調査研究に努めています。

① 環境に関する市民団体

市内を中心に活動を行っている朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会やあさか環境市民会議などの環境保全団体の把握及び情報の提供・交換、活用するための調査研究に努めています。

市民や市民団体が活動しやすい環境整備を図り、情報の収集と発信など、環境保全を含む活動団体の育成と活動の推進に努めます。

市民・市民団体、事業者、地域や学校で活動している環境保全活動団体等との連携に努め、ネットワーク形成を支援します。

(2) グランドワーク活動

グランドワーク活動（住民・企業・行政がパートナーシップを組み、地域環境を改善するとともに、持続可能な地域社会を構築する活動）の体制強化を図り、市民団体の活動及び自立的活動の支援をしています。

第2章

資料編

1 大気関係

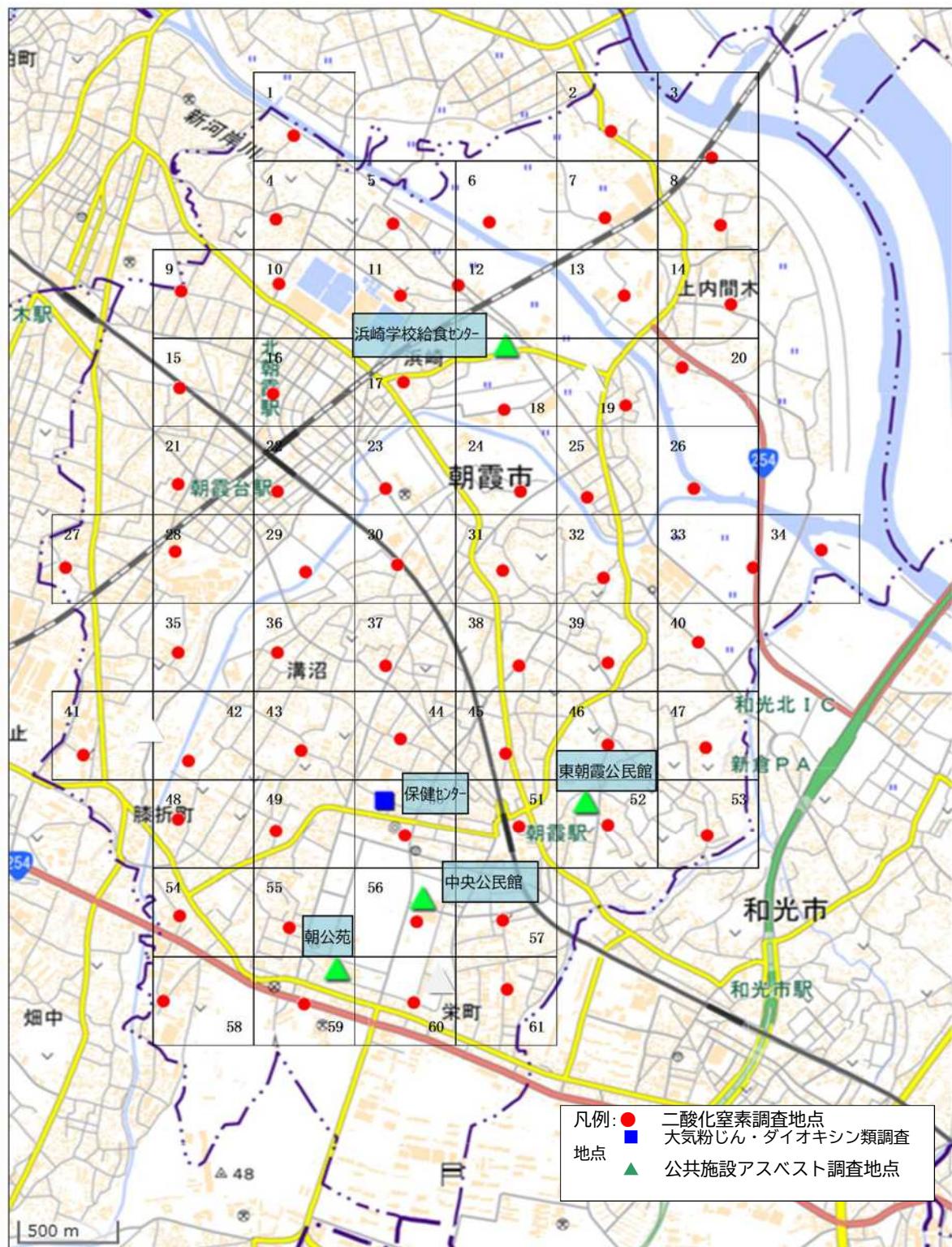
(1) 二酸化窒素調査結果 (調査地点は次ページ参照)

(単位 : ppm)

調査地点番号	R6.7.22 ~7.31	R7.1.14 ~1.20	年度平均 (令和6年度)
1	0.0070	0.0150	0.0110
2	0.0170	0.0220	0.0195
3	0.0080	0.0160	0.0120
4	0.0070	0.0130	0.0100
5	0.0080	0.0150	0.0115
6	0.0050	0.0100	0.0075
7	0.0150	0.0170	0.0160
8	0.0100	0.0130	0.0115
9	0.0070	0.0160	0.0115
10	0.0110	0.0190	0.0150
11	0.0080	0.0180	0.0130
12	0.0050	0.0150	0.0100
13	0.0110	0.0170	0.0140
14	0.0090	0.0140	0.0115
15	0.0080	0.0160	0.0120
16	0.0090	0.0170	0.0130
17	0.0090	0.0170	0.0130
18	0.0090	0.0160	0.0125
19	0.0110	0.0160	0.0135
20	0.0110	0.0180	0.0145
21	0.0080	0.0150	0.0115
22	0.0080	0.0160	0.0120
23	0.0090	0.0170	0.0130
24	0.0100	0.0170	0.0135
25	0.0090	0.0160	0.0125
26	0.0080	0.0140	0.0110
27	0.0080	0.0160	0.0120
28	0.0090	0.0180	0.0135
29	0.0070	0.0160	0.0115
30	0.0080	0.0170	0.0125
31	0.0070	0.0140	0.0105
32	0.0080	0.0160	0.0120
33	0.0090	0.0160	0.0125
34	0.0130	0.0190	0.0160
35	0.0120	0.0180	0.0150
36	0.0080	0.0170	0.0125
37	0.0090	0.0170	0.0130
38	0.0090	0.0180	0.0135
39	0.0070	0.0150	0.0110
40	0.0100	0.0180	0.0140
41	0.0070	0.0160	0.0115
42	0.0080	0.0160	0.0120
43	0.0080	0.0170	0.0125
44	0.0080	0.0170	0.0125
45	0.0090	0.0160	0.0125
46	0.0090	0.0160	0.0125
47	0.0080	0.0140	0.0110
48	0.0080	0.0160	0.0120
49	0.0090	0.0170	0.0130
50	0.0080	0.0160	0.0120
51	0.0110	0.0180	0.0145
52	0.0080	0.0160	0.0120
53	0.0090	0.0140	0.0115
54	0.0090	0.0180	0.0135
55	0.0080	0.0150	0.0115
56	0.0060	0.0150	0.0105
57	0.0080	0.0150	0.0115
58	0.0090	0.0150	0.0120
59	0.0170	0.0210	0.0190
60	0.0080	0.0150	0.0115
61	0.0070	0.0140	0.0105
平均値	0.0089	0.0162	0.0125
最高値	0.0170	0.0220	0.0195
最低値	0.0050	0.0100	0.0075
環境基準	1時間値の1日平均値が0.04から0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。		

	夏	冬	年平均
0.06超 数	0	0	0
割 合	0.0%	0.0%	0.0%
0.04～0.06	0	0	0
割 合	0.0%	0.0%	0.0%
0.04未満	61	61	61
割 合	100.0%	100.0%	100.0%

<二酸化窒素調査地点 メッシュ地図>



二酸化窒素調査地点 周辺概要

調査地点番号	用途地域	周辺概要
1	第一種低層住居専用地域	新河岸川沿いで田畠が広がり、民家は少ない。
2	市街化調整区域	住居と工場が混在している地域で、発生源が近い。
3	市街化調整区域	荒川の土手沿いで、住宅及び倉庫等が点在している。
4	第一種中高層住居専用地域	周辺は住宅地で、北側にテニスコートがある。
5	第一種低層住居専用地域	周辺は住宅地と畠で、南側に朝霞浄水場がある。
6	市街化調整区域	新河岸川沿いで、骨材乾燥炉を含む資材置き場が点在。
7	市街化調整区域	畠や駐車場が広がり、小さな工場が並んでいる。
8	市街化調整区域	周辺は住宅地で、その周囲に田畠がある。
9	第一種中高層住居専用地域	周辺は密集した住宅地で、北西側にグランドがある。
10	第一種中高層住居専用地域	住宅地及び小さな工場と浄水場に囲まれて畠がある。
11	第一種中高層住居専用地域	周辺は畠に面した住宅地で、南西側に浄水場がある。
12	第一種住居地域	JR武蔵野線脇に広がる畠地に近い。
13	市街化調整区域	朝霞市クリーンセンターに面した道路沿いで、周囲は空き地。
14	市街化調整区域	交通量の多い道路が近い住工混在で、畠も広がっている。
15	第一種住居地域	東武東上線に面した住宅地で、北側は林となっている。
16	商業地域	住宅と畠が混在しており、北朝霞駅が近い。
17	第一種住居地域	周辺は住宅地で、近くに県道がある。
18	市街化調整区域	周辺は、畠が広がっている。
19	第一種中高層住居専用地域	周辺は住宅地で、近くに県道がある。
20	市街化調整区域	周辺は住宅地が点在し、空き地が多い地域。
21	第一種中高層住居専用地域	周辺は密集した住宅地であるが、倉庫や工場も近接。
22	第一種中高層住居専用地域	西久保公園内であり、周辺は住宅地である。
23	市街化調整区域	東側に東洋大学、西側に畠や事業所が点在している。
24	第一種低層住居専用地域	畠に囲まれた小規模な住宅地。
25	第一種中高層住居専用地域	住宅地であるが交通量の多い県道がすぐ東側を通る。
26	市街化調整区域	周辺は水道局用地があり、新河岸川と黒目川合流する。
27	第一種中高層住居専用地域	周辺は住宅地と畠等で、物流倉庫等が点在する。
28	第一種住居地域	北側が第五小学校、南側が本田技術研究所の敷地である。
29	市街化調整区域	周辺は主に畠等であり、黒目川沿いに位置する。
30	第一種住居地域	住宅地の周囲が畠で、北側に東武東上線がある。

調査地点番号	用途地域	周辺概要
31	第一種中高層住居専用地域	周辺は住宅地となっている。
32	第一種中高層住居専用地域	高台の住宅地脇で、南北に畠が広がっている。
33	市街化調整区域	第九小学校の境界部で周囲はほとんど畠となっている。
34	市街化調整区域	畠地として利用されている川に挟まれた土地。
35	準工業地域	周辺に工場が点在するが、特に大きな発生源はない。
36	第一種中高層住居専用地域	周辺は住宅と畠が広がっている。
37	第一種住居地域	周辺は住宅地であるが、交通量の多い道路に近接する。
38	第一種中高層住居専用地域	周辺は主に住宅地となっている。
39	第一種中高層住居専用地域	児童遊園地内で、北が畠で南が住宅地に挟まれた地域。
40	工業地域	周辺は、雑木林の高台と畠に面した開けた地域。
41	工業地域	周辺は畠や倉庫が主で、大きな工場は少し離れている。
42	工業地域	北側に第一小学校がある。
43	第一種中高層住居専用地域	周辺は住宅地となっている。
44	第一種中高層住居専用地域	周辺は密集した住宅地。
45	第一種中高層住居専用地域	周辺は密集した住宅地で、県道と東武東上線が近い。
46	第一種低層住居専用地域	周辺は住宅地と畠が混在している。
47	第一種低層住居専用地域	周辺は西が住宅地、東が畠となっている。
48	工業地域	周辺は、住居と倉庫等が混在している。
49	第一種中高層住居専用地域	周辺は比較的密集した住宅地で、東に県道が通っている。
50	近隣商業地域	市役所の敷地内で、商店街や公共施設がある中心街。
51	商業地域	朝霞駅に近い東側で、周辺は駅前商店街になっている。
52	第一種低層住居専用地域	住宅地と畠が混在する地域。
53	第一種低層住居専用地域	周辺は密集する住宅地。
54	第一種住居地域	周辺は密集する住宅地で、県道と国道254号に挟まれる。
55	第一種中高層住居専用地域	周辺は密集する住宅地。
56	市街化調整区域	朝霞中央公園内に位置する。
57	第一種中高層住居専用地域	南側は住宅と印刷工場、北側は畠が広がる。
58	工業地域	周辺は住宅地と小さな工場及び畠が混在している。
59	準住居地域	平成29年2月調査までは、国道254号沿道の朝霞幸町自排局に設置していたが、平成30年5月に自排局が廃止されたため、平成30年7月調査以降は国道254号を挟んだ向かいの上の原公園のフェンスに設置。
60	第一種中高層住居専用地域	南が住宅地、北が第四中学校と市営球場になっている。
61	準工業地域	周辺は住宅地となっている。

令和7年3月31日現在

(2) 大気粉じん調査結果 実施日 (夏季) 7月23日～24日 (冬期) 1月21日～22日

項目	調査地点	単位	夏季	冬季	平均	基準値
浮遊粉じん量	保健センター	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	42	29	36	—
亜鉛		ng/m^3	59	45	52	—
総クロム		ng/m^3	3.50	0.49	2.00	—
カドミウム		ng/m^3	0.099	0.110	0.100	—
鉛		ng/m^3	8.0	6.9	7.5	—
ニッケル		ng/m^3	5.00	1.20	3.10	25以下
バナジウム		ng/m^3	2.90	0.77	1.80	—
アスベスト		f/ℓ	0.110	0.056未満	0.083	10以下

(3) 公共施設アスベスト調査結果 (無機質繊維濃度)

調査地點	実施日	敷地境界北側	敷地境界東側	敷地境界南側	敷地境界西側	基準値
中央公民館	12月19日	0.056未満	0.056未満	0.17	0.056未満	10f/L以下
東朝霞公民館	12月20日	0.056	0.056	0.056未満	0.056	
浜崎学校給食センター	12月19日	0.056未満	0.056未満	0.11	0.056未満	
朝光苑	12月20日	0.056未満	0.056	0.056未満	0.056未満	

(4) ダイオキシン類調査結果 (大気)

調査地點	実施日	単位	夏季	冬季	年平均値	環境基準
保健センター	(夏季) 7月23日 ～ 7月30日 (冬季) 1月21日 ～ 1月28日	$\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$	0.0077	0.013	0.010	年平均値 0.6 以下

(5) 常時監視測定結果 (埼玉県実施調査)

※○のついているものが、その測定期で測定している項目

項目	測定期名		一般環境大気測定期局	自動車排出ガス測定期局
	和光	新座	和光新倉	
二酸化硫黄	—	○	—	
一酸化炭素	—	—	—	
浮遊粒子状物質	○	○	○	
光化学オキシダント	○	○	—	
二酸化窒素	○	○	○	
微小粒子状物質	○	○	○	
風向・風速	○	○	○	

令和6年度環境基準達成状況

※○は環境基準達成 ×は非達成 −は未実施

測定期名	二酸化硫黄		一酸化炭素		浮遊粒子状物質		光化学オキシダント	二酸化窒素
	短期	長期	短期	長期	短期	長期	環境基準	環境基準
和光	−	−	−	−	○	○	×	○
新座	○	○	−	−	×	○	×	○
和光新倉	−	−	−	−	○	○	−	○

測定期名	微小粒子状物質	
	短期	長期
和光	○	○
新座	○	○
和光新倉	○	○

二酸化硫黄の年平均値の経年変化

(単位: ppm)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新 座	0.001	0.001	0.001	0.000	0.001

二酸化硫黄の1日平均値の2%除外値の経年変化

(単位: ppm)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新 座	0.001	0.001	0.001	0.001	0.002

(環境基準の評価)

浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

(単位: mg/m³)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
和 光	0.017	0.015	0.016	0.016	0.016
新 座	0.015	0.014	0.015	0.016	0.016
和光新倉	0.016	0.014	0.016	0.015	0.016

浮遊粒子状物質の1日平均値の2%除外値の経年変化

(単位: mg/m³)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
和 光	0.040	0.030	0.033	0.035	0.034
新 座	0.036	0.028	0.033	0.035	0.039
和光新倉	0.040	0.029	0.033	0.035	0.042

(環境基準の評価)

光化学オキシダントの昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数の経年変化

(単位: 時間)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
和 光	347	350	330	372	468
新 座	287	315	358	358	569

二酸化窒素の年平均値の経年変化

(単位: ppm)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
和 光	0.014	0.014	0.013	0.012	0.012
新 座	0.013	0.012	0.012	0.011	0.011
和光新倉	0.017	0.016	0.016	0.014	0.014

二酸化窒素の1日平均値の年間9.8%値の経年変化

(単位: ppm)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
和 光	0.032	0.030	0.030	0.030	0.028
新 座	0.031	0.027	0.028	0.028	0.026
和光新倉	0.033	0.031	0.030	0.031	0.029

(環境基準の評価)

微小粒子状物質の年平均値の経年変化

(単位: µg/m³)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
和 光	10.8	9.6	10.4	10.2	10.1
新 座	11.0	9.1	10.4	10.4	10.3
和光新倉	10.7	9.4	10.3	9.8	9.8

(環境基準の評価)

微小粒子状物質の1日平均値の年間9.8%値の経年変化

(単位: µg/m³)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
和 光	26.4	20.3	20.7	22.4	23.3
新 座	27.5	18.0	20.4	23.0	23.2
和光新倉	28.1	19.2	20.7	21.5	21.8

(環境基準の評価)

大気汚染に係る環境基準

物 質	環境上の条件
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下であること。
一酸化炭素	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.1mg/m ³ 以下であり、かつ1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
微小粒子状物質	1年平均値が15μg/m ³ 以下であり、かつ1日平均値が35μg/m ³ 以下であること。

環境基準による大気汚染の評価

(1) 短期的評価 (昭和48年 6月12日環大企第143号より抜粋)

二酸化硫黄等の大気汚染の状態を環境基準にてらして短期的に評価する場合は、連続してまたは隨時に行つた測定結果により、測定を行つた日または時間についてその評価を行う。この場合、地域の汚染の実情、濃度レベルの時間的変動等にてらし、異常と思われる測定値が得られた際においては、測定器の維持管理状況、気象条件、発生源の状況等について慎重に検討を加え、当該測定値が測定器に起因する場合等、地域の大気汚染の状況を正しく反映していないと認められる場合には、当然評価対象としない。なお、1日平均値の評価にあたっては、1時間値の欠測（上記の評価対象としない測定値を含む。）が1日（24時間）のうち4時間を超える場合には、評価対象としない。

(2) 長期的評価 (昭和48年 6月12日環大企第143号より抜粋)

本環境基準による評価は、当該地域の大気汚染に対する施策の効果等を適確に判断するうえからは、年間にわたる測定結果を長期的に観察したうえで評価を行うことが必要であるが、現在の測定体制においては測定精度に限界があること、測定時間、日における特殊事情が直接反映されること等から、次の方法により長期的評価を実施する。1日平均値である測定値〔(1)の評価対象としない測定値を除く。〕につき、測定値の高い方から2%の範囲内にあるもの（365日分の測定値がある場合は7日分の測定値）を除外して評価を行う。ただし、1日平均値につき環境基準を超える日が2日以上連続した場合には、このような取扱いは行わない。

(3) 98パーセント値評価 (昭和53年 7月17日環大企第262号より抜粋)

二酸化窒素の環境基準による大気汚染の評価については、測定局ごとに行うものとし、年間における二酸化窒素の1日平均値のうち、低い方から98%に相当するもの（以下「1日平均値の年間98%値」という。）が0.06ppm以下の場合は環境基準が達成され、0.06ppmを超える場合は達成されていないものと評価する。なお、1時間値の欠測が4時間を超える測定日の1日平均値は用いない。また、年間における測定時間が6,000時間に満たない測定局については、評価の対象としない。

※二酸化窒素濃度が経年的に高い地点は、自動車等の交通量の多い国道254号線などの道路沿線であり、交通渋滞のほか、右折や信号待ちしている車両からの排出ガスの影響を受けていることが考えられます。本市では、主要道路で交通量調査を実施する一方、「広報あさか」を通じて、自動車利用の自粛や自転車及び公共交通機関の利用促進、アイドリング・ストップなどの協力を市民や事業者に呼びかけています。

2 水質関係

(1) 河川水質調査結果【生活環境項目調査地点】(調査地点はP. 99参照)

項目	単位	A地点 新河岸川上流 (新宮戸橋付近)	<C類型>	平均値
採水年月日	—	R06.06.25	R06.08.22	R06.12.11
天候	—	晴	曇	晴
気温	℃	30.2	26.5	16.8
水温	℃	24.4	25.7	14.4
透視度	cm	58.0	100以上	100以上
流量	m ³ /s	30.2	16.0	14.1
生活環境項目	—	7.2	7.2	7.5
pH	—	7.2	7.2	7.3
DO	mg/L	7.8	6.8	8.2
BOD	mg/L	0.9	1.1	1.2
SS	mg/L	7	6	4
全垂鉛	mg/L	0.012	0.021	0.024
ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満	0.00006未満
直鎖アルキルベンズルホン酸塩	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.0009
BOD負荷量	g/s	27.18	17.60	16.92
項目一般	MPN/100ml	33000	350000	130000
大腸菌群数	CFU/100ml	580	11000	1500
大腸菌数	CFU/100ml	3600	1200	1200

項目	単位	C地点 黒目川上流 (大橋付近)	<C類型>	平均値
採水年月日	—	R06.06.25	R06.08.22	R06.12.11
天候	—	曇	晴	晴
気温	℃	31.1	30.5	9.5
水温	℃	23.3	25.3	14.8
透視度	cm	100 以上	100 以上	100 以上
流量	m ³ /s	1.7	1.8	1.3
生活環境項目	—	7.5	7.4	8.2
pH	—	7.5	7.4	8.4
DO	mg/L	8.7	9.4	13.6
BOD	mg/L	0.5未満	0.7	0.9
SS	mg/L	1	2	2
全垂鉛	mg/L	0.008	0.028	0.013
ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満	0.00006未満
直鎖アルキルベンズルホン酸塩	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.0017
BOD負荷量	g/s	0.85	1.26	1.17
項目一般	MPN/100ml	28000	23000	17000
大腸菌群数	CFU/100ml	420	2000	400
大腸菌数	CFU/100ml	50	50	720

項目	単位	D地点 黒目川中流 (東林橋付近)	<C類型>	平均値
採水年月日	—	R06.06.25	R06.08.22	R06.12.11
天候	—	曇	晴	晴
気温	℃	28.5	30.9	7.0
水温	℃	23.5	24.1	13.5
透視度	cm	100 以上	100 以上	100 以上
流量	m ³ /s	1.90	2.10	1.40
生活環境項目	—	7.6	7.7	8.2
pH	—	7.6	7.7	8.7
DO	mg/L	8.5	9.7	15.8
BOD	mg/L	0.5未満	0.5	0.9
SS	mg/L	1	1	4
全垂鉛	mg/L	0.009	0.010	0.006
ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満	0.00006未満
直鎖アルキルベンズルホン酸塩	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.0017
BOD負荷量	g/s	0.95	1.05	1.26
項目一般	MPN/100ml	23000	11000	4900
大腸菌群数	CFU/100ml	3900	740	500
大腸菌数	CFU/100ml	440	440	1400

項目	単位	F地点 越戸川上流 (越戸橋付近)	<指定なし>	平均値
採水年月日	—	R06.06.25	R06.08.22	R06.12.11
天候	—	曇	晴	晴
気温	℃	32.0	28.0	10.0
水温	℃	25.2	23.3	15.7
透視度	cm	100 以上	100 以上	100 以上
流量	m ³ /s	0.18	0.14	0.20
生活環境項目	—	7.6	7.1	7.7
pH	—	7.6	7.1	7.6
DO	mg/L	9.2	9.5	12.7
BOD	mg/L	0.5未満	0.8	1.7
SS	mg/L	1未満	3	1未満
全垂鉛	mg/L	0.013	0.018	0.018
ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満	0.00006未満
直鎖アルキルベンズルホン酸塩	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.0006
BOD負荷量	g/s	0.09	0.11	0.34
項目一般	MPN/100ml	13000	79000	3300
大腸菌群数	CFU/100ml	540	1800	360
大腸菌数	CFU/100ml	930	1000	1000

河川水質調査結果【生活環境・健康・要監視・一般項目調査地点】(調査地点はP99参照)

項目	単位	B地点	新河岸川下流 (旧内間木橋付近)	<C類型>	平均値
採水年月日	—	R06.06.25	R06.08.22	R06.12.11	R07.02.20
天候	—	曇	曇	晴	晴
気温	℃	31.2	28.9	17.0	9.0
水温	℃	25.0	25.2	14.9	12.3
透視度	cm	50.0	100以上	100以上	80.0
流量	m³/s	42.5	31.1	2.7	13.6
生活性環境	—	7.3	7.1	7.2	7.2
pH	—	8.1	7.2	8.8	8.4
D0	mg/L	1.1	1.1	1.3	1.2
BOD	mg/L	12	4	2	5
SS	mg/L	0.012	0.019	0.028	0.024
全垂鉛	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満
ノニルフェノール	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩	mg/L	0.0006未満	0.0006	0.0017	0.0018
大腸菌群数	MPN/100ml	13000	240000	130000	13000
大腸菌数	CFU/100ml	480	10000	1100	760
大腸菌群数	MPN/100ml	13000	240000	130000	13000
大腸菌数	CFU/100ml	480	10000	1100	760
BOD負荷量	g/s	46.75	34.21	3.51	14.96
健	カドミウム	mg/L	0.0003未満	—	0.0003未満
全シアン	mg/L	不検出	—	不検出	不検出
鉛	mg/L	0.001未満	—	0.001未満	0.001未満
六価クロム	mg/L	0.005未満	—	0.005未満	0.005未満
砒素	mg/L	0.001未満	—	0.001未満	0.001未満
総水銀	mg/L	0.0005未満	—	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀	mg/L	不検出	—	不検出	不検出
P C B	mg/L	不検出	—	不検出	不検出
康	ジクロロメタン	mg/L	0.002未満	—	0.002未満
四塩化炭素	mg/L	0.0002未満	—	0.0002未満	0.0002未満
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.0004未満	—	0.0004未満	0.0004未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.01未満	—	0.01未満	0.01未満
3-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004未満	—	0.004未満	0.004未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.1未満	—	0.1未満	0.1未満
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.0006未満	—	0.0006未満	0.0006未満
トリクロロエチレン	mg/L	0.001未満	—	0.001未満	0.001未満
テトラクロロエチレン	mg/L	0.001未満	—	0.001未満	0.001未満
項	1,3-ジクロロプロパン	mg/L	0.0002未満	—	0.0002未満
チラム	mg/L	0.0006未満	—	0.0006未満	0.0006未満
シマジン	mg/L	0.0003未満	—	0.0003未満	0.0003未満
チオベンカルブ	mg/L	0.002未満	—	0.002未満	0.002未満
ベンゼン	mg/L	0.001未満	—	0.001未満	0.001未満
セレン	mg/L	0.001未満	—	0.001未満	0.001未満
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	2.5	—	6.3	4.4
フッ素	mg/L	0.09	—	0.08未満	0.09
ほう素	mg/L	0.1未満	—	0.1未満	0.1未満
目	1,4-ジオキサン	mg/L	0.005未満	—	0.005未満
要	クロロホルム	mg/L	0.006未満	—	0.006未満
トラン-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004未満	—	—	0.004未満
1,2-ジクロロプロパン	mg/L	0.006未満	—	—	0.006未満
p-ジクロロベンゼン	mg/L	0.02未満	—	—	0.02未満
イソキサチオノン	mg/L	0.0008未満	—	—	0.0008未満
ダイアジノノン	mg/L	0.0005未満	—	—	0.0005未満
監	フェニトロチオン	mg/L	0.0003未満	—	0.0003未満
イソプロチオラン	mg/L	0.004未満	—	—	0.004未満
オキシン銅	mg/L	0.004未満	—	—	0.004未満
クロロタロニル	mg/L	0.005未満	—	—	0.005未満
プロビザミド	mg/L	0.0008未満	—	—	0.0008未満
E P N	mg/L	0.0006未満	—	—	0.0006未満
ジクロルボス	mg/L	0.0008未満	—	—	0.0008未満
フェノブカルブ	mg/L	0.003未満	—	—	0.003未満
視	イプロベンホス	mg/L	0.0008未満	—	0.0008未満
クロルニトロフェン	mg/L	0.0005未満	—	—	0.0005未満
トルエン	mg/L	0.06未満	—	—	0.06未満
キシレン	mg/L	0.04未満	—	—	0.04未満
項	フタル酸ジエチルヘキシル	mg/L	0.006未満	—	0.006未満
ニッケル	mg/L	0.001	—	—	0.001
モリブデン	mg/L	0.007未満	—	—	0.007未満
アンチモン	mg/L	0.002未満	—	—	0.002未満
塩化ビニルモノマー	mg/L	0.0002未満	—	—	0.0002未満
エピクロロヒドリン	mg/L	0.00004未満	—	—	0.00004未満
全マンガン	mg/L	0.04	—	—	0.04
目	ウラン	mg/L	0.0002未満	—	0.0002未満

河川水質調査結果【生活環境・健康・要監視・一般項目調査地点】(調査地点はP. 99参照)

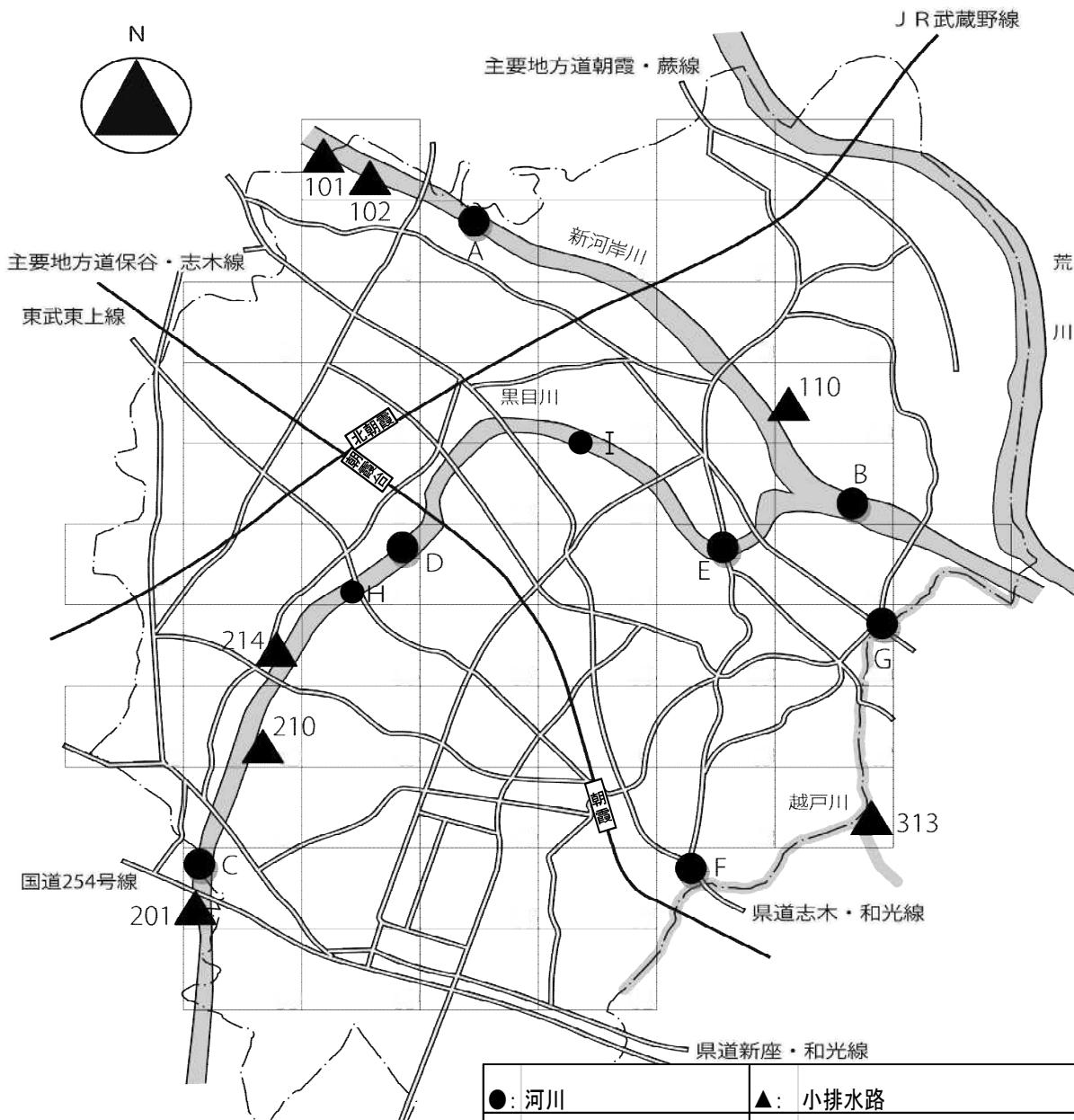
項目	単位	G地点	越戸川下流	(東和橋付近)	<指定なし>	平均値
採水年月日	—	R06. 06. 25	R06. 08. 22	R06. 12. 11	R07. 02. 20	—
天候	—	曇	曇	晴	晴	—
気温	℃	31.0	25.8	16.0	7.0	—
水温	℃	22.1	24.2	13.4	11.3	—
透視度	cm	100以上	75.0	100以上	100以上	93.8
流量	m³/s	0.32	0.43	0.22	0.11	0.27
生活性境項目	pH	—	7.2	7.3	7.5	7.4
	DOD	mg/L	9.4	8.6	15.2	11.8
	BOD	mg/L	0.5	1.2	0.7	0.9
	SS	mg/L	1未満	2	1未満	1
全亜鉛	mg/L	0.019	0.012	0.013	0.008	0.013
ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満	0.00006未満	0.00006未満	0.00006未満
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.0006	0.0006未満	0.0006
項目一般	大腸菌群数	MPN/100ml	11000	130000	7000	7900
	大腸菌数	CFU/100ml	1200	5000	200	160
	BOD負荷量	g/s	0.16	0.52	0.15	0.10
健	カドミウム	mg/L	0.0003 未満	—	0.0003 未満	—
	全シアン	mg/L	不検出	—	不検出	—
	鉛	mg/L	0.001 未満	—	0.001 未満	—
	六価クロム	mg/L	0.005 未満	—	0.005 未満	—
	砒素	mg/L	0.001 未満	—	0.001 未満	—
	総水銀	mg/L	0.0005 未満	—	0.0005 未満	—
	アルキル水銀	mg/L	不検出	—	不検出	—
	P C B	mg/L	不検出	—	不検出	—
康	ジクロロメタン	mg/L	0.002 未満	—	0.002 未満	—
	四塩化炭素	mg/L	0.0002 未満	—	0.0002 未満	—
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.0004 未満	—	0.0004 未満	—
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.01 未満	—	0.01 未満	—
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.004 未満	—	0.004 未満	—
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.1 未満	—	0.1 未満	—
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.0006 未満	—	0.0006 未満	—
	トリクロロエチレン	mg/L	0.001 未満	—	0.001 未満	—
	テトラクロロエチレン	mg/L	0.001 未満	—	0.001 未満	—
項	1,3-ジクロロプロパン	mg/L	0.0002 未満	—	0.0002 未満	—
	チラム	mg/L	0.0006 未満	—	0.0006 未満	—
	シマシン	mg/L	0.0003 未満	—	0.0003 未満	—
	チオベンカルブ	mg/L	0.002 未満	—	0.002 未満	—
	ベンゼン	mg/L	0.001 未満	—	0.001 未満	—
	セレン	mg/L	0.001 未満	—	0.001 未満	—
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	3.7	—	3.9	—
	フッ素	mg/L	0.08 未満	—	0.08 未満	—
	ほう素	mg/L	0.1 未満	—	0.1 未満	—
目	1, 4-ジオキサン	mg/L	0.005 未満	—	0.005 未満	—
要	クロロホルム	mg/L	0.006 未満	—	—	—
	トヨゾー1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004 未満	—	—	—
	1,2-ジクロロプロパン	mg/L	0.006 未満	—	—	—
	p-ジクロロベンゼン	mg/L	0.02 未満	—	—	—
	イソキサチオノン	mg/L	0.0008 未満	—	—	—
	ダイアジノン	mg/L	0.0005 未満	—	—	—
監	フェニトロチオノン	mg/L	0.0003 未満	—	—	—
	イソプロチオラン	mg/L	0.004 未満	—	—	—
	オキシン銅	mg/L	0.004 未満	—	—	—
	クロロタロニル	mg/L	0.005 未満	—	—	—
	プロビザミド	mg/L	0.0008 未満	—	—	—
視	E P N	mg/L	0.0006 未満	—	—	—
	ジクロルボス	mg/L	0.0008 未満	—	—	—
	フェノブカルブ	mg/L	0.003 未満	—	—	—
	イプロベンホス	mg/L	0.0008 未満	—	—	—
	クロルニトロフェン	mg/L	0.0005 未満	—	—	—
	トルエン	mg/L	0.06 未満	—	—	—
	キシレン	mg/L	0.04 未満	—	—	—
項	フタル酸ジエチルヘキシリ	mg/L	0.006 未満	—	—	—
	ニッケル	mg/L	0.001未満	—	—	—
	モリブデン	mg/L	0.007 未満	—	—	—
	アンチモン	mg/L	0.002 未満	—	—	—
	塩化ビニルモノマー	mg/L	0.0002 未満	—	—	—
	エピクロロヒドリン	mg/L	0.00004 未満	—	—	—
目	全マンガン	mg/L	0.02 未満	—	—	—
	ウラン	mg/L	0.0002 未満	—	—	—

河川水質調査結果【追加項目調査地点】（調査地点はP. 99参照）

項目	単位	追加項目調査地点 黒目川上流 (新高橋付近 左岸) <C類型>		平均値
採水年月日	-	R06. 08. 22	R06. 12. 11	-
天候	-	曇	晴	-
気温	℃	30.5	9.0	-
水温	℃	23.6	14.4	-
追 目 加 項	化学的酸素要求量 (COD) ふん便性大腸菌群数	mg/L CFU/100ml	0.9 1900	1.8 400 1.4 1200

項目	単位	追加項目調査地点 黒目川上流 (朝霞市総合福祉センター付近 左岸) <C類型>		平均値
採水年月日	-	R06. 08. 22	R06. 12. 11	-
天候	-	曇	晴	-
気温	℃	31.5	12.5	-
水温	℃	24.0	7.0	-
追 目 加 項	化学的酸素要求量 (COD) ふん便性大腸菌群数	mg/L CFU/100ml	1.2 10000	1.5 500 1.4 5300

<河川調査・小排水路調査地点 メッシュ地図>



●: 河川	▲: 小排水路
A: 新宮戸橋付近	101: 新河岸川(右岸)田子山樋管
B: 旧内間木橋付近	102: 新河岸川(右岸)宮戸3丁目付近
C: 大橋付近	110: 新河岸川(左岸)内間木排水機場付近
D: 東林橋付近	201 黒目川(左岸)新座大橋付近
E: 笹橋付近	210: 黒目川(右岸)北浦待機宿舎付近
F: 越戸橋付近	214: 黒目川(左岸)泉橋付近
G: 東和橋付近	313: 越戸川(右岸)谷中川合流点
H: 新高橋付近	
I: 総合福祉センター付近	

※河川E地点（笹橋付近）は、付近の東橋で県による調査が実施されているため、23年度から市による調査は実施しておりません。

(参考) 埼玉県公共用水域の水質測定結果【生活環境項目】

黒目川下流 (東橋付近)

(令和6年度)

項目	単位	平均値
生活環境項目	pH	7.7
	D0	11.0
	BOD	1.7
	COD	2.8
	SS	11
	大腸菌数	1,900
	全窒素	4.6
	全リン	0.033
	全亜鉛	0.015
	ノニルフェノール	0.00006
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩	0.0039

※健康項目、要監視項目、一般項目は、まだ公表されていないため、未掲載。

生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目）

水質汚濁に係る環境基準のうち、人の生活に關係する最も基本的な水質項目です。

昭和46年12月28日環境庁告示第59号

令和3年10月7日環境省告示第62号改正

類型	利用目的の適応性	生活環境項目基準値				
		水素イオン濃度(pH)	生物化学的酸素要求量(BOD)	浮遊物質量(SS)	溶存酸素量(DO)	大腸菌数
AA	水道1級 自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	20CFU/ 100ml以下
A	水道2級 水産1級 水浴及びB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2 mg/L 以下	25 mg/L 以下	7.5 mg/L 以上	300CFU / 100ml以下
B	水道3級 水産2級 及びC以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3 mg/L 以下	25 mg/L 以下	5 mg/L 以上	1,000CFU / 100ml以下
C	水産3級 工業用水1級 及びD以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5 mg/L 以下	50 mg/L 以下	5 mg/L 以上	—
D	工業用水2級 農業用水及びEの欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8 mg/リットル 以下	100 mg/L 以下	2 mg/L 以上	—
E	工業用水3級 環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/リットル 以下	ごみ等の浮遊が認められないこと	2 mg/L 以上	—

※新河岸川はC類型（平成25年3月26日埼玉県告示）、黒目川はC類型（平成15年3月28日埼玉県告示）に指定され、越戸川は無指定である。

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	生活環境項目基準値		
		全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.03mg/L 以下
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	0.0006mg/L 以下	0.02mg/L 以下
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下
生物特B	生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.04mg/L 以下

※新河岸川、黒目川は生物B類型（平成20年12月16日埼玉県告示）に指定され、越戸川は無指定である。

人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）

人の健康の保護に関する環境基準で指定されている項目で、水質汚濁物質の中でも特に有害性の強いものです。

昭和46年12月28日環境庁告示第59号
令和3年10月7日環境省告示第62号改正

健 康 項 目	基 準 値	健 康 項 目	基 準 値
カドミウム	0.003mg/L以下	1,1,1-トリクロロエタン	1 mg/L以下
全シアン	検出されないこと	1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下
鉛	0.01mg/L以下	トリクロロエチレン	0.01mg/L以下
六価クロム	0.02mg/L以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下
砒素	0.01mg/L以下	1,3-ジクロロプロパン	0.002mg/L以下
総水銀	0.0005mg/L以下	チウラム	0.006mg/L以下
アルキル水銀	検出されないこと	シマジン	0.003mg/L以下
P C B	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02mg/L以下
ジクロロメタン	0.02mg/L以下	ベンゼン	0.01mg/L以下
四塩化炭素	0.002mg/L以下	セレン	0.01mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L以下	ふつ素	0.8mg/L以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	ほう素	1 mg/L以下
		1,4-ジオキサン	0.05mg/L以下

※基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。

要監視項目及び指針値（要監視項目）

健康の保護に関する物質ではあるものの検出状況等からみて、現時点では環境基準項目とはせず、引き続きデータの集積に努めるべきと判断されているものです。

平成5年3月8日環水管第21号、

平成21年11月30日環水大水発第091130004号、環水大土発第091130005号、令和2年5月28日環水大水発第2005281号、環水大水発第2005282号改正

要監視項目	指針値	要監視項目	指針値
クロロホルム	0.06mg/L以下	フェノブカルブ	0.03mg/L以下
トランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	イプロベンホス	0.008mg/L以下
1,2-ジクロロプロパン	0.06mg/L以下	クロルニトロフェン	—
p-ジクロロベンゼン	0.2mg/L以下	トルエン	0.6mg/L以下
イソキサチオン	0.008mg/L以下	キシレン	0.4mg/L以下
ダイアジノン	0.005mg/L以下	フタル酸ジエチルヘキシル	0.06mg/L以下
フェニトロチオン	0.003mg/L以下	ニッケル	—
イソプロチオラン	0.04mg/L以下	モリブデン	0.07mg/L以下
オキシン銅	0.04mg/L以下	アンチモン	0.02mg/L以下
クロロタロニル	0.05mg/L以下	塩化ビニルモノマー	0.002mg/L以下
プロピザミド	0.008mg/L以下	エピクロロヒドリン	0.0004mg/L以下
E P N	0.006mg/L以下	全マンガン	0.2mg/L以下
ジクロルボス	0.008mg/L以下	ウラン	0.002mg/L以下
		ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) 及びペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	0.0005mg/L以下 (暫定) ※

※PFOS及びPFOAの指針値（暫定）については、PFOA及びPFOAの合計値とする。

水浴場水質判定基準（追加項目）

水浴場は、人と水が触れあう場として最も親しまれている水環境の一つであり、地域の個性を形作っているとともに自然の水環境の一部を構成する重要な水辺でもあります。評価項目は、環境基準健康項目が達成されていることを前提として、4項目（化学的酸素要求量、ふん便性大腸菌群数など）を評価することとしています。

引用元：環境省

区分	化学的酸素要求量 (COD)	ふん便性大腸菌群数	油膜の有無	透明度
適	水質AA	2mg/L以下	不検出 (検出限界2個/100ml)	油膜が認められない 全透 (または1m以上)
	水質A	2mg/L以下	100個/100ml以下	油膜が認められない 全透 (または1m以上)
可	水質B	5mg/L以下	400個/100ml以下	常時は油膜が認められない 1m未満～50cm以上
	水質C	8mg/L以下	1,000個/100ml以下	常時は油膜が認められない 1m未満～50cm以上
不適	8mg/L超	1,000個/100ml を超えるもの	常時油膜が認められる	50cm未満

※市内の河川は水浴場として指定されていません。

河川・小排水路調査の結果（補足）

○河川調査のpHの不適合について

黒目川（中流）東林橋付近において、2月の調査で環境基準の超過がありました。

（pH8.7 ※環境基準は6.5以上8.5以下）

原因については、周囲の小排水路からの流入水の影響が考えられます。

次年度以降も、継続して調査を行い経過観察をしていくとともに、毎月パックテスト等による簡易水質調査を行い、水質状況の把握に努めます。

○黒目川のふん便性大腸菌群数について

黒目川をはじめ市内の河川に水浴場はありません。一方、黒目川は水に親しむ人も多いことから、黒目川2地点（新高橋付近、朝霞市総合福祉センター付近）で年2回（8月、12月）水浴場水質判定基準を参考にした水質調査を行っています。令和6年度の調査結果は、8月において2地点とも「不適」となりました。市では、水に親しむ機会の増える小中学校の夏休み時期に合わせ、令和7年7月にSNSで、水難事故の啓発とあわせて「水遊びの後は手洗い等をする」等の情報発信を行いました。

なお、基準値を超える年、超えない年があるため、次年度以降も、継続して調査を行い、経過観察をします。

○小排水路調査の5項目（pH、BOD、DO、全亜鉛、LAS）の不適合について

小排水路の水質に環境基準は適用されませんが、参考のため流入先の基準値を準用した場合、新河岸川の小排水路がBOD、DO、全亜鉛、LASについて、黒目川の小排水路がBOD、全亜鉛について、越戸川の小排水路がpHについて基準を超過しました。

それらの原因是、工場排水や生活排水などの影響を受けているものと推察されます。特に新河岸川と黒目川に流入する小排水路では流量が少ないため、負荷量は小さく、小排水路の汚濁が直ちに河川へ影響するとは考えにくいものとなっています。しかしながら、河川の環境維持のためには、次年度以降も、継続して調査を行い経過観察をしていくとともに、毎月パックテスト等による簡易水質調査を行い、水質状況の把握に努めます。

○地下水調査について

地下水調査については、1地点、テトラクロロエチレンが基準超過している井戸があり、平成18年度以前から継続して調査してきましたが、令和6年度に建物の解体に伴い、井戸を閉じたことにより、調査地点でなくなりました。そのため、令和6年度は、全地点で基準適合となりました。

PFOS・PFOA検査について

有機フッ素化合物（P F A S・ピーファス）の代表的な物質であるPFOS（ピーフオス）及びPFOA（ピーフォア）の水質検査について、河川は、埼玉県において、黒目川（1地点）、新河岸川（志木市と和光市内各1地点）で実施しており、埼玉県のホームページで公表しております。

採取地点			令和5年度	令和4年度	令和3年度
河川名	地点名	所在地			
黒目川	東橋	朝霞市	18 ng/L	17 ng/L	17 ng/L
新河岸川	笹目橋	和光市 板橋区	10 ng/L	25 ng/L	17 ng/L
新河岸川	いろは橋	志木市	22 ng/L	24 ng/L	23 ng/L

※令和6年度結果はまだ公表されていないため、未掲載。埼玉県ホームページより抜粋

また、水道事業では、令和2年度から年1回、8月に水道管の末端となる公園の給水栓2箇所で実施しており、令和6年度から浄水4箇所、原水8箇所で年5回実施しており、国が定める暫定目標値を下回っています。

【PFOS及びPFOA検査結果】

	採取地点		令和6年度	令和5年度	令和4年度
	地点名	住所	浄水2月17日 原水2月20日	8月17日	8月15日
浄水	宮戸児童遊園地	宮戸3丁目	5 ng/L未満	—	5 ng/L未満
	やつじ公園	宮戸3丁目	—	5 ng/L未満	—
	やつるぎ児童遊園地	上内間木	5 ng/L未満	5 ng/L未満	5 ng/L未満
	緑ヶ丘児童遊園地	幸町2丁目	—	—	—
	泉水浄水場内出口	泉水2丁目	5 ng/L未満	—	—
	岡浄水場内出口	岡2丁目	5 ng/L未満	—	—
原水	3号取水井	岡2丁目	5 ng/L未満	—	—
	4号取水井	岡1丁目	5 ng/L未満	—	—
	5号取水井	岡2丁目	5 ng/L未満	—	—
	10号取水井	幸町3丁目	5 ng/L未満	—	—
	11号取水井	泉水2丁目	5 ng/L未満	—	—
	12号取水井	大字溝沼539	5 ng/L未満	—	—
	13号取水井	三原1丁目	5 ng/L未満	—	—
	14号取水井 ※R7.3新設（供用前検査）	泉水2丁目	5 ng/L未満 (※1月31日実施)	—	—

※5 ng/L未満は検出限界未満

※令和6年度は年5回実施のうちの最終検査結果（2月実施）のみ掲載

※国の暫定目標値：PFOS・PFOAの合算値で50 ng/L以下

暫定目標は、体重50kgの人が水を一生涯にわたって毎日2ℓ飲用したとしても、この濃度以下であれば人の健康に悪影響が生じないものとして国が設定した基準です。

(2) 小排水路水質調査結果 (調査地点はP. 99参照)

項目		単位	No. 101 新河岸川(右岸) 田子山樋管		平均値
採水年月日	—	—	R06.08.22	R07.02.20	—
天候	—	—	曇	晴	—
気温	°C	—	26.5	12.1	—
水温	°C	—	24.4	13.5	—
透視度	cm	—	100以上	100以上	100以上
流量	m³/s	—	0.127	0.014	0.071
生活環境項目	pH	—	7.0	7.7	7.4
	DO	mg/L	8.1	8.8	8.5
	BOD	mg/L	1.0	2.2	1.6
	SS	mg/L	1未満	1未満	1未満
	全亜鉛	mg/L	0.028	0.031	0.030
	ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満	0.00006未満
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩	mg/L	0.0026	0.026	0.014
BOD負荷量		g/s	0.127	0.031	0.079

項目		単位	No. 102 新河岸川(右岸) 宮戸3丁目17番地先		平均値
採水年月日	—	—	R06.08.22	R07.02.20	—
天候	—	—	曇	晴	—
気温	°C	—	28.0	10.6	—
水温	°C	—	26.6	11.5	—
透視度	cm	—	100以上	100以上	100以上
流量	m³/s	—	0.003	0.001	0.002
生活環境項目	pH	—	7.4	7.7	7.6
	DO	mg/L	6.7	10.0	8.4
	BOD	mg/L	4.8	2.5	3.7
	SS	mg/L	6	1未満	4
	全亜鉛	mg/L	0.035	0.016	0.026
	ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満	0.00006未満
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩	mg/L	0.0041	0.0061	0.005
BOD負荷量		g/s	0.014	0.003	0.008

項目		単位	No. 110 新河岸川(左岸) 内間木排水機場付近		平均値
採水年月日	—	—	R06.08.22	R07.02.20	—
天候	—	—	曇	晴	—
気温	°C	—	30.0	9.8	—
水温	°C	—	27.5	10.2	—
透視度	cm	—	43.0	26.0	34.5
流量	m³/s	—	0.017	0.007	0.012
生活環境項目	pH	—	7.1	7.4	7.3
	DO	mg/L	4.7	7.2	6.0
	BOD	mg/L	5.4	13.0	9.2
	SS	mg/L	10	13	12
	全亜鉛	mg/L	0.014	0.020	0.017
	ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満	0.00006未満
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩	mg/L	0.14	0.15	0.15
BOD負荷量		g/s	0.092	0.091	0.091

項目		単位	No. 201 黒目川(左岸) 新座大橋付近		平均値
採水年月日	—	—	R06.08.22	R07.02.20	—
天候	—	—	曇	晴	—
気温	°C	—	29.0	11.7	—
水温	°C	—	24.9	9.8	—
透視度	cm	—	73.0	72.0	72.5
流量	m³/s	—	0.001未満	0.001未満	0.001未満
生活環境項目	pH	—	7.6	7.4	7.5
	DO	mg/L	8.1	9.9	9.0
	BOD	mg/L	2.3	10.0	6.2
	SS	mg/L	1	2	2
	全亜鉛	mg/L	0.085	0.039	0.062
	ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満	0.00006未満
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩	mg/L	0.0011	0.037	0.0191
BOD負荷量		g/s	0.002	0.010	0.006

小排水路水質調査結果 (調査地点はP. 99参照)

		単位	No. 210 黒目川(右岸) 北浦待機宿舎付近	平均値
採水年月日	-		R06.08.22 R07.02.20	-
天候	-		曇 晴	-
気温	℃		30.5 10.2	-
水温	℃		22.9 14.3	-
透視度	cm		100以上 100以上	100以上
流量	m ³ /s		0.003 0.008	0.006
生 活 環 境 項 目	pH	-	7.7 8.4	8.1
	D0	mg/L	8.3 9.2	8.8
	BOD	mg/L	1.5 2.2	1.9
	SS	mg/L	1未満 1	1
	全亜鉛	mg/L	0.019 0.017	0.018
	ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満 0.00006未満	0.00006未満
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩	mg/L	0.011 0.0083	0.01
BOD負荷量		g/s	0.005 0.018	0.011

項目		単位	No. 214 黒目川(左岸) 泉橋付近	平均値
採水年月日	-		R06.08.22 R07.02.20	-
天候	-		曇 晴	-
気温	℃		30.0 10.9	-
水温	℃		25.6 16.0	-
透視度	cm		100以上 100以上	100以上
流量	m ³ /s		0.002 0.002	0.002
生 活 環 境 項 目	pH	-	7.0 7.6	7.3
	D0	mg/L	6.4 10.0	8.2
	BOD	mg/L	1.4 0.6	1.0
	SS	mg/L	1 1未満	1
	全亜鉛	mg/L	0.018 0.013	0.016
	ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満 0.00006未満	0.00006未満
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩	mg/L	0.0073 0.0006未満	0.0040
BOD負荷量		g/s	0.003 0.001	0.002

項目		単位	No. 313 越戸川(右岸) 谷中川合流点	平均値
採水年月日	-		R06.08.22 R07.02.20	-
天候	-		曇 晴	-
気温	℃		31.5 5.2	-
水温	℃		25.7 10.4	-
透視度	cm		46 100以上	73.0
流量	m ³ /s		0.089 0.066	0.078
生 活 環 境 項 目	pH	-	8.6 7.7	8.2
	D0	mg/L	9.2 11.9	10.6
	BOD	mg/L	0.6 0.9	0.8
	SS	mg/L	8 3	6
	全亜鉛	mg/L	0.007 0.009	0.008
	ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満 0.00006未満	0.00006未満
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩	mg/L	0.0006未満 0.0008	0.0007
BOD負荷量		g/s	0.053 0.059	0.056

3 地下水関係

地下水概況調査結果【井戸水・湧水】

項目	一	地下水1	地下水2	地下水3	地下水4	地下水5
地点番号	—	4	10	12	21	27
採水年月日	年月日	R06.12.10	R06.12.10	R06.12.10	R06.12.10	R06.12.10
天候	—	晴	晴	晴	晴	晴
トリクロロエチレン	mg/L	0.002未満	0.002未満	0.002	0.002未満	0.002未満
テトラクロロエチレン	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0049
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	-	-
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	-	-
項目	単位	地下水6	地下水7	地下水8	地下水9	地下水10
地点番号	—	35	37	44	51	53
採水年月日	年月日	R06.12.10	R06.12.10	R06.12.10	R06.12.10	R06.12.10
天候	—	晴	晴	晴	晴	晴
トリクロロエチレン	mg/L	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満
テトラクロロエチレン	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	-	-
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	-	-
項目	単位	地下水11	地下水12	地下水13	わくわく田島緑地（湧水）	総検体数
地点番号	—	56	57	60	⑤	-
採水年月日	年月日	R06.12.10	R06.12.10	R06.12.10	R06.12.10	-
天候	—	晴	晴	晴	晴	-
トリクロロエチレン	mg/L	0.002未満	0.002	0.002未満	0.002未満	14
テトラクロロエチレン	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0016	14
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	14
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	-	0.01未満	-	-	1
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	0.004未満	-	-	1
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	0.004未満	-	-	1
項目	基準超過数	超過率	検出数	検出率	基準値	
トリクロロエチレン	0	0.0%	2	14.3%	0.01mg/l以下	
テトラクロロエチレン	0	0.0%	2	14.3%	0.01mg/l以下	
1,1,1-トリクロロエタン	0	0.0%	0	0.0%	1 mg/l以下	
1,1-ジクロロエチレン	0	0.0%	0	0.0%	0.1mg/l以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	0	0.0%	0	0.0%	0.04mg/l以下	
トランス-1,2-ジクロロエチレン	0	0.0%	0	0.0%	0.04mg/l以下	

4 魚類関係

魚類調査結果（調査日：令和6年7月17日～18日）

(単位：匹)

種名		調査地点			生活型
		新河岸川	黒目川	越戸川	
		下流	中流	下流	
コイ科	コイ（型不明）	4	3		純淡水魚
	コイ（改良品種型）			1	純淡水魚
	ギンブナ	2			純淡水魚
	フナ属	7		1	純淡水魚
	タイリクバラタナゴ	2			純淡水魚
	オイカワ	3	16		純淡水魚
	カワムツ		9		純淡水魚
	ウグイ	3	15		回遊魚・純淡水魚
	モツゴ	21	4	4	純淡水魚
	カマツカ	4			純淡水魚
	ニゴイ	10		1	純淡水魚
	スゴモロコ類	1			純淡水魚
ドジョウ科	ヒガシシマドジョウ		13		純淡水魚
ナマズ科	ナマズ			2	純淡水魚
アユ科	アユ		11		回遊魚
ボラ科	ボラ	1	11	3	汽水・海水魚
カダヤシ科	カダヤシ	2			純淡水魚
メダカ科	ミナミメダカ	2			純淡水魚
スズキ科	スズキ	2	1		汽水・海水魚
ハゼ科	マハゼ	10	3	1	汽水・海水魚
	アシシロハゼ	5			汽水・海水魚
	ヌマチチブ	10	45	84	回遊魚
	ヨシノボリ属	1			
	スミウキゴリ		5	2	回遊魚
	ウキゴリ	1	47	34	回遊魚
ヌマエビ科	カワリヌマエビ属		3		
テナガエビ科	テナガエビ	16		1	
	スジエビ		14	1	
アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ		3		
アカガエル科	ウシガエル	1			
ヌマガメ科	ミシシッピアカミミガメ	1			
スッポン科	ニホンスッポン		1		

【調査地点の河川の特徴及び出現種との関係】

【新河岸川下流（旧内間木橋付近）】

調査地点は、両岸はコンクリートで護岸されているが、河床は泥や礫で自然の状態になっている。水深及び流量については、漁具設置場所付近は干溝の影響を受けて大きく変動する。両岸の植生は、一部で水面を覆うように繁茂する陸上植物が生育している。

魚類は、コイ（型不明）、ギンブナ、フナ属、タイリクバラタナゴ、オイカワ、ウグイ、モツゴ、カマツカ、ニゴイ、スゴモロコ類、ボラ、カダヤシ、ミナミメダカ、スズキ、マハゼ、アシシロハゼ、ヌマチチブ、ヨシノボリ属、ウキゴリの19種が確認された。甲殻類は、テナガエビの1種が確認された。両生類は、ウシガエルの1種、爬虫類は、ミシシッピアカミミガメの1種が確認された。

水質は、C類型と生物B類型の基準を満たしており、魚類が問題なく生息できる環境であった。

【黒目川中流（東林橋付近）】

調査地点は両岸の一部はコンクリートで護岸されているが、河床は礫・砂・石で自然の状態になっている。水深の深い場所（淵）、砂礫が堆積して浅くなっている場所（瀬）等の変化に富んでおり、左岸側の河川敷にはワンドを形成している。流量は安定している。両岸の植生は一部で水面を覆うように繁茂し、河床にオオカナダモ等の沈水植物が多く見られ、これらの植物は小型魚類の隠れ家を提供している。

魚類は、コイ（型不明）、オイカワ、カワムツ、ウグイ、モツゴ、ヒガシシマドジョウ、アユ、ボラ、スズキ、マハゼ、ヌマチチブ、スミウキゴリ、ウキゴリの13種が確認された。甲殻類は、カワリヌマエビ属、スジエビ、アメリカザリガニの3種が確認された。爬虫類はニホンスッポンの1種が確認された。今年度もアユが確認された。参考までに、アユの生息環境の水質条件を下記の表に整理した。

水質は、2月にpHが生物B類型の基準を超過したものの、その他はC類型と生物B類型の基準を満たしており、魚類が問題なく生息できる環境であった。

表 アユの生息条件

区分	出現水温・生息水温	流動・底質	食性
卵期	10°C～20°C 23°C以上危険	—	—
稚仔魚期	7°C～25°C	人工採苗地の溶存酸素量 4.3mg/lで一部の仔魚死亡、 2.9mg/lで大部分死亡	降海後主にケンミジンコ類、オタマボヤ、 葉脚類、端脚類、イカ、2枚貝幼生、デトリタス
未成魚	9°C～18°C	流速2m/sec 流速3m/sec 潟上不可能	付着藻類（特に藍藻を好む）
成魚	—	すみつき期：石・岩盤	動物プランクトン 付着藻類

【越戸川下流（東和橋付近）】

調査地点は、両岸の大部分はコンクリートで護岸されているものの、水辺に石等が配置され、河床は砂、礫等で自然の状態になっている。水深は浅く、流量は安定している。また、流速の早い場所や若干ゆっくりした場所があり、変化に富んでいる。両岸の植生は、水面を覆うように繁茂し、河床にはオオカナダモ等の沈水植物が多くみられる。これらの植物は小型魚類の隠れ家を提供している。

魚類は、コイ（改良品種型）、フナ属、モツゴ、ニゴイ、ナマズ、ボラ、マハゼ、ヌマチチブ、スミウキゴリ、ウキゴリの10種が確認された。甲殻類は、テナガエビ、スジエビの2種が確認された。

水質は、C類型と生物B類型の基準を満たしており、魚類が問題なく生息できる環境であった。

【参考】朝霞市黒目川に親しむ会より情報提供

※黒目川に親しむ会：黒目川の改修工事をきっかけに、黒目川を安全で誰もが親しめる川にしようと生まれた会

黒目川中流における水生生物採捕結果（調査期間：令和6年5月～9月）

目名	科名	種名	
ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	
コイ目	コイ科	コイ	ウグイ
		ギンブナ	モツゴ
		オイカワ	タモロコ
		アブラハヤ	スナゴカマツカ
		マルタ	ニゴイ
		カワムツ	
	ドジョウ科	ドジョウ	ヒガシシマドジョウ
ナマズ目	ナマズ科	ナマズ	
サケ目	アユ科	アユ	
ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	
スズキ目	スズキ科	スズキ	
	ボラ科	ボラ	
	ドンコ科	ドンコ	
	ケツギョ科	オヤニラミ	
	ハゼ科	スミウキゴリ	ウキゴリ
		マハゼ	クロダハゼ（トウヨシノボリ）
		ヌマチチブ	カワヨシノボリ
		シマヨシノボリ	ムサシノジュズカケハゼ
エビ目	モクズガニ科	モクズガニ	
	テナガエビ科	テナガエビ	スジエビ
	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	
	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	
カメ目	イシガメ科	クサガメ	
	ヌマガメ科	ミシシッピアカミミガメ	
	スッポン科	スッポン	
無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	
	アマガエル科	ウシガエル	
トンボ目	カワトンボ科	ハグロトンボ	
	ヤンマ科	(成虫) ギンヤンマ	
	サナエトンボ科	(成虫) コオニヤンマ	(ヤゴ) ホンサンエ

	ヤマトンボ科	(成虫・ヤゴ) コヤマトンボ
	イトトンボ科	クロイトトンボ (ヤゴ) アジアイトンボ
	トンボ科	(ヤゴ) シオカラトンボ
		(成虫) アキアカネ
		(成虫) ウスバキトンボ
トビケラ目	ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ
コウチュウ目	ヒラタドロムシ科	ヒラタドロムシ
カメムシ目	タイコウチ科	ミズカマキリ
ニナ目	カワニナ科	カワニナ

5 放射線測定結果

5-1 空間放射線測定

※除染の判断基準は「朝霞市における放射線量基準に関する当面の考え方について」の毎時0.19マイクロシーベルトとしている。

※測定値は、それぞれの高さにおける10秒毎の指示値を5回記録した平均値としています。

※測定場所の高さは、「放射線測定に関するガイドライン（文部科学省）」（1m）及び「学校等における放射線測定の手引き（文部科学省）」（50cm）を基準としています。

（1）市役所敷地内

（単位：マイクロシーベルト／時）

地上1m 週1回（午前10時）測定

測定場所	測定年度	最大値	平均値
市役所 正面玄関脇 ・バス停	令和6年度	0.071	0.061
	令和5年度	0.071	0.060
	令和4年度	0.067	0.059
	令和3年度	0.085	0.060
	令和2年度	0.073	0.060

（2）小学校

校庭中央 年1回測定

学校名	地表付近	地上50cm
朝霞第一小学校	0.050	0.046
朝霞第二小学校	0.042	0.043
朝霞第三小学校	0.048	0.048
朝霞第四小学校	0.076	0.078
朝霞第五小学校	0.033	0.035
朝霞第六小学校	0.053	0.054
朝霞第七小学校	0.042	0.045
朝霞第八小学校	0.048	0.043
朝霞第九小学校	0.064	0.058
朝霞第十小学校	0.047	0.046

（3）中学校

校庭中央 年1回測定

学校名	地表付近	地上50cm
朝霞第一中学校	0.091	0.079
朝霞第二中学校	0.052	0.046
朝霞第三中学校	0.050	0.044
朝霞第四中学校	0.060	0.056
朝霞第五中学校	0.051	0.051

(4) 保育園

園庭中央 年2回測定

保育園名	最大値		平均値	
	地表付近	地上50cm	地表付近	地上50cm
本町保育園	0.054	0.049	0.053	0.046
根岸台保育園	0.049	0.046	0.047	0.042
北朝霞保育園（本園）	0.051	0.056	0.048	0.052
泉水保育園	0.062	0.054	0.059	0.050

(5) 児童遊園地・都市公園

中央 年2回測定

児童遊園地	最大値		平均値	
	地表付近	地上50cm	地表付近	地上50cm
緑ヶ丘北児童遊園地	0.072	0.073	0.069	0.070
岡向山児童遊園地	0.052	0.049	0.048	0.049
膝折町1丁目児童遊園地	0.058	0.076	0.056	0.064
霞ヶ丘児童遊園地	0.066	0.072	0.063	0.065
新高橋ふれあい広場	0.083	0.081	0.073	0.067
上の原公園	0.048	0.055	0.048	0.051
水久保公園	0.064	0.065	0.063	0.064
やつじ公園	0.060	0.059	0.057	0.058
上野荒川運動公園	0.064	0.051	0.056	0.047
宮戸ハケタ公園	0.070	0.074	0.068	0.071

○宮戸を住みよくする会提供資料より

放射線測定値（砂場）	最大値		平均値	
	地表付近	地上50cm	地表付近	地上50cm
宮戸大山公園	0.055	0.054	0.050	0.047
やつじ公園	0.063	0.056	0.056	0.052
宮戸立出児童遊園地	0.054	0.054	0.049	0.046
宮戸第2児童遊園地	0.052	0.049	0.047	0.047
宮戸児童遊園地	0.050	0.044	0.044	0.042

※宮戸を住みよくする会では、原則毎月11日に宮戸町内の公園10箇所の砂場・滑り台など29地点の放射線測定を自動的に実施しております。このうち、代表的な放射線測定値を掲載します。

(6)市内除染箇所測定 (ホットスポット)
年1回 42施設 87箇所

施設名	測定場所 (地表付近)	除染前	除染後 (平成23年12月)	令和6年度
第一小学校	南校舎・理科室前	0.585	0.155	0.065
	南校舎・排水口南側1	1.238	0.136	0.084
	南校舎・排水口南側2	0.380	0.168	0.084
	北校舎裏・物置小屋排水口1	0.548	0.156	0.080
	北校舎裏・物置小屋排水口2	0.371	0.144	0.074
第二小学校	体育館横・排水口（土）	0.447	0.159	0.047
	校舎裏・ふた付側溝内	0.557	0.174	0.076
	南校舎横・排水口	0.194	0.102	0.058
	校舎間スペース	0.629	0.168	0.085
第三小学校	校舎横・側溝内	0.384	0.144	0.087
	昇降口・横	0.204	0.087	0.066
	北校舎東・側溝奥	0.768	0.094	0.075
	北校舎西・側溝奥	0.919	0.118	0.051
第四小学校	鉄棒下	0.218	0.169	0.063
第五小学校	正門（右）	0.284	0.097	0.052
	正門（左）	0.308	0.078	0.062
第六小学校	北玄関・吹き溜まり	0.427	0.092	0.081
第七小学校	プール更衣室・排水口北	0.261	0.116	0.068
	プール更衣室・排水口南	0.466	0.163	0.065
	体育館通路・南	0.331	0.158	0.057
	体育館通路・北	1.056	0.160	0.073
	東門	0.194	0.096	0.053
第八小学校	校舎北側・給食搬入口側溝	0.351	0.109	0.038
第九小学校	正門横・倉庫雨樋排水口（南）	0.537	0.151	0.071
	正門横・倉庫雨樋排水口（北）	1.258	0.119	0.084
	体育倉庫・雨樋排水口（南）	0.365	0.169	0.057
	体育倉庫・雨樋排水口（北）	1.117	0.168	0.072
	防災倉庫雨樋下	0.332	0.101	0.061
第十小学校	給食配膳室入口・駐車場	0.484	0.099	0.071
第一中学校	中庭・排水口	0.190	0.172	0.044
	裏門・入口1	0.203	0.106	0.064
	裏門・入口2	0.241	0.129	0.061
	正門吹き溜まり	0.201	0.097	0.048
第二中学校	生徒玄関前・雨樋排水口	0.198	0.155	0.073
	北側校舎裏・排水口	0.482	0.158	0.050
	新校舎・排水口	0.929	0.161	0.073
第三中学校	体育館・側溝内	0.728	0.118	0.065
	側溝・ふたの上	0.525	0.120	0.078
第四中学校	校舎裏・駐車場	0.213	0.083	0.056
	校舎裏・側溝	0.394	0.169	0.056
第五中学校	体育館北側横・排水口	0.194	0.132	0.052
	体育館通路	0.204	0.068	0.056

公園・道路施設等				
施設名	測定場所 (地表付近)	除染前	除染後 (平成23年12月)	令和6年度
青葉台公園	管理事務所北側雨樋下1	0.534	0.154	0.101
	管理事務所北側雨樋下2	0.450	0.099	0.078
朝霞中央公園	屋根付き休憩所雨樋下	0.226	0.142	0.064
	野球場南北トイレ雨樋下1	0.220	0.130	0.064
	野球場南北トイレ雨樋下2	0.239	0.128	0.082
あけぼの公園	競技場北側トイレ雨樋下	0.280	0.169	0.063
	トイレ雨樋下（北）	0.274	0.076	0.059
	トイレ雨樋下（南）	0.278	0.068	0.057
越戸公園	トイレ雨樋下	0.225	0.092	0.074
城山公園	トイレ雨樋下	0.201	0.144	0.062
新高橋ふれあい広場	トイレ脇	0.236	0.161	0.069
西久保公園	トイレ脇	0.195	0.131	0.057
宮戸児童遊園地	防災倉庫雨樋下	0.200	0.180	0.061
宮戸ハケタ公園	雨水落下地点	0.352	0.115	0.063
朝志ヶ丘地内地下通路	入口	0.196	0.094	0.051
内間木排水機場	雨樋ポンプ下	0.204	0.139	0.063
内間木橋		0.237	0.098	0.054
越戸隧道	歩道・南側	0.276	0.153	0.060
市道4号線	膝折町3-3番地先	0.240	0.176	0.046
市道773号線	滝の根公園付近	0.299	0.155	0.047
市道2003号線	浜崎4-12番地先	0.354	0.067	0.055
原畠隧道	北側歩道1	0.838	0.141	0.064
	北側歩道2	0.360	0.146	0.067
	南側歩道1	0.294	0.139	0.058
	南側歩道2	0.968	0.140	0.065
消防団第三分団	雨樋（桟）	0.264	0.174	0.067
消防団第八分団	雨樋（桟）	0.202	0.146	0.096
防災倉庫（第2小学校）	雨樋（桟）	0.333	0.186	0.069
水防倉庫	雨樋（桟）	0.218	0.185	0.076
朝志ヶ丘市民センター	植栽	0.282	0.162	0.081
根岸台市民センター	避難用すべり台	0.232	0.166	0.075
	雨樋1	0.212	0.096	0.055
浜崎農業交流センター	雨樋2	0.619	0.091	0.083
	雨樋3	0.817	0.164	0.080
根岸台放課後児童クラブ（第九小学校）	雨樋（桟）1	0.328	0.154	0.074
	雨樋（桟）2	0.509	0.099	0.089
	雨樋（桟）3	0.284	0.090	0.052
浜崎学校給食センター	自転車置場・雨樋付近	0.253	0.171	0.094
朝霞市障害者ふれあいセンターあさか福祉作業所	雨樋1	0.406	0.173	0.052
	雨樋2	0.578	0.143	0.072
	雨樋3	0.266	0.178	0.071
	雨樋4	0.688	0.162	0.040
	雨樋5	0.242	0.115	0.068
	雨樋6	0.273	0.172	0.065
	雨樋7	0.389	0.158	0.040

5-2 放射性物質測定

(1) 水道水

※年4回（6月、9月、12月、3月）測定

(単位：ベクレル/kg)

測定日	採水場所	放射性セシウム134	放射性セシウム137	放射性ヨウ素131
令和6年6月17日				
令和6年9月18日				
令和6年12月12日	泉州浄水場 岡浄水場	不検出	不検出	不検出
令和7年3月13日				

(2) 燃却灰

※月1回測定（令和6年度最終測定の令和7年3月9日のみ掲載）

※焼却灰とは、燃やしたごみの燃えがらで、焼却炉の底から排出される灰

※飛灰とは、ろ過式集じん機などで捕集した排ガスに含まれているダスト（ばいじん）

※放射性ヨウ素の測定については、平成24年4月から国のガイドラインで調査義務の免除を受けた施設となつたため除外している。

(単位：ベクレル/kg)

測定日	検体	放射性セシウム134	放射性セシウム137	放射性ヨウ素131
令和7年3月9日	焼却灰	不検出	不検出	—
	飛灰	不検出	不検出	—

第3章

用語解説

1 用語解説

【あ行】

・アスベスト

アスベスト（石綿）は、天然に産する纖維状けい酸塩鉱物で「せきめん」「いしわた」と呼ばれています。以前はビル等の建築工事において、保温断熱の目的で石綿を吹き付ける作業が行われていましたが、昭和50年から原則製造等が禁止されています。

アスベストは、その纖維が極めて細いため、そこにあること 자체が直ちに問題なのではなく、飛び散ること、吸い込むことが問題となるため、法律などで予防や飛散防止等が図られています。このアスベストの纖維は、肺線維症（じん肺）、悪性中皮腫の原因になるといわれ、肺がんを起こす可能性があることが知られており、この健康被害は、アスベストを扱ってから長い年月を経て出てきます。

・雨水浸透

雨水が地表から地中に浸透する現象を「雨水浸透」といい、こうして地下水を涵養することにより、水害の軽減・地球温暖化の防止などといった働きを果たすことが可能であり、雨水を資源として有効活用することを目的としている場合もあります。

この雨水浸透を積極的に図る設備として、浸透ます、浸透トレーンチ、透水性舗装等があります。

・屋上緑化・壁面緑化・緑のカーテン

屋上緑化とは、建築物の断熱性や景観の向上などを目的として、屋根や屋上に植物を植え緑化することをいい、同様に、建物の外壁を緑化することを壁面緑化といいます。また、建物の外壁にネット等を固定し、ツル性の植物（ゴーヤ、ヘチマ等）を這わせてカーテンのようにしたものを、緑のカーテンといいます。こうした緑化設備は、緑化土壌の断熱作用や植物自体が日射を遮ることによる屋内の温度上昇抑制や省エネ効果だけでなく、植物の蒸散作用によって屋外空間の温度上昇を緩和する効果もあります。

・オープンスペース

公園、広場、緑地などの建築物のない一定の地域的広がりであって、その非建ぺい性、植生、水面などにより、環境の質の向上を図り、あるいは住民のレクリエーション需要に応えるものをいいます。

・温室効果ガス

太陽からの日射エネルギーを吸収して熱された地表面は、赤外線として熱放射をします。大気中には赤外線を吸収する気体があり、地球の温度バランスを保っています。これらの気体を温室効果ガスと呼び、地球温暖化と密接な関係を持っております。

なお、「地球温暖化対策の推進に関する法律」では、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふつ化硫黄、三ふつ化窒素の7物質が温室効果ガスと定義されています。

ガスの種類	主な発生源など	性 質
二酸化炭素 (CO ₂)	産業、民生、運輸部門などにおける燃料の燃焼に伴うものが9割以上を占めている。	無色、無臭の気体。化石燃料の燃焼などに起因して、年々増加しており、地球温暖化への影響が極めて大きい。
メタン (CH ₄)	稻作、家畜の腸内発酵などの農業部門から出るものが半分を占め、自動車の走行や、一般廃棄物の焼却からも発生する。	無色、無味、無臭、常温で引火性の気体。天然ガスの主成分で、よく燃える。
一酸化二窒素 (N ₂ O)	燃料の燃焼に伴うものが半分以上を占めるが、工業プロセスや農業からの排出もある。	無臭の気体で、成層圏では酸素原子と反応して消滅するが、対流圏ではほとんど消滅しない。数ある窒素酸化物の中で最も安定した物質。
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	エアゾール製の噴射剤、カーエアコンや冷蔵庫の冷媒、断熱発泡剤などに使用されている。	炭素、水素、フッ素からなる物質の総称で、化学的安定性に優れ、可燃性は低い。オゾン層の破壊性は少ないが、温室効果が高い。
パーフルオロカーボン (PFC)	半導体に電子回路を刻み込むエッティングや、エッティング後の洗浄などに使用されている。	炭素のまわりにフッ素が結合した化合物で、化学的に安定している。オゾン層の破壊性はないが、温室効果は高く、大気中の寿命も長い。
六ふつ化硫黄 (SF ₆)	変電設備に封入される電気絶縁ガスや半導体等製造用などとして使用されている。	無色、無臭の気体で、熱的・化学的に安定している。オゾン層の破壊性はないが、温室効果は高い。フロンより優れた電気絶縁性を持つ。
三ふつ化窒素 (NF ₃)	半導体製造でのドライエッティングやCVD装置のクリーニングにおいて使用されている。	無色、無臭の気体で不燃性であるが、助燃性がある。温室効果は高いが、大気中に占める割合は少ない。

【か行】

・ 合併処理浄化槽

生活排水のうち、し尿（トイレ汚水）と雑排水（台所や風呂、洗濯などからの排水）を併せて処理することができる浄化槽（沈殿分離や微生物の作用によって処理し、それを消毒し、河川などの公共用水域等へ放流する施設）をいいます。従来のし尿のみを処理する単独処理浄化槽に比べて、河川等公共水域の汚濁を軽減する効果があります。

・ 環境基準

環境基本法において「大気の汚染、水質の汚濁、土壤の汚染及び騒音に係る環境上の条件について、それぞれ人の健康を保護し、及び生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準」と定められています。これは、行政上の目標として定められているもので、公害発生源を直接規制するための基準（規制基準）とは異なります。

・ 環境負荷

人の活動により環境に加えられる影響で、環境を保全する上で支障の原因となるおそれのあるものをさします。工場からの排水、排ガスはもとより、家庭からの排水、ごみの排出、自動車の排気ガスなど、通常の事業活動や日常生活のあらゆる場面で環境への負荷が生じています。

・ 環境ホルモン

有機塩素系化合物、ノニルフェノール、DDT、クロルデンなど、環境中に存在して、人や野生生物の生体内にとりこまれた際に、ホルモンのように作用して内分泌系をかく乱して生物にとって有害な影響を与える化学物質の俗称として用いられています。

・きゅうざんていぎゃくせんびき ちく 旧暫定逆線引き地区

「暫定逆線引き」は、埼玉県が昭和59年に導入した制度で、計画的な市街地整備の見通しが明らかになっていない区域を対象に、用途地域を残したまま、いったん市街化調整区域（逆線引き）に編入し、その後、計画的な市街地整備が確実となった時点で市街化区域へ戻す方式です。平成15年に埼玉県が策定した区域区分の見直しに関する基本方針において、暫定逆線引きの制度が廃止されました。そのため、暫定逆線引き地区となっている地区は「旧 暫定逆線引き地区」となりました。

【た行】

・ダイオキシン類るい

ダイオキシン類は、工業的に製造する物質ではなく、ものの焼却の過程などで自然に生成してしまう物質で、自然分解されにくく、田畠や湖沼、海の底泥等に蓄積しています。発がん性、生殖機能の異常を引き起こすなどの可能性が指摘されています。

・たんどくしょりじょうかそう 単独処理浄化槽

生活排水の処理において、し尿のみを処理する浄化槽をいいます。現在は、新規設置が認められていません。

・ちきゅうおんだんか 地球温暖化

二酸化炭素など温室効果ガスの大気中濃度が増加し、これに伴って太陽からの日射や地表面から放射する熱の一部が温室効果ガスに吸収されることにより、地表面の温度が上昇する現象が生じることをいいます。

・ていこうがいしゃ 低公害車

従来のガソリン車やディーゼル車に比べて、排出ガス中の汚染物質の量や騒音が大幅に少ない電気自動車、メタノール車、天然ガス自動車、ハイブリッド自動車などをいいます。

・とくべつりょくちほぜん ちく 特別緑地保全地区

特別緑地保全区は、建築行為など一定の行為を制限することにより、都市の無秩序な拡大の防止に資する緑地、歴史的・文化価値を有する緑地、生態系に配慮したまちづくりのため動植物の生息地、生育地となる緑地等の保全を図り、都市における良好な自然環境を維持するため、都市緑地法によって指定したもの。

【な行】

・にさんかちっそ 二酸化窒素（NO₂）

赤褐色で、特異な刺激性の臭いがする気体で、呼吸器の細菌感染等に対する抵抗力を弱め、呼吸器系統等に影響を与えます。物が燃焼する際に一酸化窒素（NO）が発生し、空気に触れるによって二酸化窒素になります。

【は行】

・ハザードマップ

ハザードマップとは、自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図をいいます。

・微小粒子状物質（PM2.5）

大気中に浮遊している $2.5\text{ }\mu\text{m}$ ($1\text{ }\mu\text{m}$ は 1 mm の千分の1)以下の小さな粒子のことをいいます。このPM2.5は非常に小さいため(髪の毛の太さの1/30程度)、肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器系への影響に加え、循環器系への影響が心配されています。

・V2H

V2Hはビーグル・トゥ・ホームの略で、家庭から電気自動車へ、電気自動車から家庭へ双方向で電力を供給できる機器です。

日中に太陽光発電による電力を電気自動車に蓄電し、夜間にその電力を家庭で使用すれば温室効果ガスの排出削減につながります。また、停電時にも電気自動車に蓄電した電力を家庭で使用することができます。

・HEMS

HEMSは、ホームエネルギー・マネジメントシステムの略で、家庭で使用する電気やガス等を見える化するもので、いつどの機器が電力を消費していることが分かる機器です。

設置することで、省エネルギーへの動機付けや対策をとりやすくすることができます。

・保護地区・保護樹木

市内の貴重な緑地の保全及び緑化の推進を図るために、朝霞市緑化推進条例に基づいて指定した地区及び樹木のことをいいます。

保護地区は、樹木が集団で生育している土地で、その面積が 300 m^2 以上であるか、または樹木のある神社・寺院の境内であること、保護樹木は、高さが 10 m 以上で、地上 1.2 m の高さにおける幹の周囲がおおむね 1.0 m 以上であるもの、または樹形が特に優れているものを指定の基準としています。

【や行】

・ユニバーサルデザイン

年齢や障害の有無にかかわらず、すべての人が使いやすいうように工夫された用具・建造物などのデザインのことをいいます。

朝霞の環境

(令和6年度年次報告書)

令和7年 月発行

発行・編集・印刷製本
朝霞市市民環境部環境推進課
〒351-8501 朝霞市本町1丁目1番1号
電 話 048-463-1504（直通）
U R L <http://www.city.asaka.lg.jp/>

第3次朝霞市環境基本計画 実施計画（令和6年度実績版）

【令和4年度～令和7年度】（案）

みんなでつくる 水とみどりが豊かな
環境にやさしいまち 朝霞



朝霞市浜崎ドックラン

令和7年 月
朝 霞 市



©朝霞市ぼぼたん

目 次

◆ 実施計画の基本的な考え方	1
・計画の名称	
・計画策定の趣旨	
・計画の対象範囲・内容	
・計画の期間	
・計画の進行管理	
・計画のフォローアップ	
◆ 第3次朝霞市環境基本計画について	2
・計画の目的	
・望ましい環境像	
・環境目標	
・施策体系	3
◆ 第3次朝霞市環境基本計画の推進	5
・計画の推進体制	
・計画の進行管理	
◆ 表の見方	6
◆ 実施計画【環境指標別担当者一覧】	7
◆ 第3次朝霞市環境基本計画実施計画	
環境目標1 自然と人との共生	
個別目標1-1 生き物がすめる環境を大切にする	9
個別目標1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる	10
環境目標2 快適な生活環境の確保	
個別目標2-1 きれいな空気をまもる	17
個別目標2-2 きれいな水と土をまもる	18
個別目標2-3 快適で住みよいまちをつくる	20
環境目標3 脱炭素・循環型社会の推進	
個別目標3-1 クリーンなエネルギーをつくる	22
個別目標3-2 省エネルギー・省資源をすすめる	23
個別目標3-3 地球に負荷の少ないまちをつくる	26
個別目標3-4 資源を大切に、繰り返し使う	28
個別目標3-5 気候の変化に備える	30
環境目標4 パートナーシップによる環境活動の推進	
個別目標4-1 環境についてみんなで学ぶ	33
個別目標4-2 環境活動にみんなで参加し行動する	35
◆ 第3次朝霞市環境基本計画における環境指標一覧	36

◆実施計画の基本的な考え方

・計画の名称

この計画の名称は、「第3次朝霞市環境基本計画実施計画」とします。

・計画策定の趣旨

第3次朝霞市環境基本計画は、「望ましい環境像」の実現に向けて、4つの分野ごとに環境目標を設定し、その下に計12の個別目標、更に個別目標に各々実施施策を設定し、市と市民・市民団体、事業者との環境パートナシップによる取組を積極的に推進していく計画です。

本計画は、実施施策に基づき設定された52の環境指標を、計画的に達成していくために策定します。

・計画の対象範囲・内容

本計画は、第3次朝霞市環境基本計画に掲げた実施施策に基づき設定された52の環境指標を対象範囲とし、年度ごとに作成します。

・計画の期間

本計画の計画期間は、令和4（2022）年度から中間目標年度の令和7（2025）年度までの4か年とし、各年度ごとに実績を調査して掲載します。

・計画の進行管理

市は、市民・市民団体、事業者との協働によって本計画を推進するとともに、本計画において環境指標の達成状況等を把握し、「朝霞市環境審議会」において審議・提言・評価等を行い、報告書にとりまとめ、公表します。

・計画のフォローアップ

本計画では、環境指標の「各年度目標」に対する実績と実績の「判定」、「実績評価」及び「今後の展開」により、取組や事業の評価等を掲載します。

◆第3次朝霞市環境基本計画について

・計画の目的

第3次朝霞市環境基本計画は、「朝霞市住み良い環境づくり基本条例」の基本理念にのっとり、上位計画である「第5次朝霞市総合計画」の実現を環境面で相互に整合・補完するものとして、“住み良い環境づくり”を目指して、市の良好な環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進していくことを目的に策定された計画です。

・望ましい環境像

みんなでつくる 水とみどりが豊かな 環境にやさしいまち 朝霞

本市の環境を特徴づける豊かな「水とみどり」を守り、将来にわたって持続可能な「環境にやさしい」まちが保たれるように、市と市民・市民団体、事業者の協働による取組を進めて、「みんなでつくる」ことを目指します。

・環境目標

 自然環境	<h4>自然と人との共生</h4> <p>生き物がすみやすく、豊かな自然が身近に感じられるまち</p>
 生活環境	<h4>快適な生活環境の確保</h4> <p>安心で快適に、ずっと住み続けられるまち</p>
 地球環境	<h4>脱炭素・循環型社会の推進</h4> <p>限りある資源を大切にし、環境に負担をかけないまち</p>
 環境パートナーシップ	<h4>パートナーシップによる環境活動の推進</h4> <p>みんなで環境を学び、考え、取り組むまち</p>

望ましい環境像の実現に向けて、4つの分野で環境目標を設定しました。環境目標ごとに実施施策とともに、環境指標を設定し、目標達成に向けて推進していきます。

1. 施策体系

みんなでつくる
水とみどりが豊かな
環境にやさしいまち
朝霞

望ましい
環境像

【環境目標】

【個別目標】



自然と人との共生

生き物がすみやすく、豊かな
自然が身近に感じられるまち

1-1

生き物がすめる環境を大切にする

1-2

みどり豊かなまちをまもり育てる



快適な生活環境の確保

安心で快適に、
ずっと住み続けられるまち

2-1

きれいな空気をまもる

2-2

きれいな水と土をまもる

2-3

快適で住み良いまちをつくる



脱炭素・循環型社会 の推進

限りある資源を大切にし、
環境に負担をかけないまち

3-1

クリーンなエネルギーをつくる

3-2

省エネルギー・省資源をすすめる

3-3

地球に負荷の少ないまちをつくる

3-4

資源を大切に、繰り返し使う

3-5

気候の変化に備える



パートナーシップによる 環境活動の推進

みんなで環境を
学び、考え、取り組むまち

4-1

環境についてみんなで学ぶ

4-2

環境活動にみんなで参加し行動する

基本計画のページです

【実施施策】

【ページ】

【関連する SDGs 目標】

1-1-1 健全な水循環の形成	42
1-1-2 生物の生息・生育環境の保全	42
1-1-3 生物多様性の確保	43
1-2-1 緑地・樹林・樹木の保全	46
1-2-2 農地の保全と活用	48
1-2-3 都市の緑化	48
1-2-4 緑豊かな景観の形成	49



2-1-1 大気環境の保全	54
2-1-2 悪臭の防止	54
2-2-1 河川の水質保全	57
2-2-2 地下水汚染・土壤汚染の防止	58
2-3-1 騒音・振動の防止	61
2-3-2 日照阻害、電波障害の防止	62
2-3-3 環境美化の推進	62



3-1-1 再生可能エネルギーの普及促進	65
3-1-2 公共施設への再生可能エネルギーの導入促進	65
3-2-1 環境に配慮した行動の推進	69
3-2-2 水の有効利用	70
3-3-1 環境に配慮した移動手段の推進	73
3-3-2 コンパクトで利便性の高い生活環境整備	74
3-4-1 廃棄物の排出抑制の推進	78
3-4-2 資源化の推進	79
3-4-3 廃棄物の適正処理の推進	79
3-5-1 気候変動に関する影響の把握と普及啓発	83
3-5-2 気候変動への適応策の推進	83



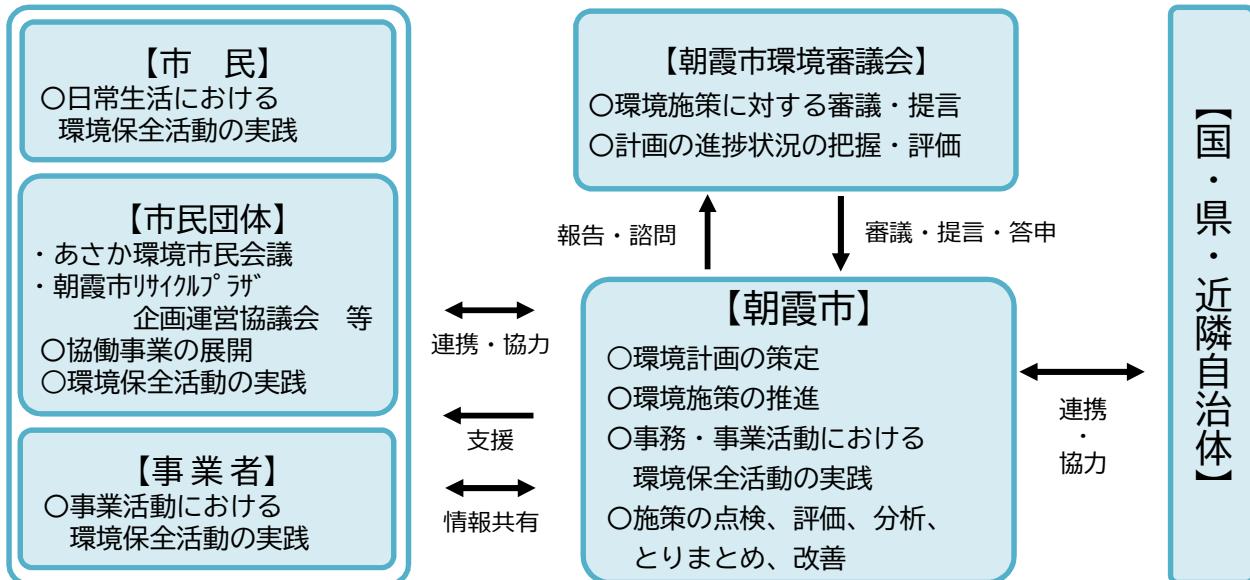
4-1-1 環境教育や環境学習の機会の提供	88
4-1-2 環境情報の発信と普及啓発	88
4-2-1 市民団体の環境保全活動支援	91
4-2-2 環境保全活動団体の育成、ネットワークの形成等	91



◆第3次朝霞市環境基本計画の推進

・計画の推進体制

本市の望ましい環境像を実現するために、市、市民・市民団体、事業者がお互いの役割を理解し、すべての人による取組と、これら三者の協働を基礎として計画の推進を図っていきます。

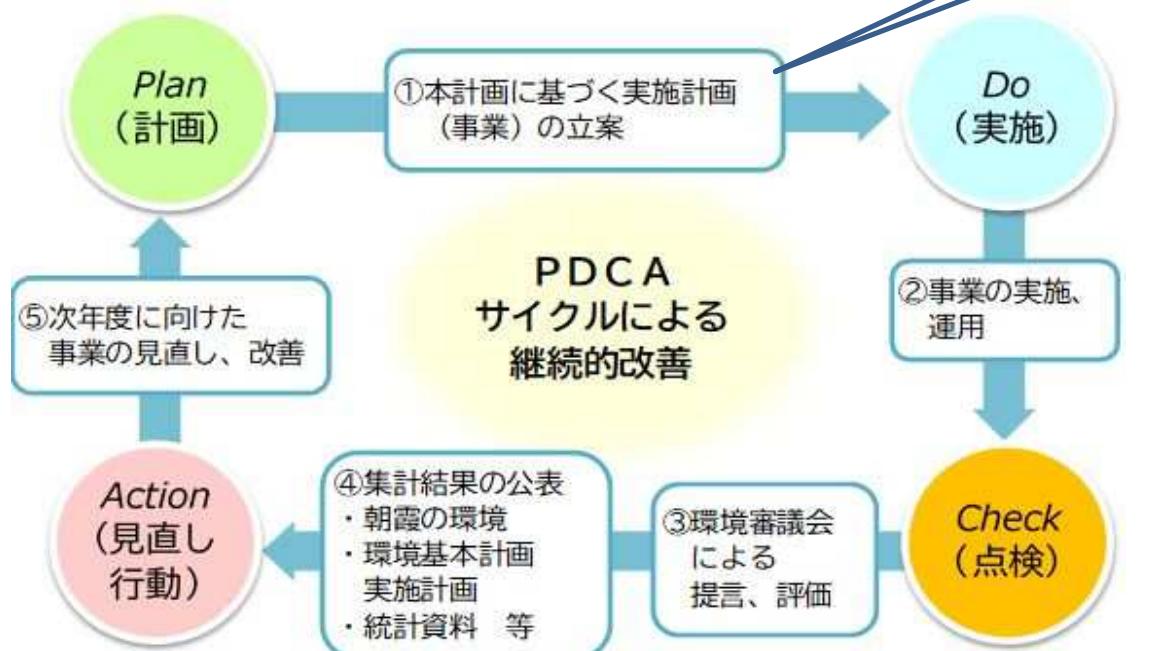


・計画の進行管理

計画の実効性を確保するため、計画策定から具体的な行動の実施・運用・点検・評価・改善までの流れを、Plan（計画）→ Do（実施）→ Check（点検）→ Action（見直し行動）を繰り返すことで、継続的に改善を図りながら進行管理していきます。

具体的には、施策の実施状況を環境審議会へ報告し、これに基づく点検・評価を受けたうえで計画を公表し、見直しを行い、次年度へ向けた更なる取組を実施していくものとします。

ココ！



◆表の見方

環境目標2 快適な生活環境の確保

事業概要	空気や水がきれいで静かなまちを維持するために、継続的な監視や対策を実施することにより安心できる生活環境の保全に努めます。快適で住み良いまちの実現に向けて、ごみのポイ捨てや不法投棄の防止など、環境美化に関する取組を推進します。
-------------	--

【個別目標】2-3 快適で住み良いまちをつくる

実施施策	2-3-3 環境美化の推進 ■散乱ごみ・不法投棄対策	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	市、市民・市民団体、事業者が協働できいいなまちづくり運動を行い、道路や河川敷に捨てられているごみ拾いなどの市内清掃を実施します。		
事業内容	春と秋の2回、きれいなまちづくり運動を実施します。	当該年度の「実績」を踏まえ次年度の目標を見直し	

実施結果(指標)

環境指標名	24	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
きれいなまちづくり運動のごみ回収量	目標	64.8t	63.2t	61.2t	60t	
	実績	44.2t	37.6t			当該年度の「実績評価」を掲載

分析・展開

判定	A → A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	当該年度の評価「判定」を 春と秋2回の市内清掃を計画どおり実施することができました。 当該年度の「実績評価」を掲載
今後の展開	✓ 現状通り推進 □拡大・拡充 □ 縮小 □ その他(廃止) 引き続き、年2回の市内清掃を実施し、環境美化に取り組んでいきます。 指標に対する「今後の展開」について4段階でチェックとともに具体的に掲載

◆第3次朝霞市環境基本計画実施計画【環境指標別担当課一覧】

【環境目標】1 自然と人との共生

個別目標	実施施策	No.	環境指標名	担当課
1-1 生き物がすめる環境 を大切にする	1-1-1	1	開発事業件数に対する雨水流出抑制施設設置割合	下水道施設課
	1-1-2	2	特別緑地保全地区数	みどり公園課
	1-1-3	3	生物多様性市民懇談会の開催回数(年)	みどり公園課
1-2 みどり豊かなまちを まもりそだてる	1-2-1	4	市内全域における緑被面積の割合	みどり公園課
	1-2-1	5	保護地区面積	みどり公園課
	1-2-1	6	保護樹木本数	みどり公園課
	1-2-1	7	都市公園数	みどり公園課
	1-2-1	8	1人当たりの公園面積(公園面積/人口)	みどり公園課
	1-2-2	9	市民農園利用区画数	産業振興課
	1-2-2	10	農業体験参加人数	産業振興課
	1-2-2	11	生産緑地地区指定数(年)	みどり公園課
	1-2-3	12	公園・緑地管理ボランティア団体数	みどり公園課
	1-2-3	13	道路美化活動団体数	道路整備課
	1-2-3	14	生け垣等の設置延長(累計)	みどり公園課
	1-2-4	15	景観計画の届出件数(年)	開発建築課
	1-2-4	16	景観の満足度	まちづくり推進課

【環境目標】2 快適な生活環境の確保

個別目標	実施施策	No.	環境指標名	担当課
2-1 きれいな 空気をまもる	2-1-1	17	大気調査結果(市内平均・二酸化窒素基準0.06ppm)	環境推進課
	2-1-1	18	典型7公害苦情受付件数(年)	環境推進課
	2-1-1	19	空間放射線量測定回数(市役所・年)	環境推進課
2-2 きれいな 水と土をまもる	2-2-1	20	河川水質調査結果 (黒目川・BOD基準値5mg/l)	環境推進課
	2-2-1	21	汚水管整備率 (下水道事業認可区域面積)	下水道施設課
	2-2-2	22	地下水の水質調査環境基準適合率	環境推進課
2-3 快適で住み良いまち をつくる	2-3-3	23	不法投棄物処理件数(年)	環境推進課
	2-3-3	24	きれいなまちづくり運動のごみ回収量	環境推進課
	2-3-3	25	放置自転車等の撤去回数(年)	まちづくり推進課

【環境目標】3 脱炭素・循環型社会の推進

個別目標	実施施策	No.	環境指標名	担当課
3-1 クリーンなエネルギーをつくる	3-1-1	26	住宅用太陽光パネル設置補助延べ件数	環境推進課
	3-1-2	27	公共施設の太陽光発電の導入数	環境推進課
	3-1-2	28	小水力発電量（年）	水道施設課
3-2 省エネルギー・省資源をすすめる	3-2-1	29	エコライフDAYチェックシート回収率	環境推進課
	3-2-1	30	長期優良住宅、低炭素建築物、建築物省エネ住宅の認定数（年）	開発建築課
	3-2-1	31	市事務事業の二酸化炭素(CO ₂)排出量の削減率	環境推進課
	3-2-2	32	水道使用量（年）	上下水道総務課
	3-2-2	33	1人1日当たりの水道使用量	上下水道総務課
	3-2-2	34	雨水貯留槽設置費補助延べ件数	環境推進課
3-3 地球に負荷の少ないまちをつくる	3-3-1	35	公用車の次世代自動車の導入	財産管理課
	3-3-1	36	電気自動車用急速充電器の利用件数（年）	環境推進課
	3-3-2	37	市内循環バス利用者数（年）	まちづくり推進課
3-4 資源を大切に、繰り返し使う	3-4-1	38	市民1人当たり1日のごみ排出量	資源リサイクル課
	3-4-1	39	事業ごみの年間排出量	資源リサイクル課
	3-4-2	40	ごみの再生利用率	資源リサイクル課
	3-4-3	41	ごみ焼却処理量（年）	資源リサイクル課
3-5 気候の変化に備える	3-5-2	42	公共施設等雨水貯留浸透施設設置個所数	環境推進課
	3-5-2	43	雨水管整備率	下水道施設課
	3-5-2	44	開発事業件数に対する雨水流出抑制施設設置割合（再掲）	下水道施設課
	3-5-2	45	熱中症警戒アラートの発令に伴う情報発信（注意喚起）	健康づくり課
	3-5-2	46	公共施設の屋上緑化箇所数	環境推進課
	3-5-2	47	公共施設の壁面緑化箇所数	環境推進課

【環境目標】4 パートナシップによる環境活動の推進

個別目標	実施施策	No.	環境指標名	担当課
4-1 環境についてみんなで学ぶ	4-1-1	48	環境政策に係る報告書の発行	環境推進課
	4-1-1	49	環境美化ポスター応募者数	環境推進課
	4-1-2	50	環境関連情報の発信（年）	環境推進課
	4-1-2	51	リサイクルプラザでの講座参加者数（年）	資源リサイクル課
4-2 環境活動にみんなで参加し行動する	4-2-1	52	環境講座の開催数（年）	環境推進課

環境目標1 自然と人との共生

事業概要	豊かな河川や湧水、周辺に広がる斜面林などで形成される自然環境と、そこに生息・生育する生物を中心とした生態系ネットワークの保全に努めます。また、市内に残る樹林や緑地、農地を保全するとともに、公園や緑道など都市の緑を確保し、人と自然がふれあえる環境を形成します。		
------	---	--	--

【個別目標】1-1 生き物がすめる環境を大切にする

実施施策	1-1-1 健全な水循環の形成 ■雨水の浸透対策の推進	担当課	下水道施設課
具体的な取組・事業	開発行為が行われる際には、健全な水循環の確保や地下水をかん養するために、雨水浸透ますの設置や雨水貯留槽・浸透トレーニングの設置の指導を進めます。		
事業内容	開発行為が行われる際に、雨水浸透ますの設置や雨水貯留槽・浸透トレーニングの設置の指導を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	1	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
開発事業件数に対する雨水流出抑制施設設置割合	目標	100%	100%	100%	100%	
	実績	100%	100%	100%		

分析・展開

判 定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<説明:指標の進捗状況及び改善等> 開発行為の申請の際に、雨水浸透枠の設置や雨水貯留槽・浸透トレーニングの設置を指導したことにより、雨水流出抑制施設の設置を進めることができた。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止))		
	引き続き、開発行為を行うものに対し、雨水流出抑制施設の設置を指導し、設置を進めていく。		

【個別目標】1-1 生き物がすめる環境を大切にする

実施施策	1-1-2 生物の生息・生育環境の保全 ■雑木林の維持・管理			担当課	みどり公園課
具体的な取組・事業	黒目川などの河川沿いや崖線に残存する斜面林、市内に点在する雑木林などの自然環境において、生態系の保全を推進します。				
事業内容	市民団体と共同で適正な維持管理を行い、生態系の保全を図ります。				

実施結果(指標)

環境指標名	2	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
特別緑地保全地区数	目標	4箇所	5箇所	5箇所	5箇所	
	実績	5箇所	5箇所	5箇所		

分析・展開

判 定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<説明:指標の進捗状況及び改善等> 市民団体と連携して外来種の駆除等をすることで生態系の保全に努めた。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止))		
	令和7年度の中間目標値に向け、引き続き市民団体と協力しながら新規地区の指定や既存緑地の適正な維持管理に努め、生態系の保全を推進する。		

【個別目標】1-1 生き物がすめる環境を大切にする

実施施策	1-1-3 生物多様性の確保 ■生物多様性、生態系情報の蓄積・提供	担当課	みどり公園課
具体的な取組・事業	市民・市民団体等との協働による継続的な生物調査や自然観察など、市内に生育・生息する生物情報の継続的な収集と蓄積、適切な情報発信に努めています。		
事業内容	生物多様性市民懇談会を開催し、生き物台帳の更新に対する意見や市内に生育・生息する生物情報の共有を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	3	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
生物多様性市民懇談会の開催回数 (年)	目標	1回	1回	2回	2回	
	実績	1回	1回	3回		

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 市民団体による生物情報の共有・意見交換を行い、生き物台帳の更新、生き物マップの作成を行った。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)		
	生き物台帳の更新を行うとともに、最新の生物情報を収集し発信できるように、毎年の生物多様性市民懇談会開催に努める。		

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-1 緑地・樹林・樹木の保全 ■市内に残る貴重な緑の保全	担当課	みどり公園課
具体的な取組・事業	武藏野の原風景である段丘崖や斜面の緑地、屋敷林・社寺林、まとまりのある樹林、地域のシンボルとなるような大木について、保護地区や保護樹木に指定するなど、維持・保全に努めます。		
事業内容	保護地区、保護樹木の所有者に奨励金を支払い、適正な維持・保全を促します。		

実施結果(指標)

環境指標名	4	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
市内全域における緑被面積の割合	目標	37.0%	37.0%	37.0%	37.0%	37.0%
	実績	—	34.80%	—		

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 緑被率の調査は5年に1度であり、今回の実績は令和5年度に行った調査の数値である。昨年度までに引き続き、保護地区・保護樹木制度を周知し、緑地の保全に努めた。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)		
	令和5年度の緑被率調査の結果をもとに、今後の緑地保全に向けて検討する。		

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-1 緑地・樹林・樹木の保全 ■市内に残る貴重な緑の保全	担当課	みどり公園課
具体的な取組・事業	武藏野の原風景である段丘崖や斜面の緑地、屋敷林・社寺林、まとまりのある樹林、地域のシンボルとなるような大木について、保護地区や保護樹木に指定するなど、維持・保全に努めます。		
事業内容	既存保護地区に隣接する未指定の樹林地を新規指定するなど維持保全に努めます。		

実施結果(指標)

環境指標名	5	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
保護地区面積		目標	8.63ha	8.76ha	8.89ha	9ha
		実績	8.35ha	7.85ha	7.76ha	

分析・展開

判定	C	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 開発による造成事業のための解除が1件あり、目標を下回る結果となった。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止) 保護地区制度を周知するとともに、既存保護地区隣接地などの新規指定に努め緑地を保全する。	

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-1 緑地・樹林・樹木の保全 ■市内に残る貴重な緑の保全	担当課	みどり公園課
具体的な取組・事業	武藏野の原風景である段丘崖や斜面の緑地、屋敷林・社寺林、まとまりのある樹林、地域のシンボルとなるような大木について、保護地区や保護樹木に指定するなど、維持・保全に努めます。		
事業内容	保護樹木の新規指定を行い、まとまりのある樹林、地域のシンボルとなるような大木を維持保全を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	6	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
保護樹木本数		目標	91本	91本	91本	91本
		実績	93本	95本	94本	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 実績本数が、目標を上回る結果となった。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止) 引き続き保護樹木制度を周知するとともに、維持に努める。	

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-1 緑地・樹林・樹木の保全 ■公園・緑地の確保	担当課	みどり公園課
具体的な取組・事業	都市景観の保全や向上、生態系の保護・保全、オープンスペース確保などに努め、グリーンインフラの考え方を取り入れた公園・緑地の整備を行います。		
事業内容	まばりひがし公園、まばりみなみ公園においてグリーンインフラの考え方を取り入れた公園の整備について検討を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	7	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
都市公園数		目標	44箇所	44箇所	44箇所	44箇所
		実績	44箇所	44箇所	44箇所	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 都市公園数の目標を達成した。(仮称)宮戸二丁目公園、まばりひがし公園について整備工事を行った。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)		
	令和5年度に設計委託を行ったまばりみなみ公園について、整備工事をすすめていく。		

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-1 緑地・樹林・樹木の保全 ■公園・緑地の確保	担当課	みどり公園課
具体的な取組・事業	都市景観の保全や向上、生態系の保護・保全、オープンスペース確保などに努め、グリーンインフラの考え方を取り入れた公園・緑地の整備を行います。		
事業内容	生産緑地区の買取申出に伴い、市の買取基準に鑑み公園用地の確保を検討してまいります。		

実施結果(指標)

環境指標名	8	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
1人当たりの公園面積(公園面積/人口)		目標	2.51m ²	2.88m ²	3.25m ²	3.60m ²
		実績	2.14m ²	2.12m ²	2.12m ²	

分析・展開

判定	C	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 (仮称)宮戸二丁目公園、まばりひがし公園について整備を行った。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)		
	令和5年度に設計委託を行ったまばりみなみ公園について、整備工事をすすめていく。		

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-2 農地の保全と活用 ■市民農園や農業体験の充実	担当課	産業振興課
具体的な取組・事業	緑のオープンスペースの必要性や農地が有する多面的機能の重要性について、市民に対する広報活動を推進するとともに、休耕地等を市民農園、学校農園等としての活用を図り、土とふれあえるまちづくりに努めます。		
事業内容	市民農園の貸出しを行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	9	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
市民農園利用区画数		目標	450区画	450区画	450区画	450区画
		実績	450区画	450区画	450区画	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 毎年高い利用率を維持しており、本年度においても利用率100%と目標を達成しました。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)) 引き続き市民農園を利用してもらえるよう努めるとともに、農業者等が開設する市民農園を推奨していきます。		

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-2 農地の保全と活用 ■市民農園や農業体験の充実	担当課	産業振興課
具体的な取組・事業	緑のオープンスペースの必要性や農地が有する多面的機能の重要性について、市民に対する広報活動を推進するとともに、休耕地等を市民農園、学校農園等としての活用を図り、土とふれあえるまちづくりに努めます。		
事業内容	農業体験を実施します。		

実施結果(指標)

環境指標名	10	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
農業体験参加人数		目標	1,500人	1,500人	1,500人	1,500人
		実績	1,154人	1,300人	972人	

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 全ての農業体験を実施することができたが、当日キャンセル等の要因により目標を下回りました。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)) より多くの市民に農業体験を通じて都市農業への興味と理解を深めてもらえるよう、引き続き農業体験を行っております。		

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-2 農地の保全と活用 ■生産緑地地区及び特定生産緑地の指定	担当課	みどり公園課
具体的な取組・事業	市街地に点在する農地は貴重な緑地であり、都市環境の保全や災害の防止等に貴重な役割を果たしていることから、生産緑地地区として指定することで計画的に保全に努めます。		
事業内容	生産緑地地区の追加指定を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	11	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
生産緑地地区指定数(年)		目標	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所
		実績	2箇所	1箇所	0箇所	

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 新規生産緑地の指定はなく、目標を下回った。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止) 引き続き毎年実施している生産緑地追加指定の周知・啓発に努める。	

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-3 都市の緑化 ■公共施設の緑化	担当課	みどり公園課
具体的な取組・事業	花と緑にあふれたまちづくりを推進するため、駅前広場、道路、公園、公共施設に花壇等を整備し、市民と協働による管理を推進します。		
事業内容	花とみどりにあふれたまちづくりを推進するために、ボランティア団体数の増加を目指します。		

実施結果(指標)

環境指標名	12	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
公園・緑地管理ボランティア団体数		目標	24団体	26団体	28団体	30団体
		実績	22団体	24団体	24団体	

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 新規の団体登録がなかった。今後についても周知に努め新規の団体登録を目指す。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止) 引き続き新規のボランティア団体を募集し、市民と協働による公園・緑地管理を目指す。	

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-3 都市の緑化 ■公共施設の緑化	担当課	道路整備課
具体的な取組・事業	花と緑にあふれたまちづくりを推進するため、駅前広場、道路、公園、公共施設に花壇等を整備し、市民と協働による管理を推進します。		
事業内容	道路愛護意識の向上を図るために、ボランティアで道路美化活動を行う市民団体等に植栽する花の苗等の配布支援を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	13	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
道路美化活動団体数		目標	24団体	25団体	26団体	27団体
		実績	25団体	24団体	24団体	

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 美化団体登録は目標値を下回ったが、現在登録がある美化団体で既設植栽の充実や清掃等の維持管理に努めた。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
今後の展開	引き続き道路美化団体の募集・受付を行い、市民と共同して、道路上の植栽や掃除などの維持管理を推進していく。	

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-3 都市の緑化 ■住宅地・民間施設の緑化	担当課	みどり公園課
具体的な取組・事業	生け垣等の新設や既設ブロック塀を撤去して生け垣等を設置する場合に必要な費用の一部を補助して生け垣等の設置を奨励し、住宅地の緑化を促します。		
事業内容	生け垣等の新設や既設ブロック塀を撤去して生け垣等を設置する場合に必要な費用の一部を補助して生け垣等の設置を奨励し、住宅地の緑化を促します。		

実施結果(指標)

環境指標名	14	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
生け垣等の設置延長(累計)		目標	538m	542m	546m	550m
		実績	542.1m	542.1m	559.6m	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 令和6年度において、生け垣設置の申請は1件であった。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
今後の展開	引き続き生け垣の補助金制度を周知し、市内民有地の緑化を推進する。	

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-4 みどり豊かな景観の形成 ■うるおいのある景観づくり	担当課	開発建築課
具体的な取組・事業	朝霞市景観計画に基づく届出制度を活用し、周辺の景観を大きく阻害しない施設づくりの誘導を推進します。また、地域の特性を生かした良好な景観づくりのため、景観づくり重点地区の指定などを推進し、朝霞らしい魅力ある景観づくりを進めます。		
事業内容	景観法及び朝霞市景観条例の規定に基づく届出の受理及び指導等を実施します。		

実施結果(指標)

環境指標名	15	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
景観計画の届出件数(年)		目標	170件	100件	100件	170件
		実績	210件	67件	34件	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<p>〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉</p> <p>景観法及び朝霞市景観条例の規定に基づく届出の受理及び指導について規定に抵触する計画は提出されていません。</p>		
今後の展開	<p><input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)</p> <p>引き続き、景観法及び朝霞市景観条例の規定に基づく届出の受理及び指導を実施していきます。</p>		

【個別目標】1-2 みどり豊かなまちをまもり育てる

実施施策	1-2-4 緑豊かな景観の形成 ■うるおいのある景観づくり	担当課	まちづくり推進課
具体的な取組・事業	朝霞市景観計画に基づく届出制度を活用し、周辺の景観を大きく阻害しない施設づくりの誘導を推進します。また、地域の特性を生かした良好な景観づくりのため、景観づくり重点地区の指定などを推進し、朝霞らしい魅力ある景観づくりを進めます。		
事業内容	景観計画の変更(届出基準の緩和)及び景観形成補助金の交付を実施します。		

実施結果(指標)

環境指標名	16	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
景観の満足度		目標	52%	53%	54%	55%
		実績	—	45%	48.8%	

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<p>〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉</p> <p>市民意識調査による「景観の満足度」は48.8%でしたが、景観計画の届出制度の運用により、良好な景観の誘導が図られました。また、景観づくり団体が実施した景観イベントなどに景観形成補助金を交付したことで、市民等による良好な景観の形成に資する事業を支援することができました。</p>		
今後の展開	<p><input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)</p> <p>景観計画における景観づくりの基本理念の実現に向けて計画を推進するとともに、景観審議会を適正に運営していく。また、景観づくりに関する情報の発信、意識の啓発、知識の普及等に加え、景観づくり団体、景観重要建造物、景観重要樹木を継続的に公募していく。</p>		

環境目標2 快適な生活環境の確保

事業概要	空気や水がきれいで静かなまちを維持するために、継続的な監視や対策を実施することにより安心できる生活環境の保全に努めます。快適で住み良いまちの実現に向けて、ごみのポイ捨てや不法投棄の防止など、環境美化に関する取組を推進します。
-------------	--

【個別目標】2-1 きれいな空気をまもる

実施施策	2-1-1 大気環境の保全 ■大気環境の監視、改善	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	大気汚染の状況を監視するため、大気中のダイオキシン類などの有害大気汚染物質の環境調査を継続的に実施します。また、化学物質による汚染状況を把握し、公表することにより市民の安心・安全を確保します。		
事業内容	委託により大気環境調査を実施するなど、大気の汚染状況を把握し、公表します。		

実施結果(指標)

環境指標名	17	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
大気調査結果(市内平均・二酸化窒素基準0.06ppm)		目標	0.06ppm以下	0.06ppm以下	0.06ppm以下	0.06ppm以下
		実績	0.06ppm以下	0.06ppm以下	0.06ppm以下	

分析・展開

判 定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 継続して大気調査を実施し、調査地点61地点すべてにおいて、夏季、冬季ともに目標値である環境基準である0.06ppm以下を満たしています。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)) 今後も大気調査を継続して行い、大気汚染の状況監視に努めます。		

【個別目標】2-1 きれいな空気をまもる

実施施策	2-1-1 大気環境の保全 ■大気環境の監視、改善	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	大気汚染の原因となるおそれがある工場などの事業所に対しては、県と連携して立入調査による監視や指導等に努めます。野焼きなど野外焼却は、有害物質を発生させ健康に影響を及ぼすことなどから、焼却しないよう指導・啓発に努めます。		
事業内容	県と連携し、立入調査を実施するなど、定期的にパトロールを実施し大気汚染の未然防止に努めます。		

実施結果(指標)

環境指標名	18	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
典型7公害苦情受付件数(年)		目標	9件	8件	7件	6件
		実績	9件	7件	4件	

分析・展開

判 定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 大気汚染の原因の恐れがある工場・事業所への立入調査、監視や夜間の定期パトロール等を実施しました。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)) 今後も継続して立入調査やパトロール、指導・啓発等を行い公害の発生予防に努めます。		

【個別目標】2-1 きれいな空気をまもる

実施施策	2-1-1 大気環境の保全 ■放射性物質の監視	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	放射性物質の状況を把握するため、空間放射線、水道水、焼却灰、農産物などの放射線量を継続的に測定して監視するとともに、情報提供を行い市民の安全を確保します。		
事業内容	所管課と連携し、空間放射線量を把握するとともにホームページにより市民への情報提供を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	19	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
空間放射線量測定回数(市役所・年)		目標	48回	48回	48回	48回
		実績	50回	49回	51回	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 市役所敷地内において毎週1回、継続的に放射線測定を実施しました。毎時0.19マイクロシーベルトを超えることはありませんでした。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)		
	今後も継続して放射線測定を実施し、空間放射線量の把握に努めます。		

【個別目標】2-2 きれいな水と土をまもる

実施施策	2-2-1 河川の水質保全 ■河川の水質の監視	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	新河岸川、黒目川、越戸川については、水質などの調査を継続的に実施することにより、河川の水質監視に努めます。		
事業内容	委託により水質調査を実施するなど、水質汚染の状況を把握し、公表します。		

実施結果(指標)

環境指標名	20	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
河川水質調査結果 (黒目川・BOD基準値5mg/ℓ)		目標	0.7mg/ℓ	0.7mg/ℓ	0.7mg/ℓ	0.7mg/ℓ
		実績	0.7mg/ℓ	0.9mg/ℓ	0.7mg/ℓ	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 令和5年度は若干目標値を超えていましたが、令和6年度は、目標値となった。		
今後の展開	<input type="checkbox"/> 現状通り推進 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)		
	今後も継続して水質調査を行い、水質監視に努めます。		

【個別目標】2-2 きれいな水と土をまもる

実施施策	2-2-1 河川の水質保全 ■生活排水処理施設整備の推進	担当課	下水道施設課
具体的な取組・事業	下水道整備区域での下水道への接続を進めています。また、市街化区域に編入された旧暫定逆線引き地区での下水道の整備を進めています。		
事業内容	汚水管の整備を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	21	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
汚水管整備率(下水道事業認可区域面積)		目標	97.90%	98.00%	98.00%	98.1%
		実績	97.90%	96.80%	98.00%	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 根岸台7丁目地内のおいて整備を進めることができたが、引き続き、旧暫定逆線引き地区での下水道整備を進める必要がある。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)) 引き続き、道路の整備等に合わせて、整備を行っていく。	

【個別目標】2-2 きれいな水と土をまもる

実施施策	2-2-2 地下水汚染・土壤汚染の防止 ■地下水汚染・土壤汚染の防止	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	地下水の水質を把握するため、井戸や湧水地の地下水調査を実施して、水質の監視を継続し、水質の保全に努めます。		
事業内容	委託により水質調査を実施するなど、水質汚染の状況を把握し、公表します。		

実施結果(指標)

環境指標名	22	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
地下水の水質調査 環境基準適合率		目標	100%	100%	100%	100%
		実績	97.9%	97.9%	100%	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 市内の地下水13地点に湧水1地点の計14地点45項目において、ローテーションにて継続して地下水調査を実施しました。全地点で基準に適合し、目標達成することができました。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)) 継続して地下水調査を実施し、水質汚濁の状況把握及び水質の保全に努めます。	

【個別目標】2-3 快適で住み良いまちをつくる

実施施策	2-3-3 環境美化の推進 ■散乱ごみ・不法投棄対策	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	不法投棄などの監視パトロールを行い、きれいなまちづくりを推進します。		
事業内容	不法投棄防止パトロールを委託し、不法投棄の防止と早期発見に努めます。		

実施結果(指標)

環境指標名	23	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
不法投棄物処理件数(年)		目標	400件	400件	400件	400件
		実績	368件	277件	352件	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 委託による監視パトロールを年24回実施したほか、日中は職員によるパトロールも適宜実施し、不法投棄の早期発見に務めることができました。また、看板や横断幕等の啓発物を設置することで不法投棄物防止対策に務めることができました。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止) 引き続き、監視パトロールや啓発物等の設置を継続し不法投棄物の減少を目指します。	

【個別目標】2-3 快適で住み良いまちをつくる

実施施策	2-3-3 環境美化の推進 ■散乱ごみ・不法投棄対策	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	市、市民・市民団体、事業者が協働できれいなまちづくり運動を行い、道路や河川敷に捨てられているごみ拾いなどの市内清掃を実施します。		
事業内容	春と秋の2回、きれいなまちづくり運動を実施します。		

実施結果(指標)

環境指標名	24	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
きれいなまちづくり運動のごみ回収量		目標	64.8t	63.2t	61.2t	60t
		実績	44.2t	37.6t	39.0t	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 春と秋2回の市内清掃を計画どおり実施することができました。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止) 引き続き、年2回の市内清掃を実施し、環境美化に取り組んでいきます。	

【個別目標】2-3 快適で住み良いまちをつくる

実施施策	2-3-3 環境美化の推進 ■放置自転車対策	担当課	まちづくり推進課
具体的な取組・事業	「朝霞市自転車等放置防止条例」に基づき、放置自転車の撤去などを進め、歩行者等の安全で円滑な通行の確保に努めます。		
事業内容	放置自転車禁止区域内において、定期的に放置自転車の撤去を実施します。		

実施結果(指標)

環境指標名	25	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
放置自転車等の撤去回数(年)		目標	20回	20回	20回	20回
		実績	20回	20回	20回	

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<説明:指標の進捗状況及び改善等>	
	計画どおり放置自転車の撤去を実施することができた。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
	引き続き放置自転車の撤去を計画的に実施し、安全で円滑な歩行空間の確保に努める。	

環境目標3 脱炭素・循環型社会の推進

事業概要	脱炭素・循環型社会の構築に向けて、再生可能エネルギーの普及や温室効果ガスの排出抑制、気候変動の影響を低減するための適応策に取り組みます。また、ごみの減量や再資源化など3Rに対する意識啓発や環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を促進し、環境に配慮したまちづくりを進めます。
-------------	--

【個別目標】3-1 クリーンなエネルギーをつくる

実施施策	3-1-1 再生可能エネルギーの普及促進 ■住宅用太陽光発電等設置の普及促進	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	既存住宅に対して太陽光発電システム、家庭用燃料電池、定置用リチウムイオン蓄電池の設置費用を補助することにより、再生可能エネルギー利用の普及促進と支援に努めます。		
事業内容	太陽光発電システム、家庭用燃料電池、定置用リチウムイオン蓄電池及び雨水貯留槽の設置について広報等で普及啓発するとともに、設置に係る費用の一部を補助します。		

実施結果(指標)

環境指標名	26	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
住宅用太陽光パネル設置補助延べ件数		目標	1,013件	1,035件	1,058件	1,080件
		実績	1,015件	1,040件	1,067件	

分析・展開

判 定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<説明:指標の進捗状況及び改善等>	
	目標の補助件数は達成し、補助制度が市民に十分活用され、クリーンエネルギー導入の一助となっています。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
	今後も、補助制度を継続し、再生可能エネルギー利用の普及促進に努めます。	

【個別目標】3-1 クリーンなエネルギーをつくる

実施施策	3-1-2 公共施設への再生可能エネルギーの導入促進 ■公共施設の太陽光発電等の導入	担当課	施設所管課 (取りまとめ:環境推進課)
具体的な取組・事業	公共施設における太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入と電力の施設内利用を進めます。		
事業内容	公共施設での太陽光発電システムの運用及び公共施設の屋根貸しでクリーンエネルギーの普及啓発を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	27	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
公共施設の太陽光発電の導入数		目標	15箇所	15箇所	15箇所	15箇所
		実績	15箇所	15箇所	17箇所	

分析・展開

判 定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<説明:指標の進捗状況及び改善等>	
	継続して公共施設での太陽光発電システムの運用ができました。	
今後の展開	<input type="checkbox"/> 現状通り推進 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
	今後は、公共施設へのさらなる再生可能エネルギーの導入についての検討、実施に努めます。	

【個別目標】3-1 クリーンなエネルギーをつくる

実施施策	3-1-2 公共施設への再生可能エネルギーの導入促進 ■公共施設の太陽光発電等の導入			担当課	水道施設課
具体的な取組・事業	安定した流量・圧力で流入する県水を活用して発電用水車を回転させ発電を推進します。				
事業内容	安定した流量・圧力で流入する県水を活用して発電用水車を回転させ発電を行います。発電した電力は、共同事業者が再生可能エネルギーとして電力会社に売電します。				

実施結果(指標)

環境指標名	28	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
小水力発電量(年)		目標	467,000kwh	467,000kwh	467,000kwh	467,000kwh
		実績	469,086kwh	467,442kwh	483,829kwh	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<説明:指標の進捗状況及び改善等>	
	設備の停止が生じた場合には、迅速な復旧が必要である。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止))	
	目標としては良いが、昨今の落雷の影響により、今後の目標には懸念がある。	

【個別目標】3-2 省エネルギー・省資源をすすめる

実施施策	3-2-1 環境に配慮した行動の推進 ■エコライフ・省エネルギーの普及・促進			担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	脱炭素社会の実現に向け、国が取り組んでいる「COOL CHOICE」や県の「エコライフDAY」の参加等の周知啓発を図るなど、市民・事業者の省エネ・省資源行動の普及促進に努めます。				
事業内容	地球温暖化対策防止に係る啓発(ホームページ・広報等)及び、職員に対し県の「エコライフDAY」等を実施します。				

実施結果(指標)

環境指標名	29	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
エコライフDAY チェックシート回収率		目標	100%	100%	100%	100%
		実績	94.1%	91.3%	91.5%	

分析・展開

判定	C	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<説明:指標の進捗状況及び改善等>	
	年2回全職員を対象にエコライフDAY & WEEKを実施し、エコへの意識づけをすることができましたが、昨年より上回ったものの目標値を下回りました。	
今後の展開	<input type="checkbox"/> 現状通り推進 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止))	
	目標の回収率の100%を目指し、職員への周知・啓発をしてまいります。また、市民等に対し省エネ・省資源行動の普及に努めます。	

【個別目標】3－2 省エネルギー・省資源をすすめる

実施施策	3－2－1 環境に配慮した行動の推進 ■エコライフ・省エネルギーの普及・促進	担当課	開発建築課
具体的な取組・事業	耐久性や耐震性が高く、省エネルギー性能に優れた長く住み続けられる優良な住宅の建設を促進するため、長期優良住宅の普及・啓発に努めます。低炭素のための措置を講じられた建築物の建設を促進するため、低炭素建築物の普及・啓発に努めます。建築物のエネルギー消費性能の向上を図るため、建築物エネルギー消費性能基準に適合する住宅の認定の普及・啓発に努めます。		
事業内容	開発物件等に対して事業者に周知するほか、住宅建築相談窓口の設置、パンフレットの配布及びホームページの掲載を実施します。		

実施結果(指標)

環境指標名	30	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
長期優良住宅、 低炭素建築物、 建築物省エネ住宅の 認定数(年)		目標	(長)52件 (低) 6件 (省) 1件	(長)52件 (低) 6件 (省) 1件	(長)56件 (低) 8件 (省) 1件	(長)56件 (低) 8件 (省) 1件
		実績	(長)70件 (低)12件 (省) 2件	(長)53件 (低)1件 (省)0件	(長)72件 (低)0件 (省)0件	

分析・展開

判 定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 目標値を達成することができたことから、次年度以降についても引き続き制度の周知啓発を行っていきます。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
	今後についても、エネルギーの消費性能に優れた、長期優良住宅や、低炭素建築物、建築物エネルギー消費性能に適合する建築物が普及していくよう、引き続き制度の周知啓発に努めます。	

【個別目標】3－2 省エネルギー・省資源をすすめる

実施施策	3－2－1 環境に配慮した行動の推進 ■地球温暖化対策実行計画の推進	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	市の事務事業から排出する温室効果ガスを削減するため「朝霞市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」に基づき、省エネ・省資源対策を推進し、温室効果ガス排出量の削減に努めます。		
事業内容	実行計画(事務事業編)の運用マニュアルを策定し、職員への温室効果ガス削減の取組行動を推進します。		

実施結果(指標)

環境指標名	31	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
市事務事業の二酸化炭素(CO2)排出量の削減率		目標	△9.0%	△3.1%	2.8%	8.6%
		実績	4.5%	12.08%	5.48%	

分析・展開

判 定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 CO2削減率は、昨年に引き続き、目標が達成できましたが、電気使用量の増加等により、昨年度より削減率が減少し、令和7年度末までの中間目標は上回ることができませんでした。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
	市事務事業となりますので、引き続きCO2削減に向けてまいります。	

【個別目標】3-2 省エネルギー・省資源をすすめる

実施施策	3-2-2 水の有効利用 ■節水の啓発			担当課	上下水道総務課
具体的な取組・事業	節水と水の有効利用に関する普及啓発を進め、節水意識の向上を推進します。				
事業内容	広報紙や懸垂幕による節水の啓発を実施します。				

実施結果(指標)

環境指標名	32	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
水道使用量(年)		目標	1,595万m³	1,602万m³	1,609万m³	1,610万m³
		実績	1,520万m³	1,529万m³	1,548万m³	

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 広報誌や懸垂幕での節水の啓発により目標の水道使用量を達成することができました。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止) 引き続き広報誌や懸垂幕等での啓発を推進します。	

【個別目標】3-2 省エネルギー・省資源をすすめる

実施施策	3-2-2 水の有効利用 ■節水の啓発			担当課	上下水道総務課
具体的な取組・事業	節水と水の有効利用に関する普及啓発を進め、節水意識の向上を推進します。				
事業内容	広報紙や懸垂幕による節水の啓発を実施します。				

実施結果(指標)

環境指標名	33	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
1人1日当たりの水道使用量		目標	302ℓ	302ℓ	302ℓ	303ℓ
		実績	289ℓ	287ℓ	291ℓ	

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 広報誌や懸垂幕での節水の啓発により目標の水道使用量を達成することができました。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止) 引き続き広報誌や懸垂幕での啓発を推進します。	

【個別目標】3-2 省エネルギー・省資源をすすめる

実施施策	3-2-2 水の有効利用 ■雨水の利用	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	雨水の再利用ができる雨水貯留槽の設置費用に対して補助することにより、水資源の有効利用の普及と支援に努めます。		
事業内容	雨水貯留槽の設置について広報等で普及啓発するとともに、設置費用に係る費用の一部を補助します。		

実施結果(指標)

環境指標名	34	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
雨水貯留槽設置費 補助延べ件数		目標	28件	31件	33件	35件
		実績	28件	29件	31件	

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 令和6年度の補助申請が2件の増加であったため、目標の33件になりませんでした。	
今後の展開	<input type="checkbox"/> 現状通り推進 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止) 補助件数を増やすため、さらなる制度の周知を図ります。	

【個別目標】3-3 地球に負荷の少ないまちをつくる

実施施策	3-3-1 環境に配慮した移動手段の推進 ■次世代自動車の普及促進	担当課	財産管理課
具体的な取組・事業	公用車に対して、省エネ性能が高く環境への負荷が少ない次世代自動車の導入を進めます。		
事業内容	次世代自動車(ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、電気自動車、燃料電池自動車)の導入を進めます。		

実施結果(指標)

環境指標名	35	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
公用車の次世代自動車の導入		目標	0台	5台	3台	5台
		実績	0台	2台	0台	

分析・展開

判定	C	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 目標達成に向けて順調に進めることができなかった。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止) 今後も引き続き次世代自動車の導入を続ける。	

【個別目標】3－3 地球に負荷の少ないまちをつくる

実施施策	3－3－1 環境に配慮した移動手段の推進 ■次世代自動車の普及促進			担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	電気自動車用急速充電器の設置や利用促進を啓発することにより、電気自動車の普及を推進します。				
事業内容	急速充電器の維持管理を行うとともにホームページ等で利用の促進を行います。				

実施結果(指標)

環境指標名	36	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
電気自動車用急速充電器の利用件数(年)		目標	800件	1,000件	1,000件	1,000件
		実績	1,072件	1,727件	1,667件	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 市役所に電気自動車用急速充電器が24時間利用できることが認識され、利用実績の増加につながりました。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)		
	継続して電気自動車用急速充電器の運用、利用促進の啓発に努めます。		

【個別目標】3－3 地球に負荷の少ないまちをつくる

実施施策	3－3－2 コンパクトで利便性の高い生活環境整備 ■広域交通ネットワーク形成			担当課	まちづくり推進課
具体的な取組・事業	公共交通空白地区を改善し、市内の面的な公共交通ネットワークの形成など、市民や交通事業者等と一体となって「守り、支え、育てる」持続可能な公共交通の構築に努めます。				
事業内容	路線バスが運行していない地区を補完するため、市内循環バスを運行するとともに、公共交通空白地区的改善については、新たな公共交通の導入に向け、地域組織と協働して検討していきます。				

実施結果(指標)

環境指標名	37	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
市内循環バス利用者数(年)		目標	341,000人	347,000人	353,000人	359,000人
		実績	379,307人	386,520人	374,299人	

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 市内循環バス利用者については、令和6年4月からの運転手の労働時間規制に対応するため、終バスの繰り上げなど運行本数が減少した結果、利用者数も減少したものの、目標値を達成することができた。また、公共交通空白地区的改善については、地域組織と協働し、令和6年12月から1年間の実証運行を開始した。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)		
	引き続き、持続可能な地域公共交通ネットワークを構築するため、市内循環バスの運行を継続するほか、公共交通空白地区的改善等、各種施策を推進する。		

【個別目標】3-4 資源を大切に、繰り返し使う

実施施策	3-4-1 廃棄物の排出抑制の推進 ■3Rの推進			担当課	資源リサイクル課
具体的な取組・事業	市、市民・市民団体、事業者の協働により、3R(Reduce(リデュース):ごみを減らす、Reuse(リユース):再使用する、Recycle(リサイクル):再生利用する)の活動を推進します。				
事業内容	3R活動普及に向け、広報やホームページ等により啓発を行います。地域リサイクル活動推進補助金事業を実施します。				

実施結果(指標)

環境指標名	38	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
市民1人当たり1日 のごみ排出量		目標	483g	476g	469g	462g
		実績	558g	532g	524g	

分析・展開

判定	C	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 ごみの減量化に向けた各種啓発事業の実施や分別冊子・チラシの配布、ポスター掲示等を行い啓発に努めたが、目標達成には至らなかった。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)) 今後も目標達成につながる事業実施の方法等を模索しながら、ごみの適正な分別・排出に向けた啓発を行い、ごみの減量化を目指す。	

【個別目標】3-4 資源を大切に、繰り返し使う

実施施策	3-4-1 廃棄物の排出抑制の推進 ■事業者に対する適正排出・適正処理の指導			担当課	資源リサイクル課
具体的な取組・事業	適正な分別による再資源化の推進や適正な排出方法について指導・啓発を強化します。				
事業内容	事業ごみの減量化、資源化を図るため、事業系ごみ削減キャンペーンの実施や、ホームページへの掲載、事業用パンフレットの配布により、事業者への意識啓発を図るほか、大規模事業者の実地検査を行い、ごみの減量・再資源化を推進します。				

実施結果(指標)

環境指標名	39	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
事業ごみの年間排出量		目標	6,804t	6,804t	6,804t	6,804t
		実績	7,372t	7,241t	7,354t	

分析・展開

判定	C	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 広報あさか、市ホームページへ事業ごみの削減、再資源化に関する情報の掲載や事業所から出るごみの出し方を掲載したパンフレットを作成し、10月の事業ごみ削減キャンペーン時に市内事業者へ配布。また、大規模事業所への立入検査、適正に排出されていない事業所への指導を実施したが目標達成には至らなかった。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)) 今後も目標達成につながる啓発事業の実施や事業所への指導強化を図り、事業ごみの減量化を目指す。	

【個別目標】3-4 資源を大切に、繰り返し使う

実施施策	3-4-2 資源化の推進 ■地域リサイクル団体活動の推進	担当課	資源リサイクル課
具体的な取組・事業	ごみの減量化・再資源化を進めていくために、市民や市民団体等の協力のもと、地域リサイクル活動(集団資源回収等)などを推進します。		
事業内容	回収量に応じて補助金を交付し、市民の方々による自主的な地域環境保全活動を援助します。 制度の利用促進及び活動団体募集のための啓発活動を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	40	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
ごみの再生利用率		目標	37.3%	37.6%	37.9%	38.2%
		実績	30.9%	31.7%	31.6%	

分析・展開

判定	C	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 補助金登録団体数は前年度と変わらないが、交付団体数、資源回収量は減少した。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
	資源回収量を増やすためには登録団体数、交付団体数の増加が効果的であるため、引き続き啓発等に努める。	

【個別目標】3-4 資源を大切に、繰り返し使う

実施施策	3-4-3 廃棄物の適正処理の推進 ■適正処理の推進	担当課	資源リサイクル課
具体的な取組・事業	一般廃棄物処理基本計画に基づき、廃棄物の排出抑制、資源化、収集・運搬などを進めます。また、社会情勢の変化等があった場合、必要に応じて計画を見直します。 市民、事業者等に対しごみの減量・分別についての啓発活動に努めます。		
事業内容	ごみの出し方等を掲載した啓発冊子やパンフレット、啓発品を作成し配布します。 ごみ分別キャンペーンを行い、適正な廃棄物排出方法を啓発します。 ごみ集積所及び資源物持ち去り防止監視パトロールを実施します。		

実施結果(指標)

環境指標名	41	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
ごみ焼却処理量(年)		目標	23,000t	23,000t	22,000t	22,000t
		実績	27,103t	26,508t	26,249t	

分析・展開

判定	C	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 職員によるパトロールや分別が不適正な集積所周辺には外国人向けも含めた分別冊子やチラシ等の配布、各種啓発事業を実施したが、目標達成には至らなかった。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
	今後も目標達成につながる事業実施の方法等を模索しながら、ごみの適正な分別・排出に向けた啓発を行い、ごみの減量化を目指す。	

【個別目標】3－5 気候の変化に備える

実施施策	3－5－2 気候変動への適応策の推進 ■自然災害分野	担当課	施設所管課 (取りまとめ:環境推進課)
具体的な取組・事業	浸水被害軽減のため、一定規模以上の開発行為に対し、雨水貯留浸透施設の設置を義務付け、雨水流出抑制を推進します。		
事業内容	既存の雨水貯留浸透施設を維持管理し、雨水流出抑制を推進するとともに、溝沼地内に調整池を築造しています。		

実施結果(指標)

環境指標名	42	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
公共施設等雨水貯留浸透施設設置箇所数		目標	12箇所	13箇所	14箇所	15箇所
		実績	12箇所	12箇所	12箇所	

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<説明:指標の進捗状況及び改善等>	
	公共施設等の雨水貯留浸透施設を適切に維持管理することができました。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)) 今後も継続して適切な維持管理に努めています。	

【個別目標】3－5 気候の変化に備える

実施施策	3－5－2 気候変動への適応策の推進 ■自然災害分野	担当課	下水道施設課
具体的な取組・事業	下水道の排水能力を上回る局地的な豪雨が多発するとともに、下水道施設の老朽化が進んでいることから、計画的に更新事業を進めます。		
事業内容	雨水管の整備を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	43	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
雨水管整備率		目標	94.7%	94.7%	94.8%	94.9%
		実績	94.6%	93.5%	93.5%	

分析・展開

判定	B	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<説明:指標の進捗状況及び改善等>	
	現在、重点対策地区である溝沼地区を対象に雨水対策として、令和3年度から調整池の整備を進めており、令和7年度までに、ポンプ施設や雨水管の整備を行っていく。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)) 引き続き、溝沼地区の雨水対策を進めていく。	

【個別目標】3－5 気候の変化に備える

実施施策	3－5－2 気候変動への適応策の推進 ■自然災害分野	担当課	下水道施設課
具体的な取組・事業	浸水被害軽減のため、一定規模以上の開発行為に対し、雨水貯留浸透施設の設置を義務付け、雨水流出抑制を推進します。		
事業内容	開発行為が行われる際に、雨水浸透ますの設置や雨水貯留槽・浸透トレーニングの設置の指導を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	44	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
開発事業件数に対する雨水流出抑制施設設置割合(再掲)		目標	100%	100%	100%	100%
		実績	100%	100%	100%	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 開発行為の申請の際に、雨水浸透樹の設置や雨水貯留槽・浸透トレーニングの設置を指導したことにより、雨水流出抑制施設の設置を進めることができた。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
	引き続き、開発行為を行うものに対し、雨水流出抑制施設の設置を指導し、設置を進めていく。	

【個別目標】3－5 気候の変化に備える

実施施策	3－5－2 気候変動への適応策の推進 ■健康分野	担当課	健康づくり課
具体的な取組・事業	暑さ指数(WBGT)等の気象情報を提供するとともに、クールオアシスの設置等を進め、熱中症の注意喚起や予防に努めます。		
事業内容	広報あさか、市ホームページや朝霞駅前電光掲示板で熱中症に関する注意喚起を行います。 また、埼玉県に熱中症警戒アラートが発令された際には、所管施設へ情報提供を行うほか、ホームページ、X(旧:ツイッター)、フェイスブックや防災行政無線により注意喚起を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	45	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
熱中症警戒アラートの発令に伴う情報発信(注意喚起)		目標	100%	100%	100%	100%
		実績	100%	100%	100%	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 ホームページで注意喚起を行ったほか、「熱中症対策期間」と位置づけている6月から9月までの4か月間は各種対策を実施しました。また、令和6年度は熱中症警戒アラートが計23回発令され、全てにおいて情報提供等の注意喚起を実施することができました。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
	引き続き注意喚起を行うとともに、随時ホームページで熱中症に関する最新情報を提供していきます。	

【個別目標】3－5 気候の変化に備える

実施施策	3－5－2 気候変動への適応策の推進 ■市民生活・都市生活分野(ヒートアイランド対策等)	担当課 (取りまとめ:環境推進課)
具体的な取組・事業	屋上緑化、壁面緑化、緑のカーテンの設置等、緑が持つ多面的な機能を生かして、都市のヒートアイランド化の抑制と都市気候の緩和を図ります。	
事業内容	ヒートアイランド対策として、市の施設において屋上緑化に取組みます。	

実施結果(指標)

環境指標名	46	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
公共施設の屋上緑化箇所数		目標	14箇所	14箇所	14箇所	14箇所
		実績	13箇所	14箇所	14箇所	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 屋上緑化を適正に維持管理することができました。また、公共施設の利用者からも大変好評であり、景観向上を図ることができました。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
	引き続き、適正な維持管理に努め、緑化を推進していきます。	

【個別目標】3－5 気候の変化に備える

実施施策	3－5－2 気候変動への適応策の推進 ■市民生活・都市生活分野(ヒートアイランド対策等)	担当課 (取りまとめ:環境推進課)
具体的な取組・事業	屋上緑化、壁面緑化、緑のカーテンの設置等、緑が持つ多面的な機能を生かして、都市のヒートアイランド化の抑制と都市気候の緩和を図ります。	
事業内容	ヒートアイランド対策として、市の施設において壁面緑化に取組みます。	

実施結果(指標)

環境指標名	47	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
公共施設の壁面緑化箇所数		目標	26箇所	26箇所	26箇所	26箇所
		実績	22箇所	23箇所	23箇所	

分析・展開

判定	C	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 休止している施設があつたため、令和5年度より2箇所減りました。ただ、新たに導入した朝霞第6小学校及び朝霞第9小学校が増えましたが、目標を達成することはできませんでした。例年実施している公共施設では前年度と変わらず既存の壁面緑化を適正に維持管理することができました。	
今後の展開	<input type="checkbox"/> 現状通り推進 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
	今後は目標達成に向けて、公共施設における壁面緑化導入促進の啓発に努めます。	

環境目標4 パートナーシップによる環境活動の推進

事業概要	環境を学ぶ機会を増やすとともに、環境情報の発信を通して、市民の環境意識の向上を図ります。市、市民・市民団体、事業者と協働した環境パートナーシップによる環境保全活動や活動団体の育成を行い、環境教育・環境学習の普及啓発を推進していきます。
------	---

【個別目標】4-1 環境についてみんなで学ぶ

実施施策	4-1-1 環境教育や環境学習の機会の提供 ■環境教育や環境学習の機会の提供	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	広報等を通じて環境に関する普及・啓発を行うとともに、年次報告書「朝霞の環境」を作成し、朝霞市や市をとりまく環境問題への理解を深め、その周知と啓発に努めます。		
事業内容	年次報告書「朝霞の環境」及び「第3次朝霞市環境基本計画 実施計画」を作成し、閲覧用に公共施設等に配布するほか、広報をはじめホームページ・X(旧:ツイッター)を活用し周知啓発に努めます。		

実施結果(指標)

環境指標名	48	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値	
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度		
環境政策に係る報告書の発行		目標	2種類	2種類	2種類	2種類	
		実績	2種類	2種類	2種類		

分析・展開

判 定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<説明:指標の進捗状況及び改善等> 計画どおり「朝霞の環境」及び「実施計画書」を作成し、「朝霞の環境」については、図書館・北朝霞分館、各公民館、市政情報コーナー等30箇所に配布したほか、ホームページ等に掲載し、環境情報の発信と啓発に努めました。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)) 引き続き、「朝霞の環境」及び「実施計画書」を作成するとともに、ホームページ等で市民に向けて情報発信を行い、環境学習の推進を図ります。		

【個別目標】4-1 環境についてみんなで学ぶ

実施施策	4-1-1 環境教育や環境学習の機会の提供 ■環境教育や環境学習の機会の提供	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	市内の小学生を対象とした環境美化ポスターの募集を通して、子どもたちの環境美化への関心を高めます。		
事業内容	小学校3年生、6年生を対象に夏休みの宿題として環境美化ポスターを募集し、環境についての学習機会を提供します。		

実施結果(指標)

環境指標名	49	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値	
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度		
環境美化ポスター応募者数		目標	200人	200人	200人	200人	
		実績	229人	251人	272人		

分析・展開

判 定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<説明:指標の進捗状況及び改善等> 前年を上回る272人(3年生158点、6年生114点)の応募があり、目標を達成することができました。入選作品については、市民の目に届くように広報紙に掲載したほか、市内公共施設に展示し、環境美化の啓発に取り組むことができました。また、入選作品を啓発看板にして市内(北朝霞・朝霞台駅周辺、黒目川各橋、ドッグラン)に設置し、市民の環境美化意識の向上を図りました。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)) 引き続き、小学生の夏休みの宿題として環境美化ポスターを募集することで、子供たちの環境への意識向上に取り組みます。		

【個別目標】4-1 環境についてみんなで学ぶ

実施施策	4-1-2 環境情報の発信と普及啓発 ■環境情報の収集と発信	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	環境に関する学びやイベント等の情報収集を行い、広報等での周知に努めます。		
事業内容	広報あさかをはじめX(旧:ツイッター)、ホームページなどを活用し、環境に関する情報発信を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	50	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
環境関連情報の発信(年)		目標	30回	30回	30回	30回
		実績	245回	191回	118回	

分析・展開

判定	A	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 6月の環境月間にX(旧:ツイッター)を毎日投稿したほか、ホームページ等も定期的に更新をし、市民に向けて環境情報の発信をすることができました。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止))		
	引き続き、広報、ホームページ、X(旧:ツイッター)を利用して環境情報の発信に取り組んでいきます。		

【個別目標】4-1 環境についてみんなで学ぶ

実施施策	4-1-2 環境情報の発信と普及啓発 ■環境情報の収集と発信	担当課	資源リサイクル課
具体的な取組・事業	リサイクルプラザでの環境学習の普及、朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会との連携の充実・支援を行います。		
事業内容	朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会と連携し、3R推進等に関する講座を実施します。		

実施結果(指標)

環境指標名	51	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
リサイクルプラザでの講座参加者数(年)		目標	150人	150人	150人	150人
		実績	45人	89人	54人	

分析・展開

判定	C	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている	
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	〈説明:指標の進捗状況及び改善等〉 「リサイクルプラザ企画運営協議会」が企画・実施する講座について、講座の内容やPR等の有効な手法について、市と協議し実施しましたが目標達成には至りませんでした。		
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止))		
	ごみの減量や環境情報の発信のため、多くの市民の方に参加していただくよう講座内容の充実を図り、目標の達成に向けて取り組んでいきます。		

【個別目標】4-2 環境活動にみんなで参加し行動する

実施施策	4-2-1 市民団体の環境保全活動支援 ■環境に関する有識者等の活用	担当課	環境推進課
具体的な取組・事業	環境団体や環境に関する有識者等を活用して、学校や地域、家庭や職場での環境学習を推進します。また、自然観察や体験学習、環境保全活動を支援する人材の育成と活動支援に努めます。		
事業内容	環境に関する講座等を開催するとともに、市民団体等の活動支援としてイベント等の情報発信を行います。		

実施結果(指標)

環境指標名	52	年度	各年度目標			令和7(2025)年度 中間目標値
			令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	
環境講座の開催数 (年)	目標	2回	2回	2回	2回	
	実績	1回	2回	1回		

分析・展開

判定	C	A 極めて順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 大幅に遅れている
実績評価 (目標達成までの進捗状況)	<説明:指標の進捗状況及び改善等>	
	1月に朝霞第三小学校の5年生4クラスを対象に市職員にて地球温暖化対策についての講座を実施したが、目標達成には至らなかった。	
今後の展開	<input checked="" type="checkbox"/> 現状通り推進 <input type="checkbox"/> 拡大・拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他(廃止)	
	環境団体等と連携して、市民に向けてより環境に関する講座の機会を提供できるよう努めます。	

○第3次環境基本計画における環境指標一覧

1 自然と人との共生

実施施策		No	環境指標名	単位	現状値 令和2年度 (2020年度)	中間目標値 令和7年度 (2025年度)	目標値 令和13年度 (2031年度)
1-1 生き物が すめる環境を大 切 にする	1-1-1	1	開発事業件数に対する雨水流出 抑制施設設置割合	%	100	100	100
	1-1-2	2	特別緑地保全地区数	箇所	5	5	5
	1-1-3	3	生物多様性市民懇談会の開催回 数(年)	回	0*	1	1
1-2 みどり豊かなまち をまもりそだてる	1-2-1	4	市内全域における緑被面積の割 合	%	36.1	37.0	37.0
	1-2-1	5	保護地区面積	ha	9	9	9
	1-2-1	6	保護樹木本数	本	91	91	91
	1-2-1	7	都市公園数	箇所	41	44	45
	1-2-1	8	1人当たりの公園面積 (公園面積/人口)	m ²	2.12	3.60	3.60
	1-2-2	9	市民農園利用区画数	区画	515	450	450
	1-2-2	10	農業体験参加人数	人	0*	1,500	1,500
	1-2-2	11	生産緑地地区指定数(年)	箇所	2	2	2
	1-2-3	12	公園・緑地管理ボランティア団 体数	団体	21	30	35
	1-2-3	13	道路美化活動団体数	団体	25	27	29
	1-2-3	14	生け垣等の設置延長(累計)	m	536	550	567
	1-2-4	15	景観計画の届出件数(年)	件	170	170	170
	1-2-4	16	景観の満足度	%	49.9 (令和元年度)	55	60

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

2 快適な生活環境の確保

実施施策		No	環境指標名	単位	現状値 令和2年度 (2020年度)	中間目標値 令和7年度 (2025年度)	目標値 令和13年度 (2031年度)
2-1 きれいな 空気をまもる	2-1-1	17	大気調査結果(市内平均・二酸 化窒素基準0.06ppm)	ppm	0.06以下	0.06以下	0.06以下
	2-1-1	18	典型7公害苦情受付件数(年)	件	10	6	5
	2-1-1	19	空間放射線量測定回数 (市役所・年)	回	48	48	48
2-2 きれいな 水と土をまもる	2-2-1	20	河川水質調査結果 (黒目川・BOD基準値5mg/l)	mg/l	0.7	0.7	0.7
	2-2-1	21	汚水管整備率(下水道事業認可 区域面積)	%	97.8	98.1	98.4
	2-2-2	22	地下水の水質調査環境基準適合 率	%	97.6	100.0	100.0
2-3 快適で住み良い まちをつくる	2-3-3	23	不法投棄物処理件数(年)	件	487	400	380
	2-3-3	24	きれいなまちづくり運動のごみ 回収量	t	26*	60	50
	2-3-3	25	放置自転車等の撤去回数(年)	回	25	25	25

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため春は中止

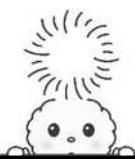
3 脱炭素・循環型社会の推進

実施施策		No	環境指標名	単位	現状値 令和2年度 (2020年度)	中間目標値 令和7年度 (2025年度)	目標値 令和13年度 (2031年度)
3-1 クリーンな エネルギーをつくる	3-1-1	26	住宅用太陽光パネル設置補助 延べ件数	件	976	1,080	1,200
	3-1-2	27	公共施設の太陽光発電の導入 数	箇所	15	公共施設の新設や検討委員会等 で決定した大規模改修などに合 わせ導入を進める	
	3-1-2	28	小水力発電量(年)	kWh	467,000	467,000	467,000
3-2 省エネルギー・ 省資源をすすめる	3-2-1	29	エコライフDAYチェックシ ート回収率	%	94.4	100	100
	3-2-1	30	長期優良住宅、低炭素建築物、 建築物省エネ住宅の認定数 (年)	件	(長) 58 (低) 6 (省) 0	(長) 56 (低) 8 (省) 1	(長) 56 (低) 8 (省) 1
	3-2-1	31	市事務事業の二酸化炭素(CO ₂) 排出量の削減率	%	1.68	第4次朝霞市地球温暖化対策実 行計画(事務事業編)の削減率	
	3-2-2	32	水道使用量(年)	万m ³	1,587	1,610	1,625
	3-2-2	33	1人1日当たりの水道使用量	l	303	303	303
	3-2-2	34	雨水貯留槽設置費補助延べ件 数	件	22	35	50
3-3 地球に負荷の少ない まちをつくる	3-3-1	35	公用車の次世代自動車の導入	台	4	5	5
	3-3-1	36	電気自動車用急速充電器の利 用件数(年)	件	62	350	700
	3-3-2	37	市内循環バス利用者数(年)	人	291,774	346,000	382,000
3-4 資源を大切に、 繰り返し使う	3-4-1	38	市民1人当たり1日のごみ排 出量	g	592	462	399
	3-4-1	39	事業ごみの年間排出量	t	6,815	6,804	6,804
	3-4-2	40	ごみの再生利用率	%	33.3	38.2	40.5
	3-4-3	41	ごみ焼却処理量(年)	t	26,826	22,000	20,500
3-5 気候の変化に備える	3-5-2	42	公共施設等雨水貯留浸透施設 設置箇所数	箇所	12	15	16
	3-5-2	43	雨水管整備率	%	94.6	94.9	95.2
	3-5-2	44	開発事業件数に対する雨水流 出抑制施設設置割合(再掲)	%	100	100	100
	3-5-2	45	熱中症警戒アラートの発令に 伴う情報発信(注意喚起)	%	100	100	100
	3-5-2	46	公共施設の屋上緑化箇所数	箇所	14	14	14
	3-5-2	47	公共施設の壁面緑化箇所数	箇所	26	26	26

4 パートナーシップによる環境活動の推進

実施施策		No	環境指標名	単位	現状値 令和2年度 (2020年度)	中間目標値 令和7年度 (2025年度)	目標値 令和13年度 (2031年度)
4-1 環境について みんなで学ぶ	4-1-1	48	環境政策に係る報告書の発行	種類	2	2	2
	4-1-1	49	環境美化ポスター応募者数	人	0*	200	220
	4-1-2	50	環境関連情報の発信(年)	回	28	30	31
	4-1-2	51	リサイクルプラザでの講座参 加者数(年)	人	21	150	150
4-2 環境活動にみんなで 参加し行動する	4-2-1	52	環境講座の開催数(年)	回	0*	2	3

*新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止



©むさしのフロントあさか

第3次朝霞市環境基本計画 実施計画（令和6年度実績版）

【令和4年度～令和7年度】

みんなでつくる 水とみどりが豊かな 環境にやさしいまち 朝霞

令和7年 月発行

朝霞市 市民環境部 環境推進課

〒351-8501 朝霞市本町1丁目1番1号

電話 048-463-1504（直通）

URL <http://www.city.asaka.lg.jp/>